

## 2. 「日本の地域別将来推計人口」をもとにした将来展望

### 2.1. 目的

令和7年度の「三重県人口ビジョン」（平成27年度策定）の改定を見据え、必要となるデータ・資料の分析を目的として、将来人口の推計を実施した。

### 2.2. 三重県全体の将来人口推計

#### 2.2.1. 将来人口推計の方法

令和5年12月に社人研から公表された社人研推計をもとに、三重県全体の将来人口の推計を行った。将来人口推計にあたっては、三重県の女性の結婚・出産の希望を叶えることによって人口減少のスピードを緩和することを想定し、①「三重県に居住する女性の結婚・出産の希望がすべて叶う場合」、基本は①としたうえで、②「行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合」のそれぞれについて、三重県全体の合計特殊出生率の仮定値を算出した。算出した仮定値の到達年次を2070年、2080年とし、計4パターンで推計を行った（各パターンの詳細に関しては図表2-1参照）。

三重県全体の合計特殊出生率の仮定値については、「みえ県民1万人アンケート」より、結婚を希望する女性の割合や希望する子ども数をもとに算出を行った。

算出した仮定値への到達年次は、社人研の「日本の将来人口推計」が2070年までの推計であることを踏まえて2070年に設定した。また、県の人口減少対策元年と位置付けている2022年から、施策を打ち、効果が出始めるまでの期間を5年程度（出会いから結婚までの平均期間）とし、効果が出始めてから約50年をかけて目標達成することを想定して2080年に設定した。到達年次までの各年の合計特殊出生率の上昇率に関しては、社人研推計における出生高位推計<sup>1</sup>の上昇比率を参考にして設定した。

---

<sup>1</sup> 国立社会保障・人口問題研究所 令和5年度推計報告書（[https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp2023\\_Report2c.pdf](https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp2023_Report2c.pdf)）p80（2025年3月9日閲覧）

図表 2-1 三重県全体の将来人口推計のパターンの考え方

推計の考え方	推計の考え方の詳細	合計特殊出生率の仮定値	到達目標年次	推計パターン
三重県に居住する女性の結婚・出産の希望がすべて叶った場合	<p>県内の 15～49 歳の未婚女性のうち将来結婚を希望している女性の割合を算出し、結婚希望のある女性の数及び既婚女性の数と理想の子ども数から、三重県全体の合計特殊出生率の仮定値を算出。</p> <p>【参照データ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県の 15～49 歳の未婚女性の数：134,116 人（令和 2 年国勢調査より）</li> <li>・ 三重県の 15～49 歳の既婚女性の数：164,593 人（令和 2 年国勢調査より）</li> <li>・ 三重県全体の結婚を希望している女性の割合：66.0%（「第 2 回みえ県民 1 万人アンケート」（2023）より）</li> <li>・ 三重県全体の理想の子どもの数（平均）：2.2 人（「第 2 回みえ県民 1 万人アンケート」（2023）より）</li> </ul>	1.73	2070 年	①
			2080 年	②
上記の考え方をベースに、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合	<p>上記から、行政の施策では結婚の希望を叶えることが難しい層と出産の希望を叶えることが難しい層を差し引いて、三重県全体の合計特殊出生率の仮定値を算出。</p> <p>【参照データ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「結婚の希望が叶えることが難しい層」の割合：23.3%（「第 1 回みえ県民 1 万人アンケート」（2022）の「結婚していない理由」の設問において、行政の施策による解消が困難と思われる</li> </ul>	1.52	2070 年	③

	<p>る理由のうち、最も多い回答である「自分に自信が持てない」を選択した割合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「出産の希望を叶えることが難しい層」の割合：15.9% (「第1回みえ県民1万人アンケート」(2022)の「実際の子ども数が理想の子ども数より少ない」理由に関する設問において、行政の施策による解消が困難と思われる理由のうち、最も多い回答「ほしいけれどもできない」を選択した割合)</li> </ul>		2080年	④
--	---	--	-------	---

## 2.2.2. 将来人口推計の結果

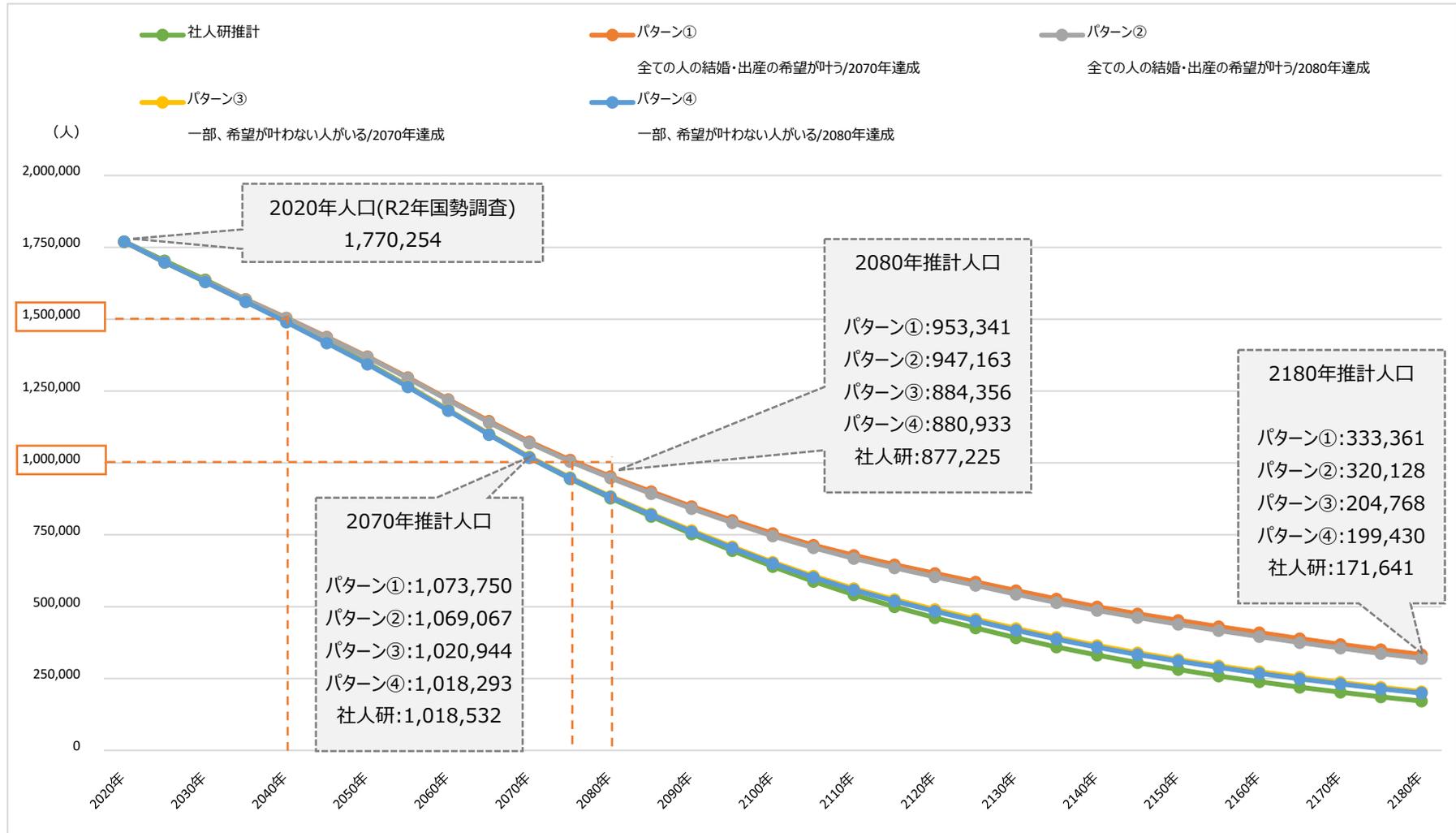
### (1) 総人口

令和 2 年国勢調査によると、三重県全体の 2020 年時点での人口は 1,770,254 人である。社人研推計では、三重県の総人口は 2080 年には 877,225 人、2180 年には 171,641 人まで減少する見込みである。

三重県に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が 2070 年までに叶う場合（パターン①）では、2080 年に 953,341 人、2180 年に 333,361 人と推計され、2080 年までに叶う場合（パターン②）には 2080 年に 947,163 人、2180 年に 320,128 人と推計された。

また、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合、2070 年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン③）では 2080 年に 884,356 人、2180 年に 204,768 人と推計され、2080 年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン④）では、2080 年に 880,933 人、2180 年に 199,430 人と推計された。

図表 2-2 三重県全体 推計パターン別の総人口



(単位：人)

推計パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研推計準拠	1,770,254	1,703,094	1,637,436	1,568,153	1,495,813	1,421,811	1,347,202	1,268,134	1,184,650	1,100,223	1,018,532
①	1,770,254	1,697,881	1,633,002	1,568,836	1,504,644	1,438,369	1,370,249	1,297,737	1,221,514	1,145,415	1,073,750
②	1,770,254	1,697,881	1,632,751	1,568,145	1,503,420	1,436,634	1,368,024	1,295,001	1,218,208	1,141,462	1,069,067
③	1,770,254	1,697,881	1,630,105	1,560,876	1,490,541	1,418,377	1,344,653	1,266,379	1,183,821	1,100,586	1,020,944
④	1,770,254	1,697,881	1,629,956	1,560,466	1,489,815	1,417,347	1,343,337	1,264,774	1,181,903	1,098,320	1,018,293

推計パターン	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年	2105年	2110年	2115年	2120年	2125年
社人研推計準拠	944,713	877,225	813,873	753,196	694,587	639,272	588,076	541,689	499,969	461,709	425,601
①	1,010,464	953,341	899,875	848,972	800,379	755,335	714,470	678,247	646,060	616,167	585,913
②	1,005,029	947,163	892,972	841,338	791,999	746,201	704,592	667,664	634,844	604,419	573,754
③	949,483	884,356	823,144	764,543	708,182	655,364	606,933	563,650	525,291	490,445	456,688
④	946,440	880,933	819,358	760,402	703,688	650,522	601,758	558,172	519,557	484,522	450,652

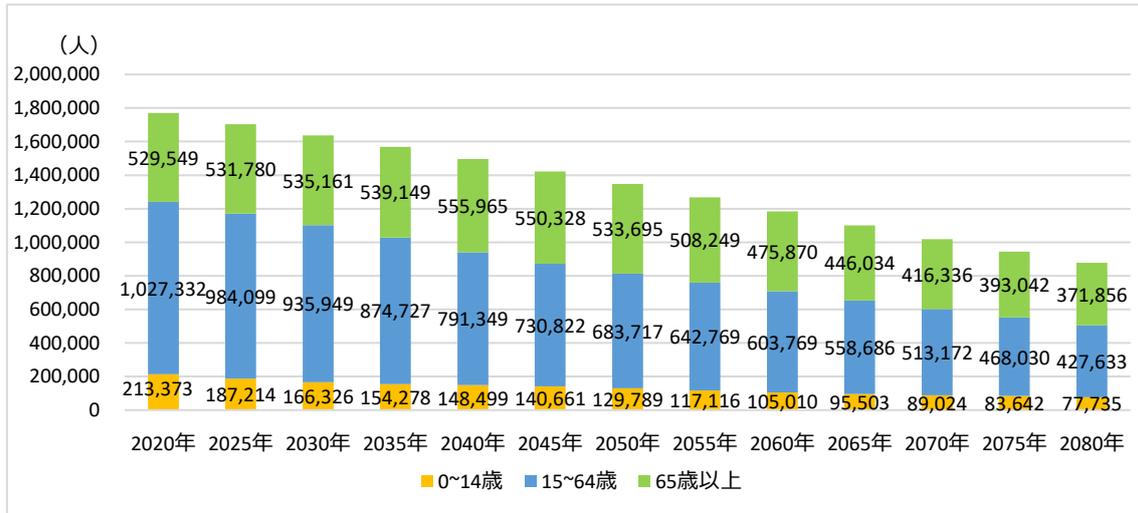
推計パターン	2130年	2135年	2140年	2145年	2150年	2155年	2160年	2165年	2170年	2175年	2180年
社人研推計準拠	391,562	359,982	331,124	304,974	281,206	259,287	238,861	219,872	202,367	186,328	171,641
①	555,695	526,733	499,966	475,394	452,492	430,565	409,252	388,615	369,020	350,630	333,361
②	543,213	513,983	486,983	462,217	439,171	417,159	395,815	375,191	355,638	337,311	320,128
③	424,049	393,320	365,189	339,691	316,401	294,699	274,189	254,814	236,761	220,108	204,768
④	417,959	387,210	359,080	333,604	310,360	288,731	268,321	249,065	231,144	214,627	199,430

※表中赤字箇所は、各パターンにおいて総人口150万人を初めて下回った年次を示す。

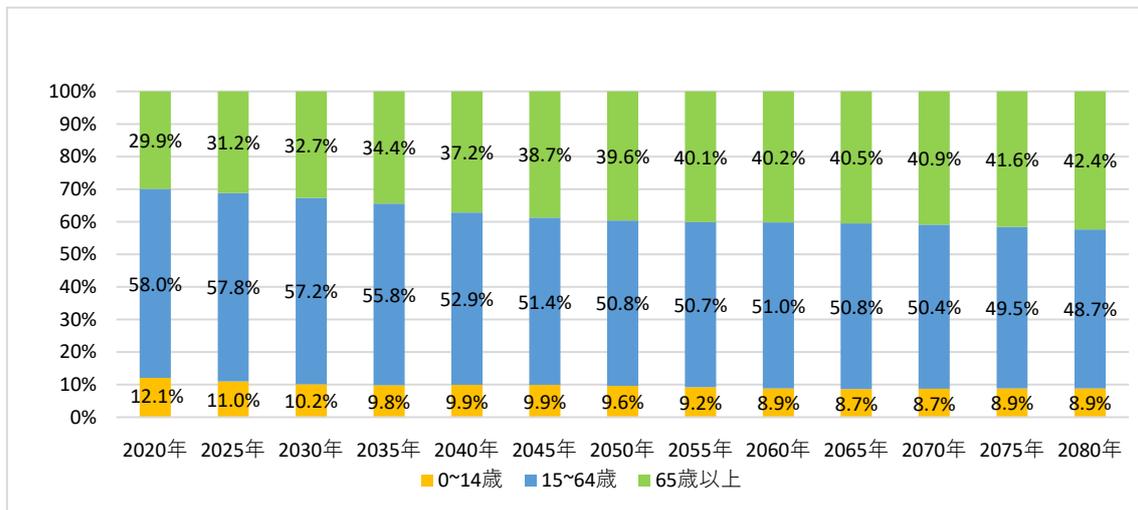
## (2) 社人研推計

社人研推計では、2080年には年少人口は77,735人、生産年齢人口は427,633人、老年人口は371,856人と推計される。年齢区分別比率では、三重県全体における老年人口の比率は増え続け、2080年には年少人口8.9%、生産年齢人口48.7%、老年人口42.4%となる。

図表 2-3 三重県全体 社人研推計の年齢区分別人口



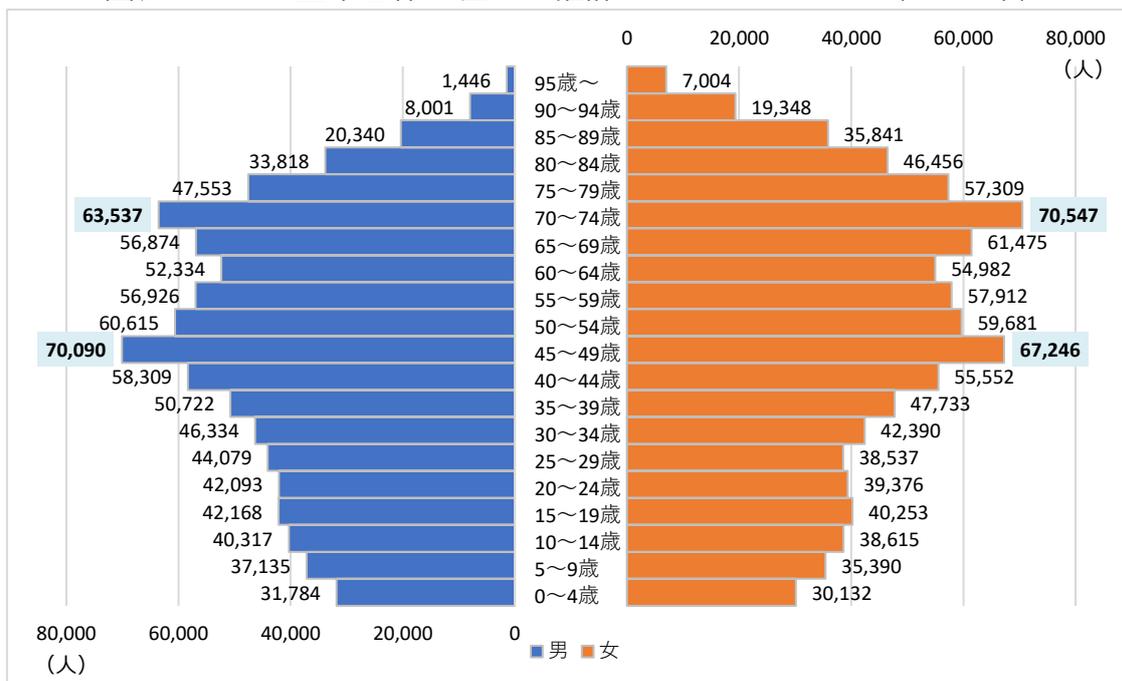
図表 2-4 三重県全体 社人研推計の年齢区分別比率



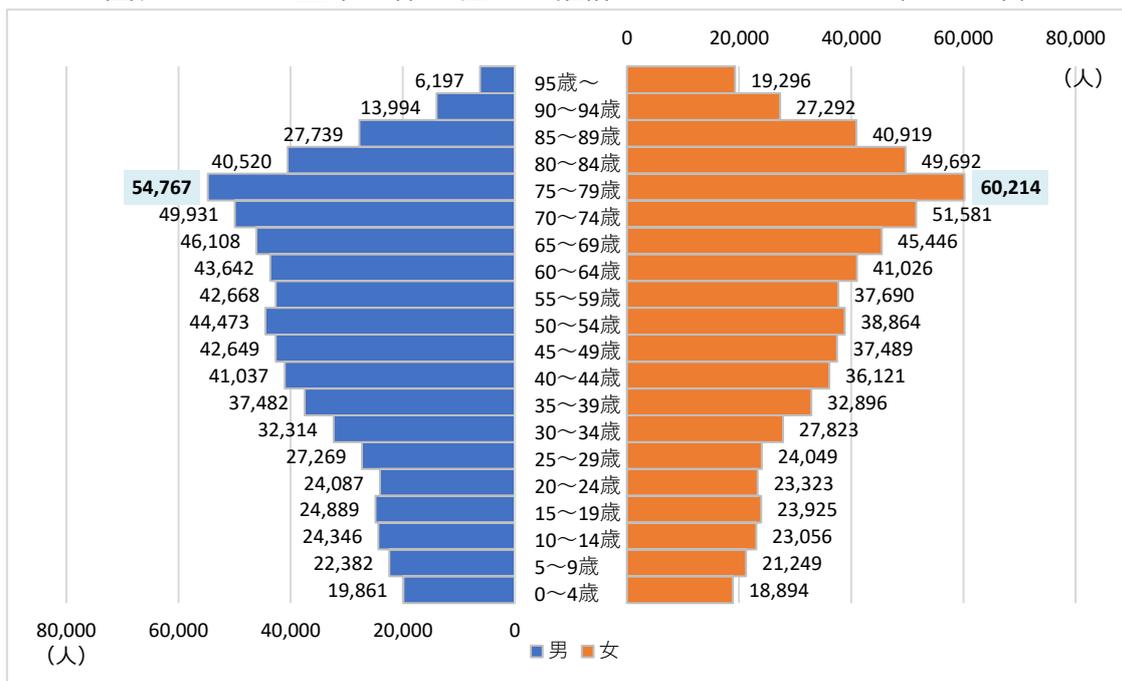
三重県全体の2020年時点の人口ピラミッドは、45～49歳、70～74歳の人口が多く、45～49歳以下の年代で次第に人口規模が小さくなる。

社人研推計では、2050年には75～79歳、2080年には70～74歳をピークに、いずれもそれ以下の年代で徐々に人口規模が縮小する構造になると推計された。

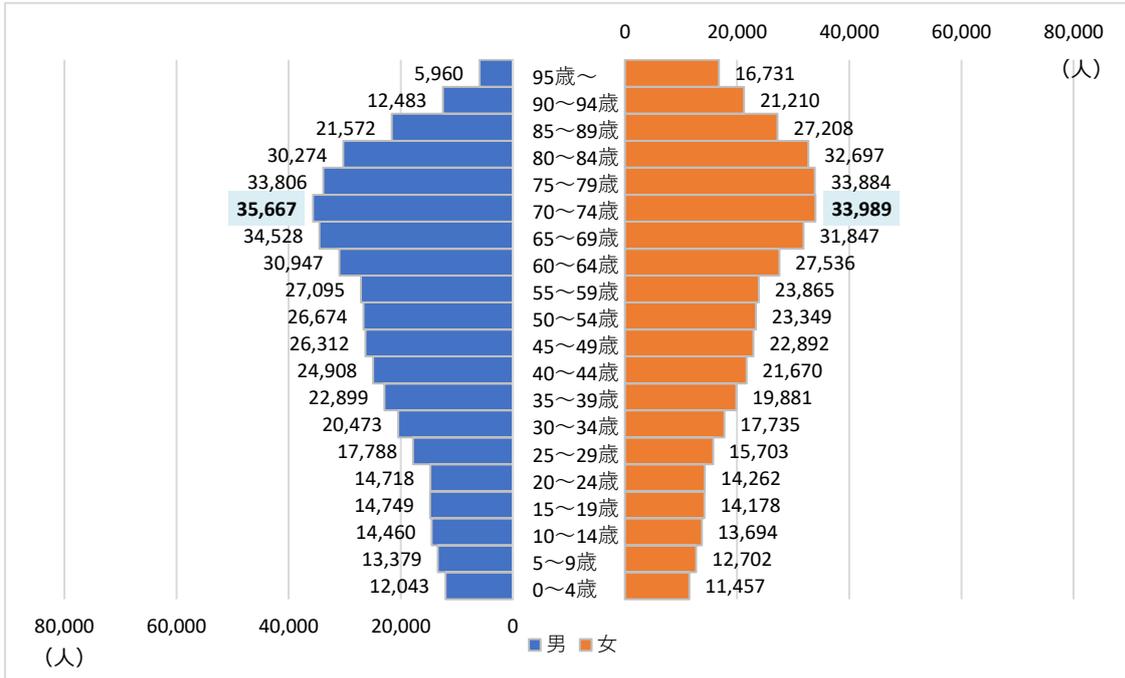
図表 2-5 三重県全体 社人研推計の人口ピラミッド（2020年）



図表 2-6 三重県全体 社人研推計の人口ピラミッド（2050年）



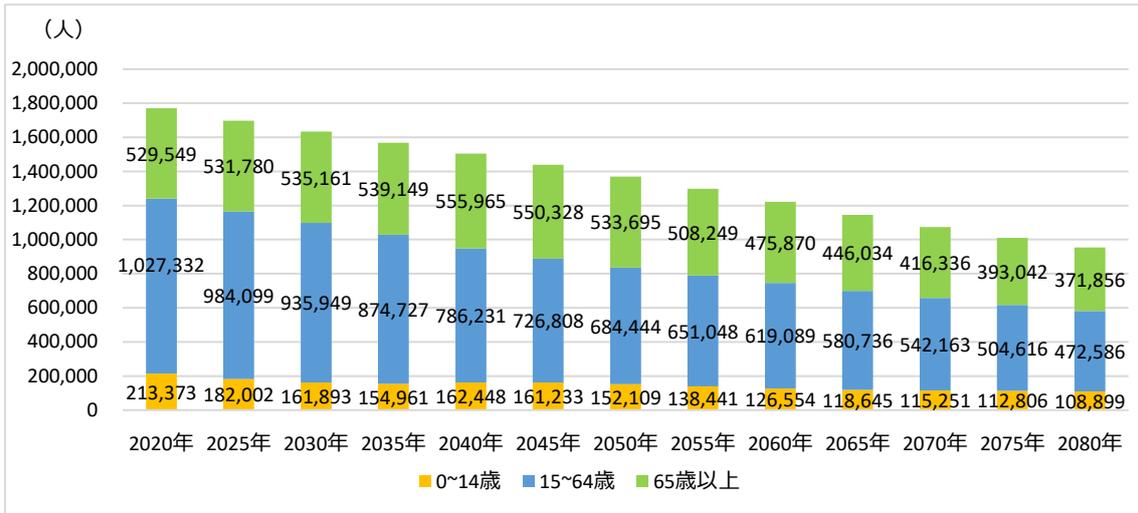
図表 2-7 三重県全体 社人研推計の人口ピラミッド (2080年)



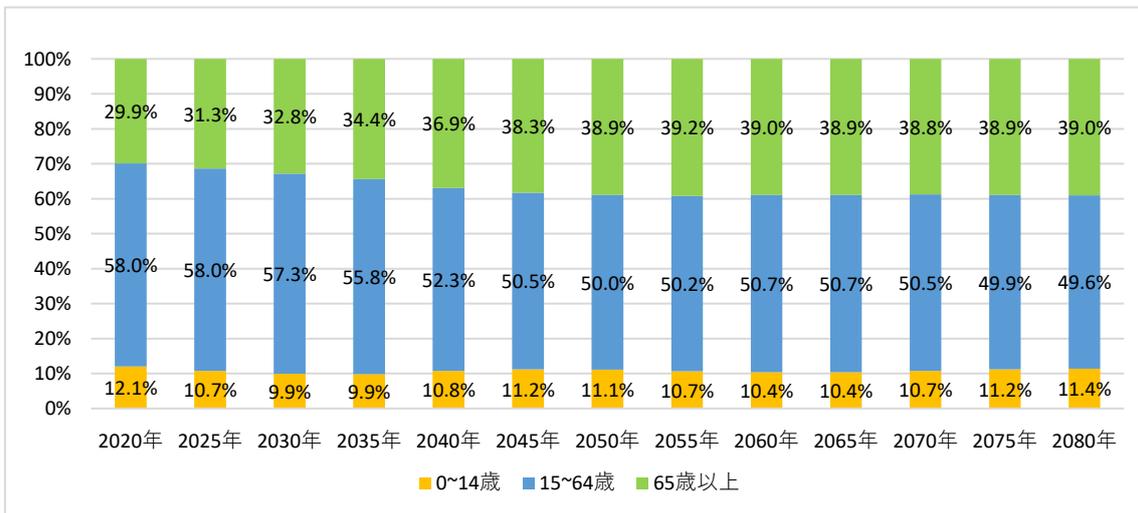
### (3) パターン① 年齢区分別人口／比率と人口ピラミッド

2070年までに三重県に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶う場合、2080年には年少人口は108,899人、生産年齢人口は472,586人、老年人口は371,856人と推計される。年齢区分別比率では、2080年には年少人口11.4%、生産年齢人口49.6%、老年人口39.0%となる。

図表 2-8 三重県全体 パターン①の年齢区分別人口

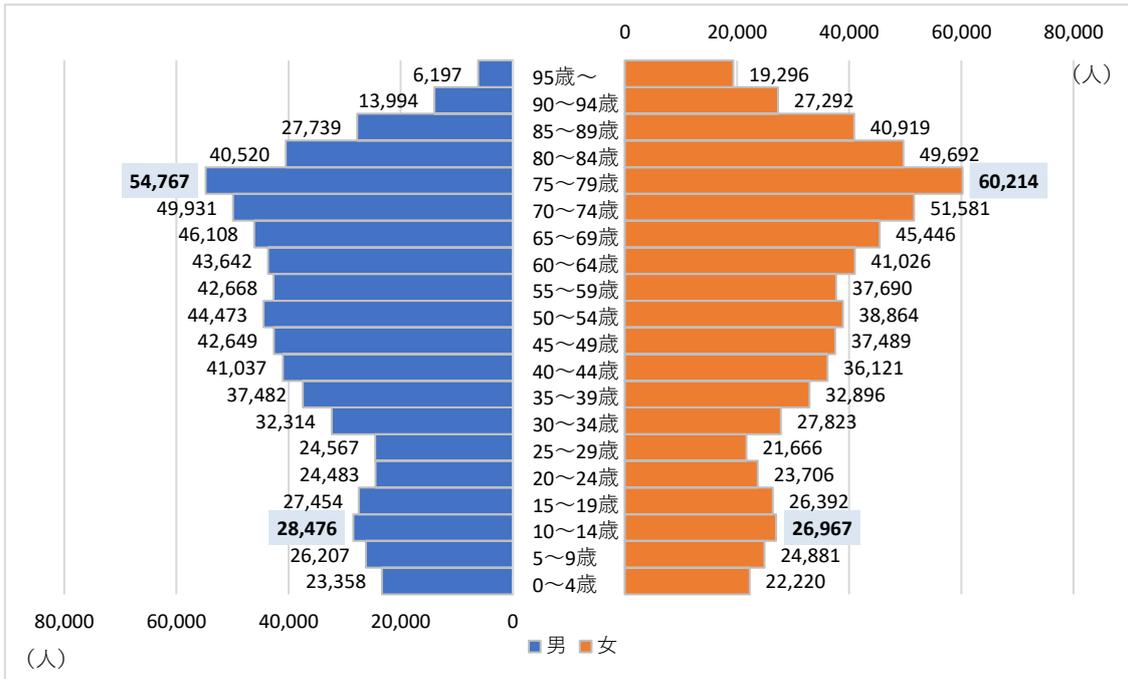


図表 2-9 三重県全体 パターン①の年齢区分別比率

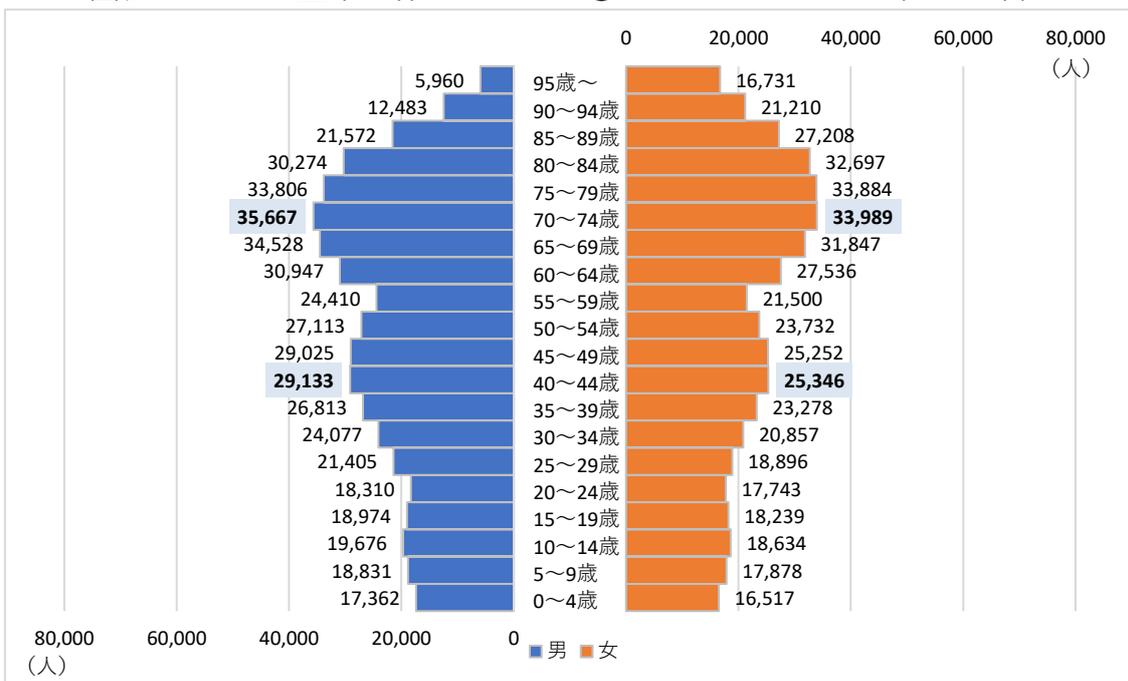


上記パターンの人口ピラミッドは、2050年には、合計特殊出生率が改善した年代（10～14歳）と、ピークとなる75～79歳の2つの頂点を持つひょうたん型の構造となり、2080年には、40～44歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、20～24歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-10 三重県全体 パターン①の人口ピラミッド（2050年）



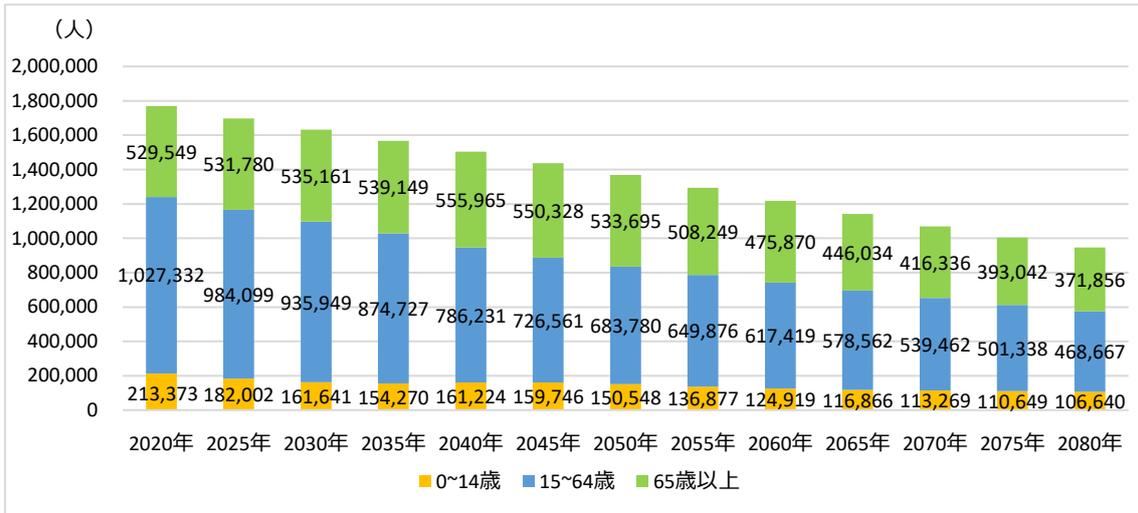
図表 2-11 三重県全体 パターン①の人口ピラミッド（2080年）



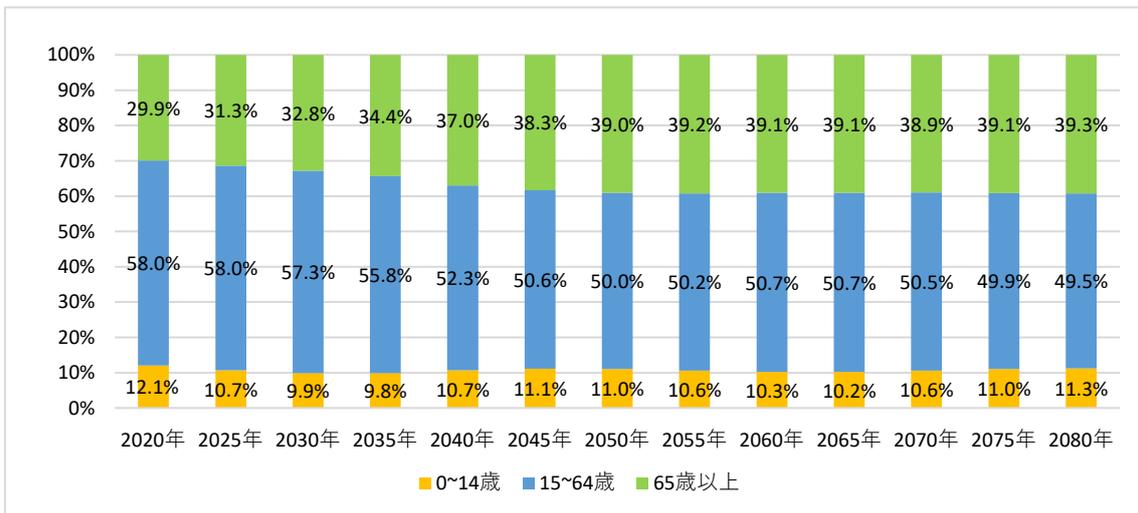
#### (4) パターン② 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年までに三重県に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶った場合、2080年には年少人口は106,640人、生産年齢人口は468,667人、老年人口は371,856人と推計される。年齢区分別比率では、2080年には年少人口11.3%、生産年齢人口49.5%、老年人口39.3%となる。

図表 2-12 三重県全体 パターン②の年齢区分別人口

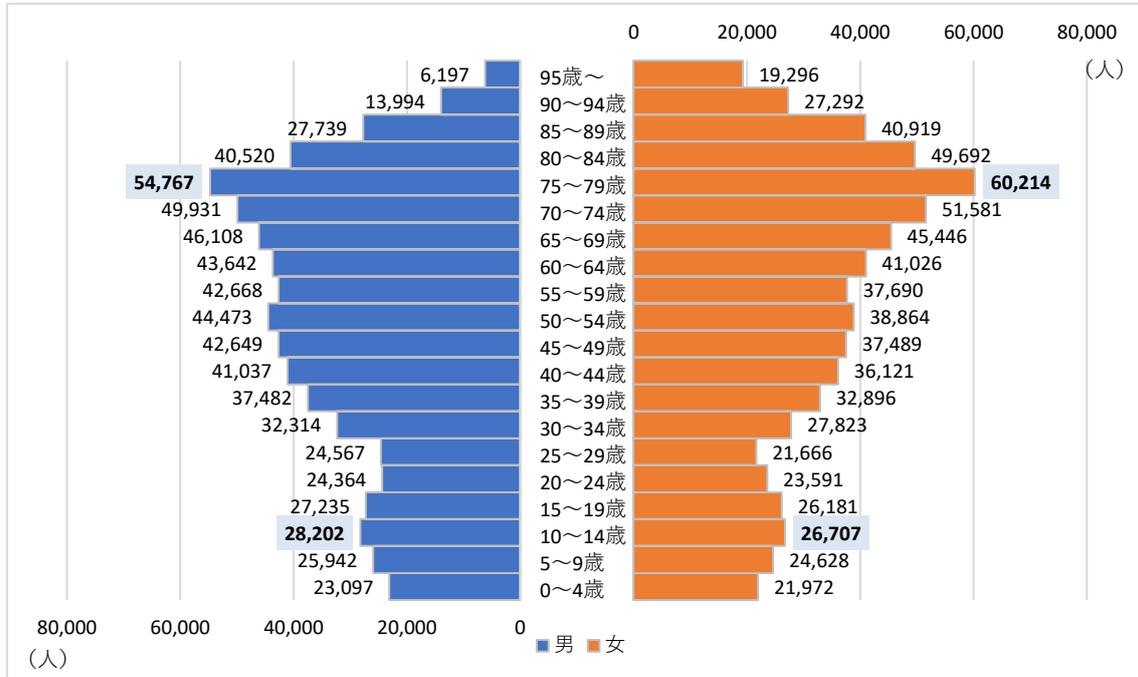


図表 2-13 三重県全体 パターン②の年齢区分別比率

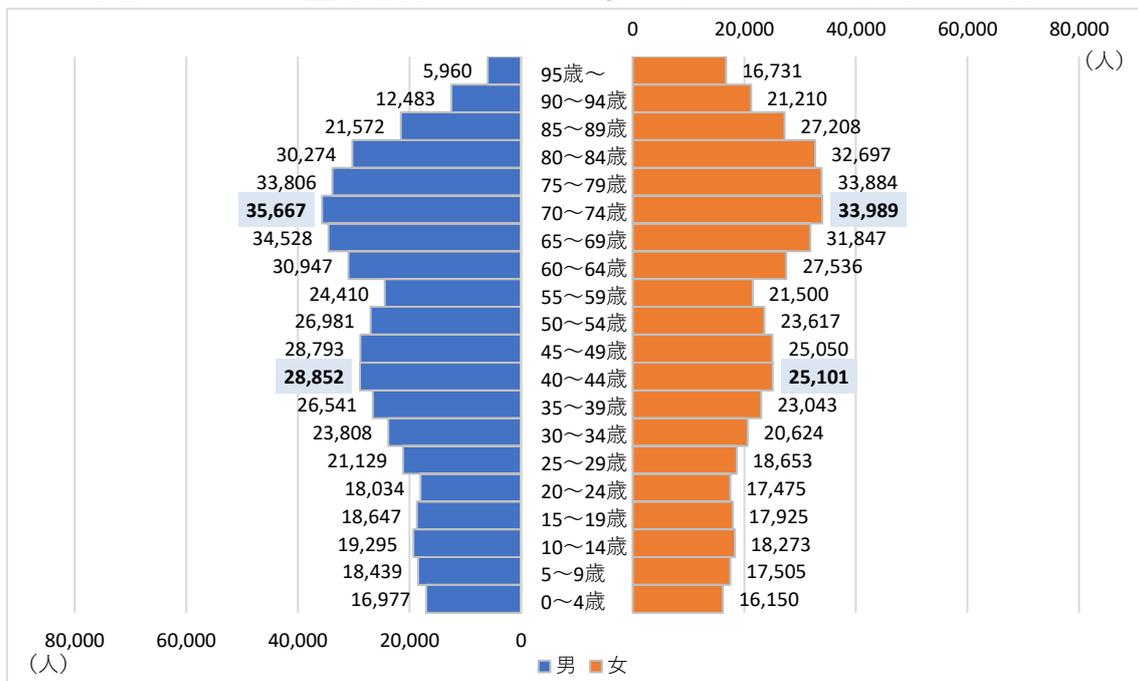


上記パターンの人口ピラミッドは、2050年には合計特殊出生率が改善した年代（10～14歳）と、75～79歳の2つの頂点を持つひょうたん型に近い構造になるが、2080年には、40～44歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、20～24歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-14 三重県全体 パターン②の人口ピラミッド（2050年）



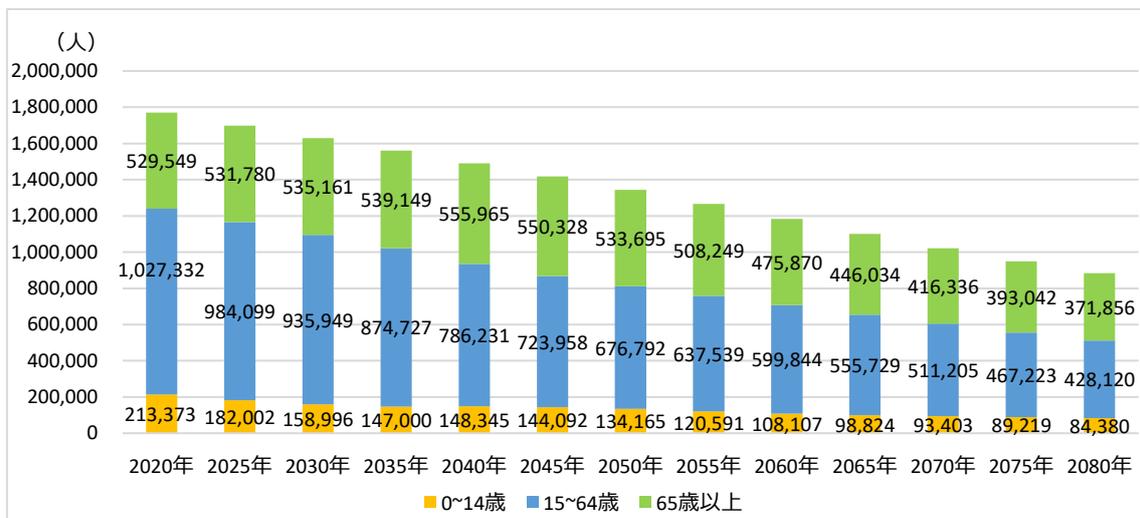
図表 2-15 三重県全体 パターン②の人口ピラミッド（2080年）



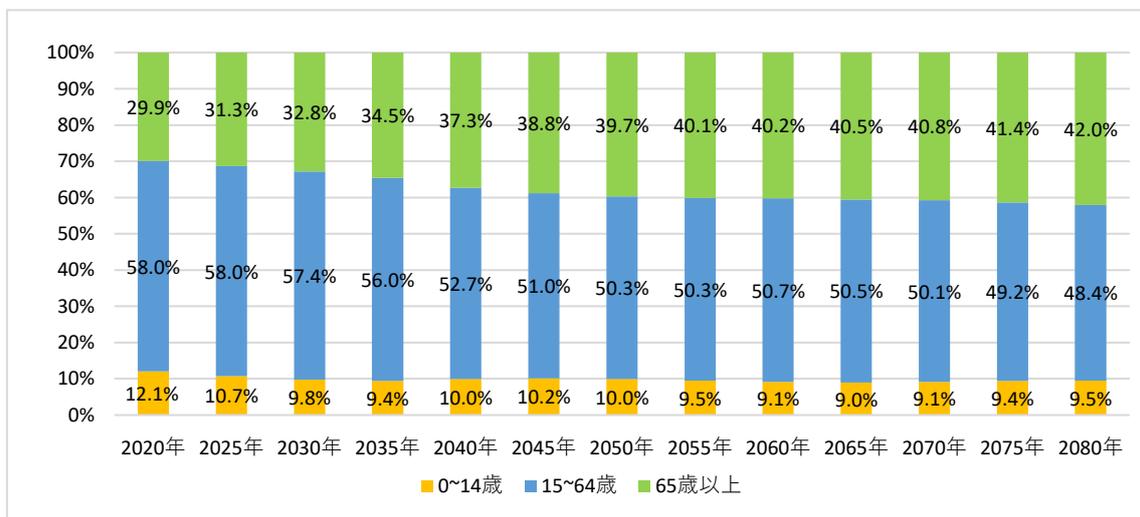
### (5) パターン③ 年齢区分別人口と人口ピラミッド

2070年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は84,380人、生産年齢人口は428,120人、老年人口は371,856人と推計された。また、年齢区分別比率では、三重県全体における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口9.5%、生産年齢人口48.4%、老年人口42.0%になると推計された。

図表 2-16 三重県全体 パターン③の年齢区分別人口

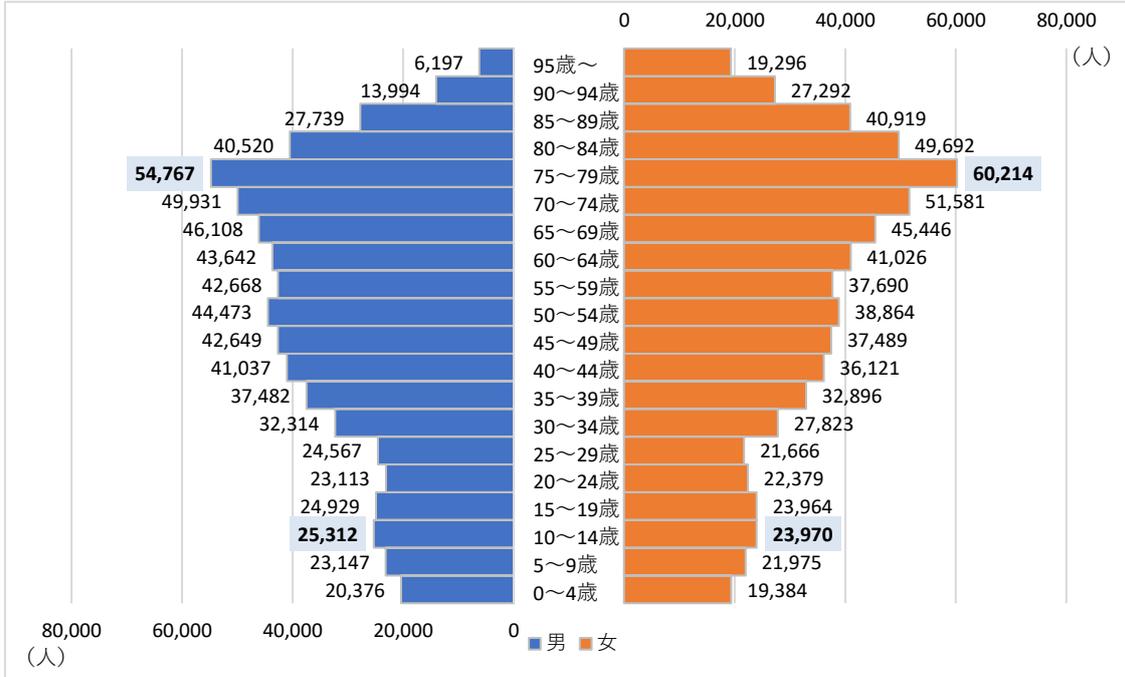


図表 2-17 三重県全体 パターン③の年齢区分別比率

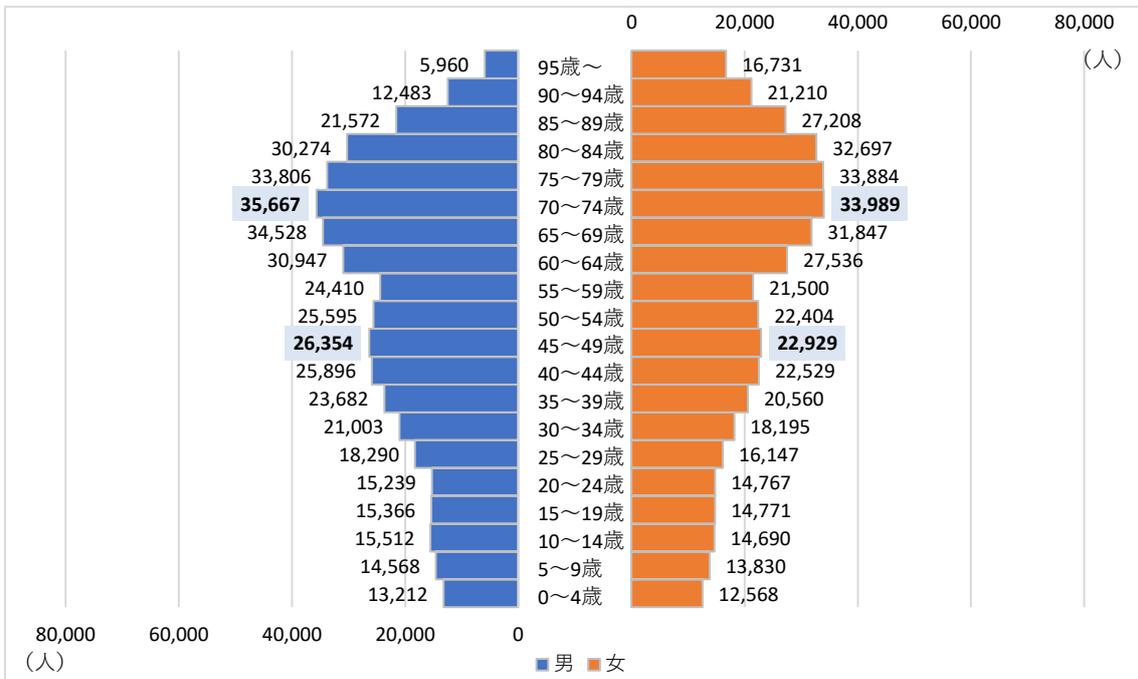


上記パターンの人口ピラミッドは、2050年には合計特殊出生率が改善した年代（10～14歳）、75～79歳の2つの頂点を持つひょうたん型に近い構造になるが、2080年には、年少人口のピークを形成できず、45～49歳以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-18 三重県全体 パターン③の人口ピラミッド（2050）



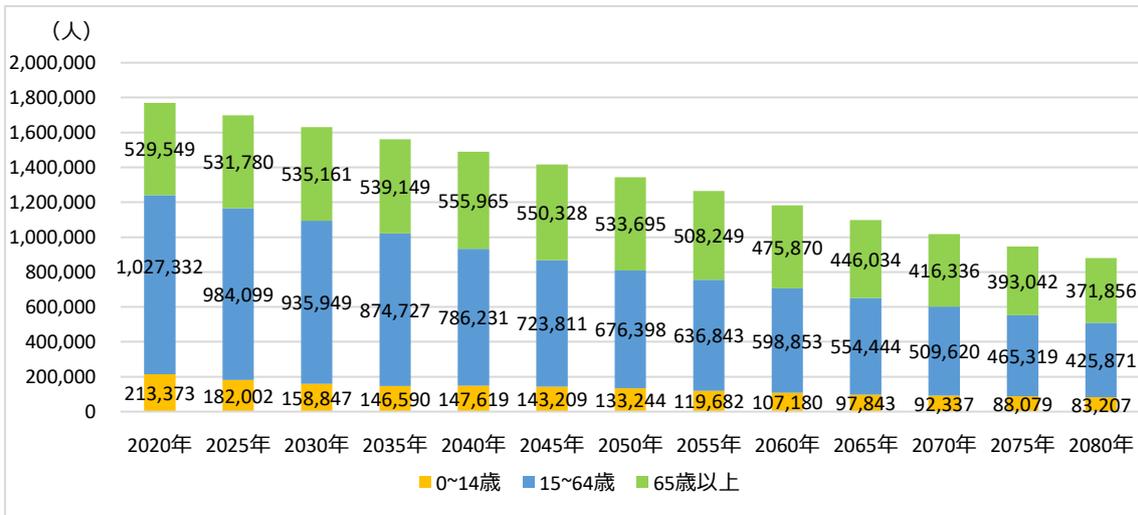
図表 2-19 三重県全体 パターン③の人口ピラミッド（2080）



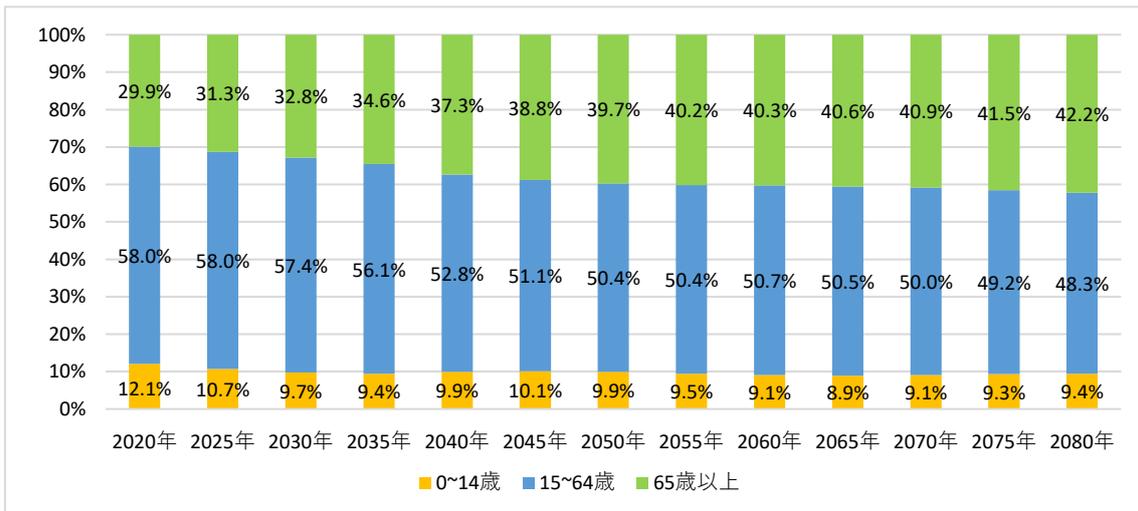
## (6) パターン④ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は83,207人、生産年齢人口は425,871人、老年人口は371,856人と推計された。また、年齢区分別比率では、三重県全体における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口9.4%、生産年齢人口48.3%、老年人口42.2%になると推計された。

図表 2-20 三重県全体 パターン④の年齢区分別人口

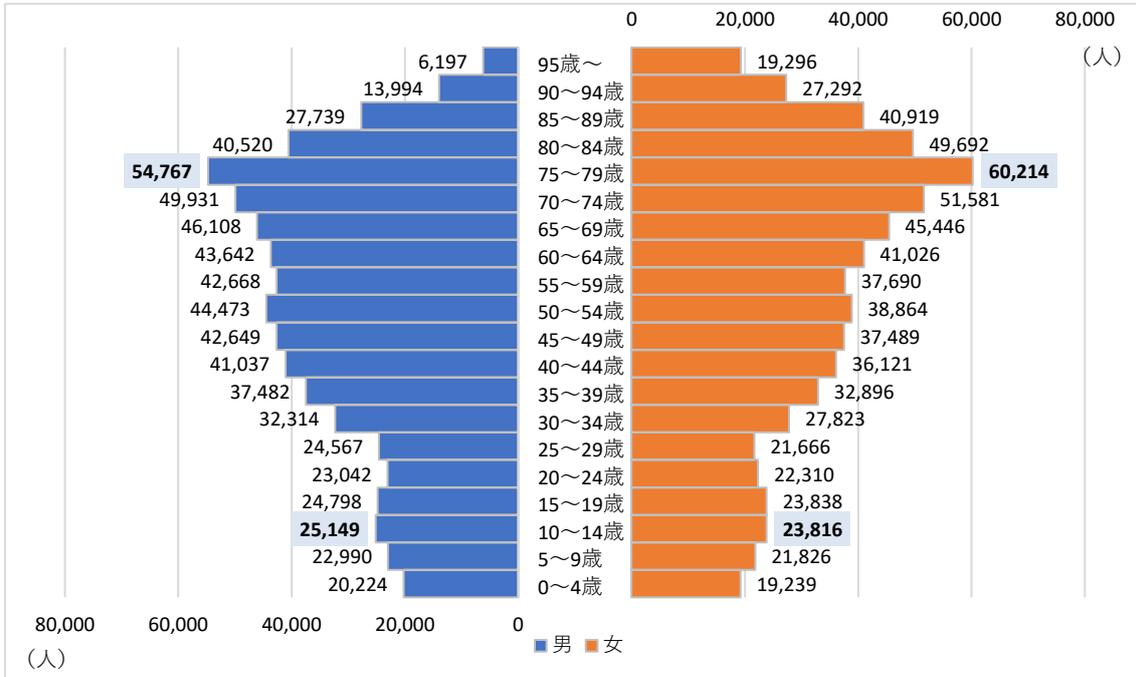


図表 2-21 三重県全体 パターン④の年齢区分別比率

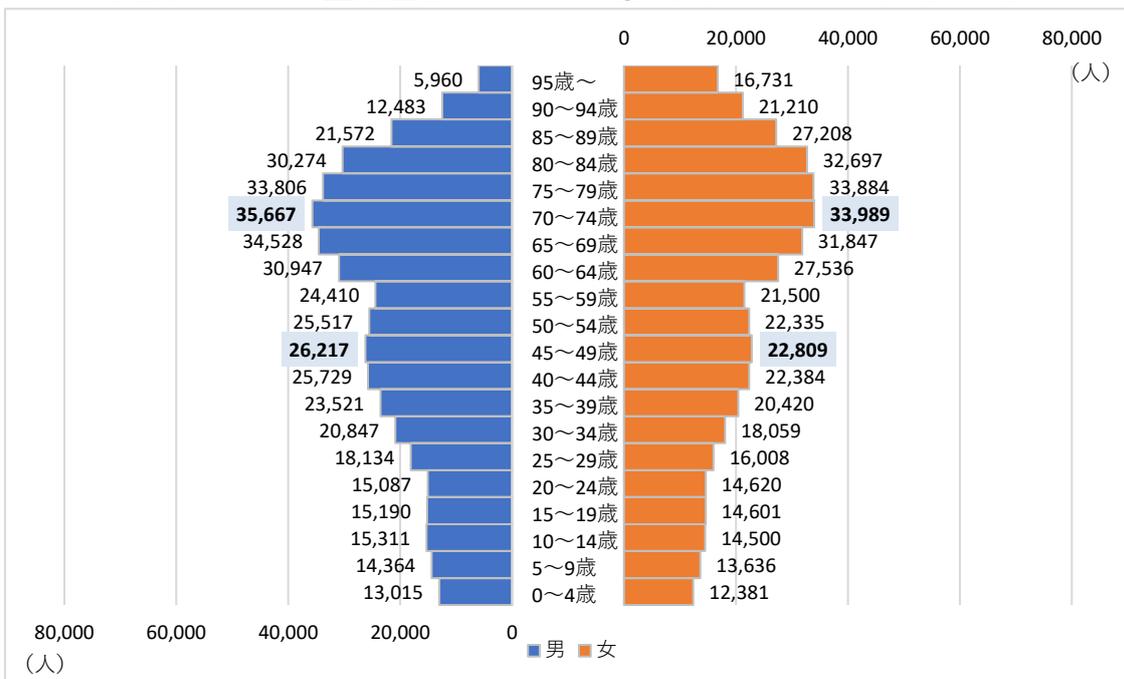


上記パターンの人口ピラミッドは、2050年には合計特殊出生率が改善した年代（10～14歳）、75～79歳の2つの頂点を持つひょうたん型に近い構造になるが、2080年には、年少人口のピークを形成できず、45～49歳以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-22 三重県全体 パターン④の人口ピラミッド（2050）



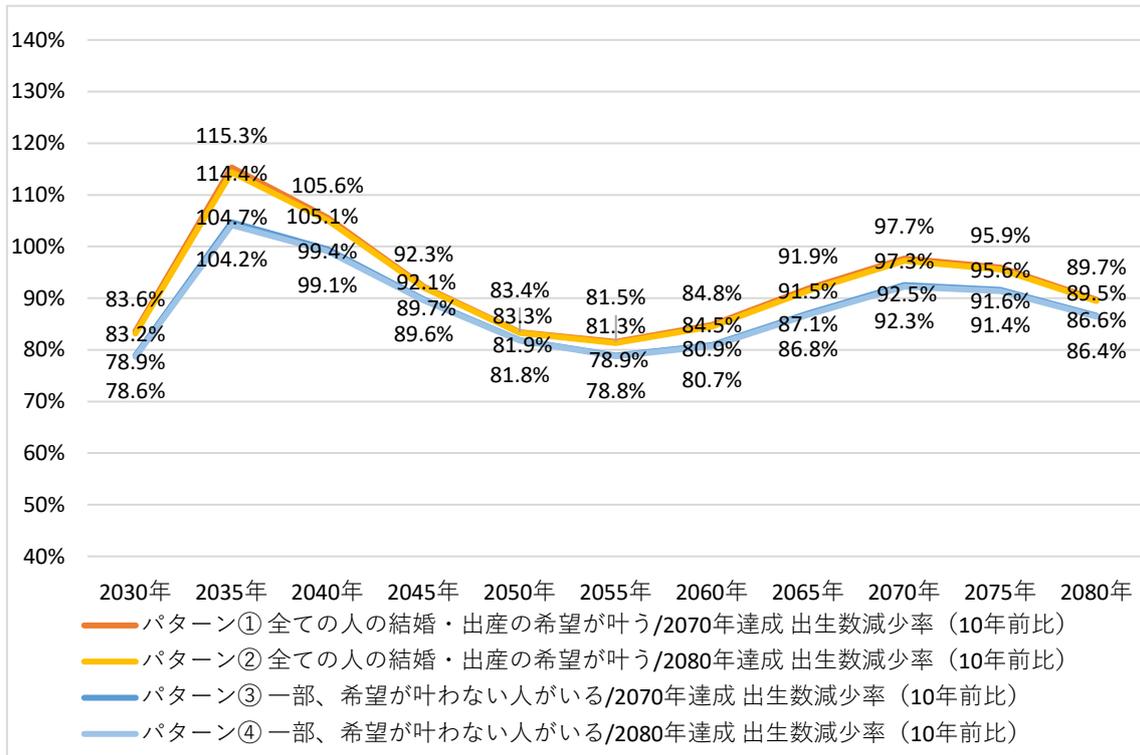
図表 2-23 三重県全体 パターン④の人口ピラミッド（2080）



### (7) 将来人口推計結果をもとにした出生数の増減率

推計パターン①～④のそれぞれについて、各年次の10年前と比較した出生数の増減率を算出した。出生数の増減率は、パターン①、②では2035年～2040年にかけて10年前比100%超、パターン③、④では2035年に10年前比100%超となり、出生数が回復するが、それ以降の年次では、増減率が100%を下回り、10年前と比較して出生数は緩やかに減少すると想定される。

図表 2-24 各推計パターンにおける出生数の減少率  
(三重県全体/10年前の出生数に対する比率)



		2020年	2025年	2030年 (2020年比)	2035年 (2025年比)
パター ン①	出生数(0-4歳人口)	61,916人	47,392人	51,741人	54,647人
	出生数増減率(10年前比)	—	—	83.6%	115.3%
パター ン②	出生数(0-4歳人口)	61,916人	47,392人	51,490人	54,211人
	出生数増減率(10年前比)	—	—	83.2%	114.4%
パター ン③	出生数(0-4歳人口)	61,916人	47,392人	48,844人	49,620人
	出生数増減率(10年前比)	—	—	78.9%	104.7%
パター ン④	出生数(0-4歳人口)	61,916人	47,392人	48,695人	49,361人
	出生数増減率(10年前比)	—	—	78.6%	104.2%

		2040年 (2030年比)	2045年 (2035年比)	2050年 (2040年比)	2055年 (2045年比)
パターン①	出生数(0-4歳人口)	54,647人	50,413人	45,578人	41,110人
	出生数増減率(10年前比)	105.6%	92.3%	83.4%	81.5%
パターン②	出生数(0-4歳人口)	54,120人	49,902人	45,069人	40,580人
	出生数増減率(10年前比)	105.1%	92.1%	83.3%	81.3%
パターン③	出生数(0-4歳人口)	48,574人	44,527人	39,760人	35,127人
	出生数増減率(10年前比)	99.4%	89.7%	81.9%	78.9%
パターン④	出生数(0-4歳人口)	48,261人	44,224人	39,463人	34,827人
	出生数増減率(10年前比)	99.1%	89.6%	81.8%	78.8%

		2060年 (2050年比)	2065年 (2055年比)	2070年 (2060年比)	2075年 (2065年比)
パターン①	出生数(0-4歳人口)	38,657人	37,766人	37,764人	36,225人
	出生数増減率(10年前比)	84.8%	91.9%	97.7%	95.9%
パターン②	出生数(0-4歳人口)	38,075人	37,114人	37,032人	35,469人
	出生数増減率(10年前比)	84.5%	91.5%	97.3%	95.6%
パターン③	出生数(0-4歳人口)	32,173人	30,583人	29,771人	28,023人
	出生数増減率(10年前比)	80.9%	87.1%	92.5%	91.6%
パターン④	出生数(0-4歳人口)	31,853人	30,233人	29,385人	27,630人
	出生数増減率(10年前比)	80.7%	86.8%	92.3%	91.4%

		2080年 (2070年比)
パターン①	出生数(0-4歳人口)	33,879人
	出生数増減率(10年前比)	89.7%
パターン②	出生数(0-4歳人口)	33,128人
	出生数増減率(10年前比)	89.5%
パターン③	出生数(0-4歳人口)	25,780人
	出生数増減率(10年前比)	86.6%
パターン④	出生数(0-4歳人口)	25,396人
	出生数増減率(10年前比)	86.4%

## 2.3. 県内地域別の将来人口推計

### 2.3.1. 将来人口推計の方法

「三重県人口ビジョン」（平成 27 年度策定）を改定する際の参考値として、県内 5 地域別の将来人口の推計を行った。県内 5 地域別の将来人口推計は、令和 5 年 12 月に社人研から公表された社人研推計をもとに、県内市町別の将来人口推計を行い、それらを合計して算出した。県内 5 地域の内訳は以下のとおり。

図表 2-25 県内の地域区分

地域	内訳
北勢地域	四日市市、菰野町、朝日町、川越町、桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町、鈴鹿市、亀山市
中勢地域	津市、松阪市、多気町、明和町、大台町
南勢地域	伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町
伊賀地域	名張市、伊賀市
東紀州地域	尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

県内 5 地域別の将来人口推計にあたっては、三重県全体の将来人口推計の考え方と同様に、①「各地域に居住する女性の結婚・出産の希望がすべて叶う場合」、基本は①としたうえで、②「行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合」のそれぞれについて、県内市町別に合計特殊出生率の仮定値を算出した。また、算出した仮定値の到達年次についても、三重県全体の将来人口推計と同様に 2070 年、2080 年とし、計 4 パターンで推計を行った（各パターンの詳細に関しては図表 2-26 参照）。

なお、三重県全体と県内市町別の将来人口推計では、計算過程に必要な出生率の仮定の設定の仕方が異なることや計算過程の端数が発生すること等により、各地域別の推計値の合計と三重県全体の推計結果は一致しないことに留意する必要がある。

図表 2-26 県内 5 地域別の将来人口推計のパターン及び参照データ

推計の考え方	参照したデータ	到達目標年次	推計パターン
三重県に居住する女性の結婚・出産の希望がすべて叶った場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結婚を希望している女性の割合               <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北勢地域：70.5%</li> <li>➤ 中勢地域：65.8%</li> <li>➤ 南勢地域：59.4%</li> <li>➤ 伊賀地域：73.2%</li> <li>➤ 東紀州地域：64.3%<sup>2</sup></li> </ul> </li> </ul> (「第 2 回みえ県民 1 万人アンケート」(2023) より)	2070 年	①
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理想の子どもの数 (平均)               <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北勢地域：2.1 人</li> <li>➤ 中勢地域：2.2 人</li> <li>➤ 南勢地域：2.3 人</li> <li>➤ 伊賀地域：2.3 人</li> <li>➤ 東紀州地域：2.5 人</li> </ul> </li> </ul> (「第 2 回みえ県民 1 万人アンケート」(2023) より)	2080 年	②
上記の考え方をベースに、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「結婚の希望が叶えることが難しい層」の割合：23.3% (「第 1 回みえ県民 1 万人アンケート」(2022) の「結婚していない理由」の設問において、行政の施策による解消が困難と思われる理由のうち、最も多い回答である「自分に自信が持てない」を選択した割合)</li> </ul>	2070 年	③
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「出産の希望を叶えることが難しい層」の割合：15.9% (「第 1 回みえ県民 1 万人アンケート」(2022) の「実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない」理由に関する設問において、行政の施策による解消が困難と思われる理由のうち、最も多い回答「ほしいけれどもできない」を選択した割合)</li> </ul>	2080 年	④

<sup>2</sup> サンプル数が少なく、結果が極端なため、三重県全体の年代別の回答傾向及び東紀州地域の人口構成によって算出。

## 2.3.2. 地域別の将来人口推計の結果

### (1) 北勢地域

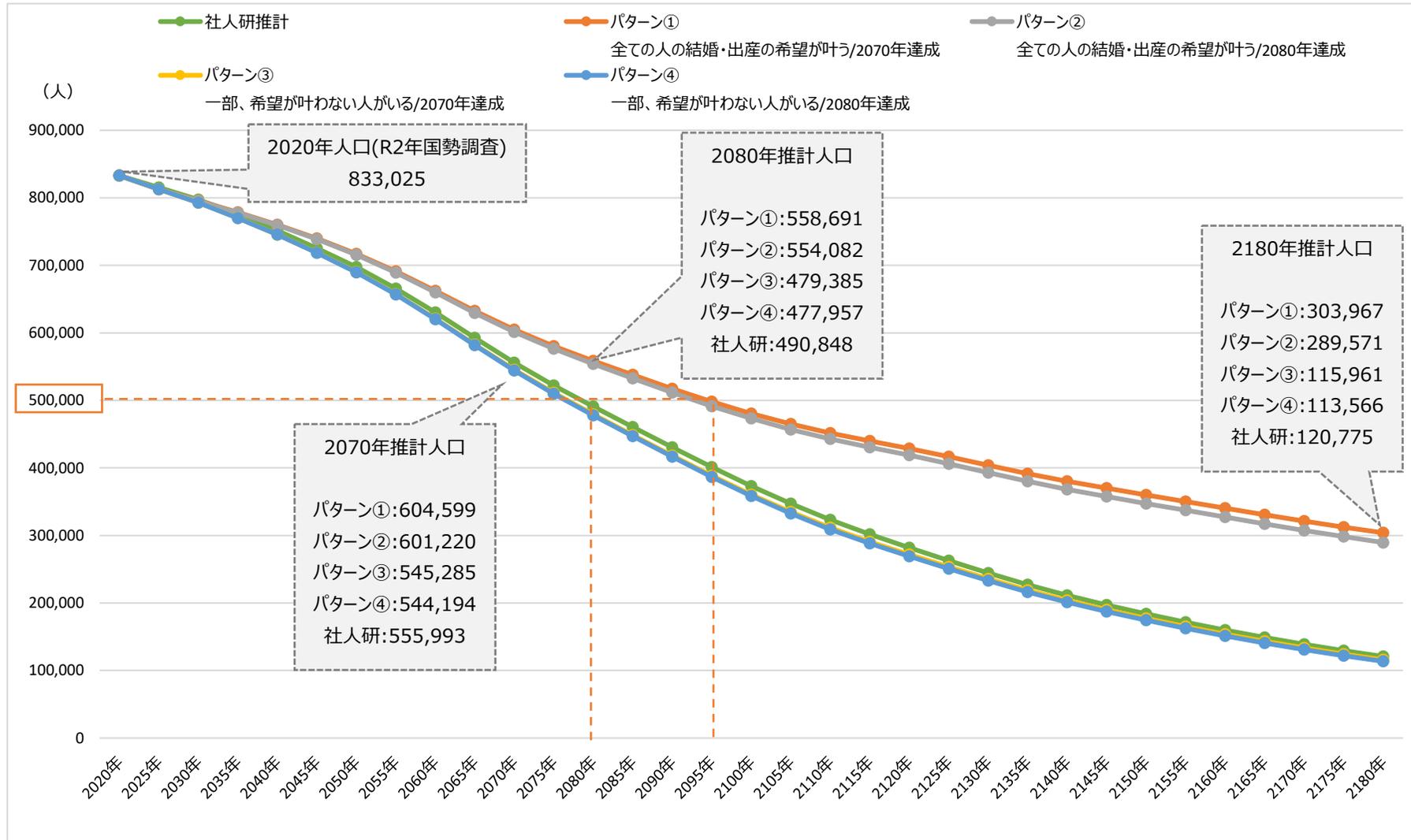
#### 1) 総人口

令和2年国勢調査によると、北勢地域の2020年時点での人口は833,025人である。社人研推計では、北勢地域の総人口は2080年には490,848人、2180年には120,775人まで減少する見込みである。

北勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が2070年までに叶う場合（パターン①）では、2080年に558,691人、2180年に303,967人と推計され、2080年までに叶う場合（パターン②）では、2080年に554,082人、2180年に289,571人と推計された。

また、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合、2070年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン③）では、2080年に479,385人、2180年に115,961人と推計され、2080年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン④）では、2080年に477,957人、2180年に113,566人と推計された。

図表 2-27 北勢地域 推計パターン別の総人口



(単位：人)

推計パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研推計	833,025	815,433	797,335	775,912	751,685	725,421	697,470	665,746	630,201	592,869	555,993
①	833,025	812,651	795,715	778,431	760,368	739,936	717,152	691,061	662,065	632,396	604,599
②	833,025	812,651	795,553	777,981	759,568	738,797	715,676	689,211	659,778	629,599	601,220
③	833,025	812,651	792,742	770,191	745,687	719,033	690,167	657,488	620,993	582,739	545,285
④	833,025	812,651	792,685	770,032	745,404	718,631	689,650	656,850	620,220	581,816	544,194

推計パターン	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年	2105年	2110年	2115年	2120年	2125年
社人研推計	522,285	<b>490,848</b>	460,457	430,521	401,111	373,108	347,084	323,336	301,795	281,776	262,595
①	580,495	558,691	537,764	517,449	<b>498,090</b>	480,498	464,992	451,610	439,892	428,700	416,554
②	576,504	554,082	532,531	511,570	<b>491,528</b>	473,229	457,007	442,922	430,538	418,736	406,051
③	511,163	<b>479,385</b>	448,598	418,268	388,598	360,524	334,649	311,365	290,649	271,738	253,394
④	509,902	<b>477,957</b>	447,009	416,520	386,692	358,461	332,435	309,013	288,180	269,180	250,780

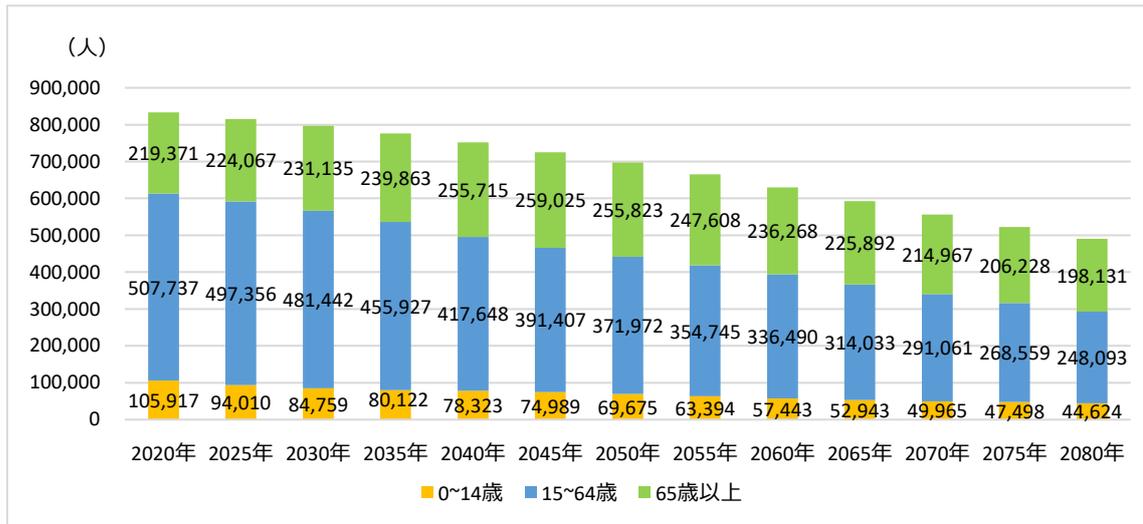
推計パターン	2130年	2135年	2140年	2145年	2150年	2155年	2160年	2165年	2170年	2175年	2180年
社人研推計	244,299	227,191	211,458	197,092	183,892	171,571	159,952	149,034	138,872	129,472	120,775
①	403,896	391,624	380,332	369,955	360,106	350,367	340,562	330,806	321,403	312,479	303,967
②	392,901	380,161	368,418	357,615	347,374	337,285	327,168	317,133	307,470	298,304	289,571
③	235,653	218,954	203,659	189,780	177,078	165,224	154,008	143,405	133,516	124,384	115,961
④	233,007	216,291	200,988	187,111	174,421	162,591	151,411	140,852	131,013	121,934	113,566

※表中赤字箇所は、各パターンにおいて総人口 50 万人を初めて下回った年次を示す。

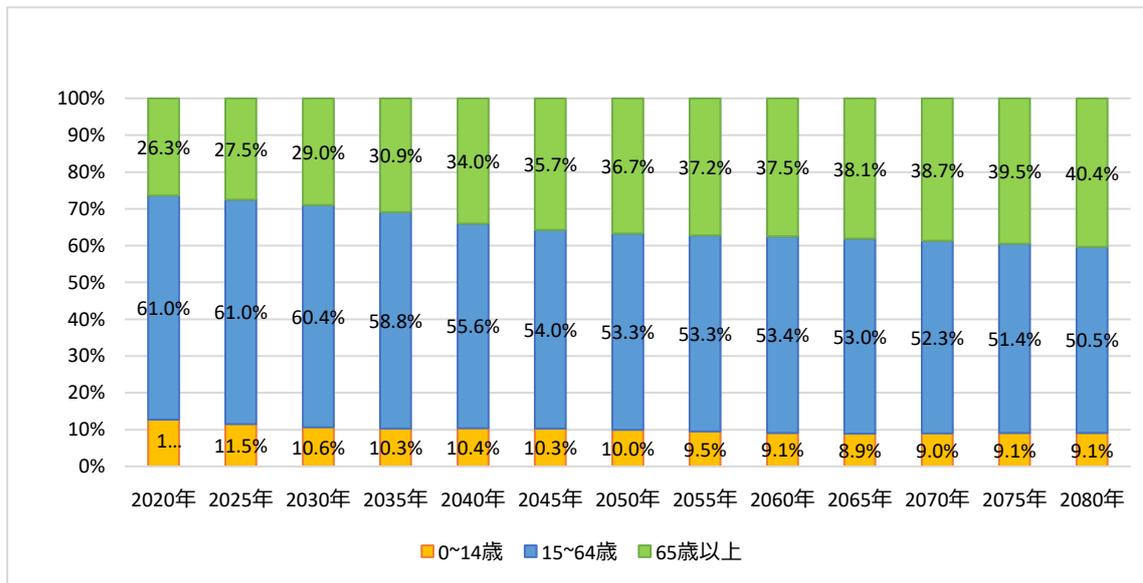
## 2) 社人研推計

社人研推計では、2080年には年少人口は44,624人、生産年齢人口は248,093人、老年人口は198,131人と推計される。年齢区分別比率では、北勢地域における老年人口の比率は増え続け、2080年には年少人口9.1%、生産年齢人口50.5%、老年人口40.4%となる。

図表 2-28 北勢地域 社人研推計の年齢区分別人口



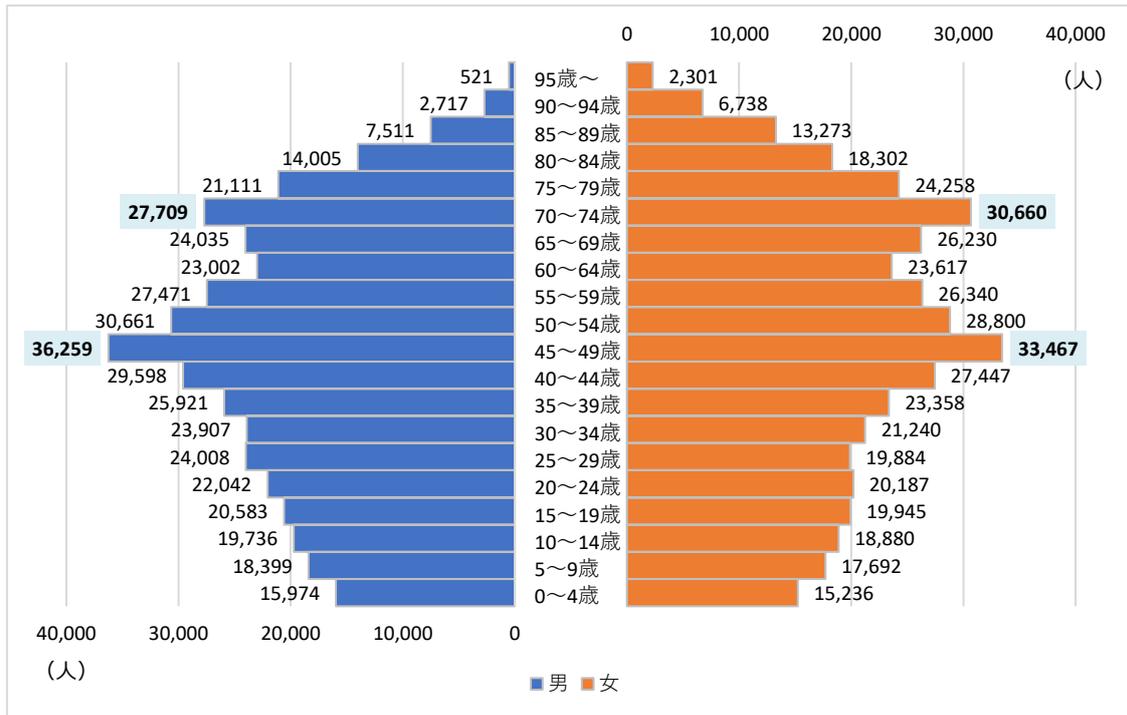
図表 2-29 北勢地域 社人研推計の年齢区分別比率



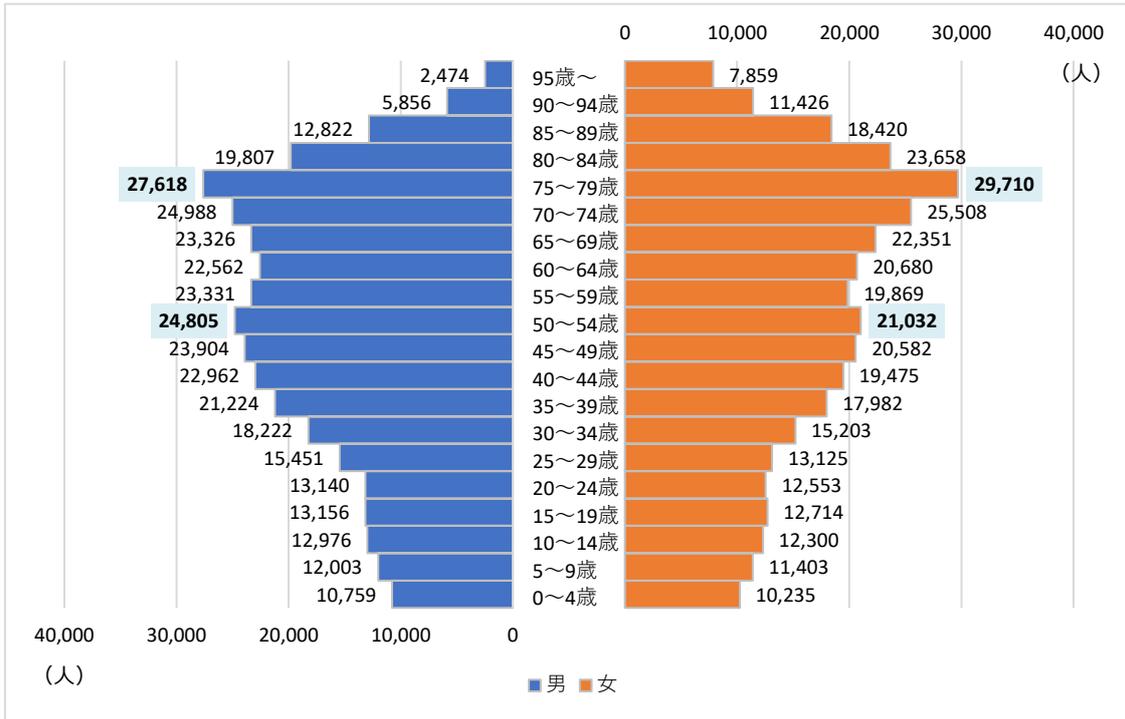
2020年時点の人口ピラミッドでは、45～49歳、70～74歳の人口が多く、45～49歳以下の年代では次第に人口規模が小さくなる。

社人研推計では、2050年には50～54歳、75～79歳の2つの年代を頂点、2080年には70～74歳をピークとし、いずれの年も20～24歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

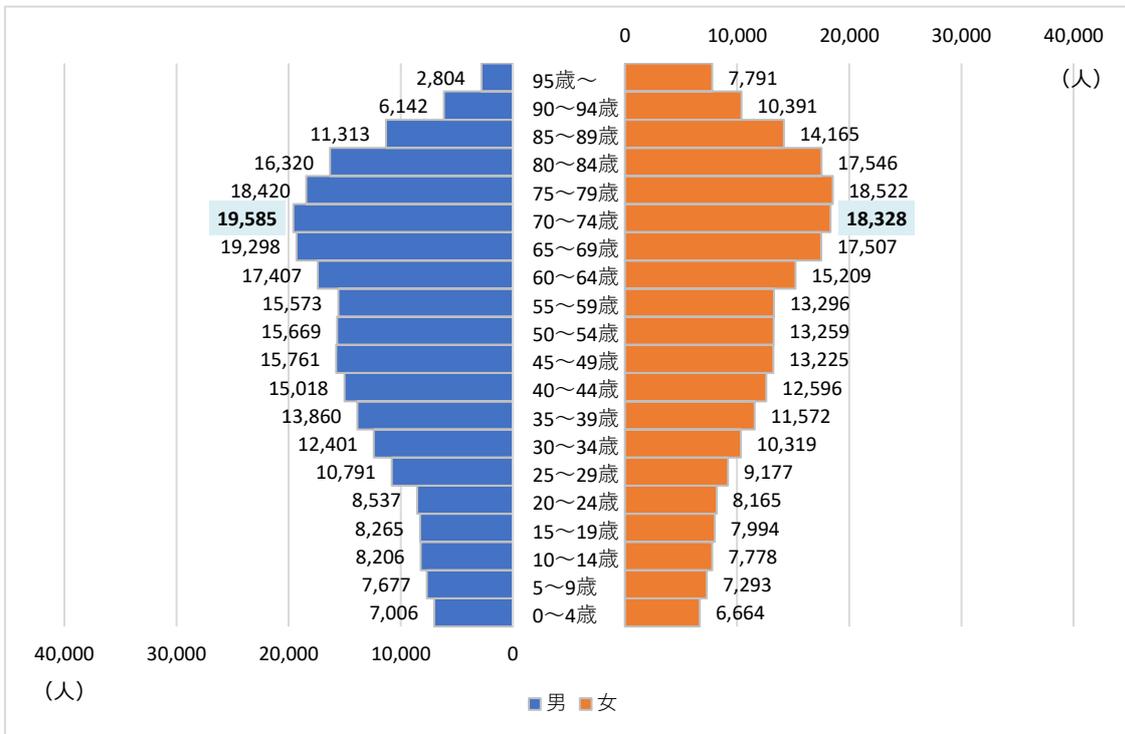
図表 2-30 北勢地域 社人研推計の人口ピラミッド（2020年）



図表 2-31 北勢地域 社人研推計の人口ピラミッド (2050年)



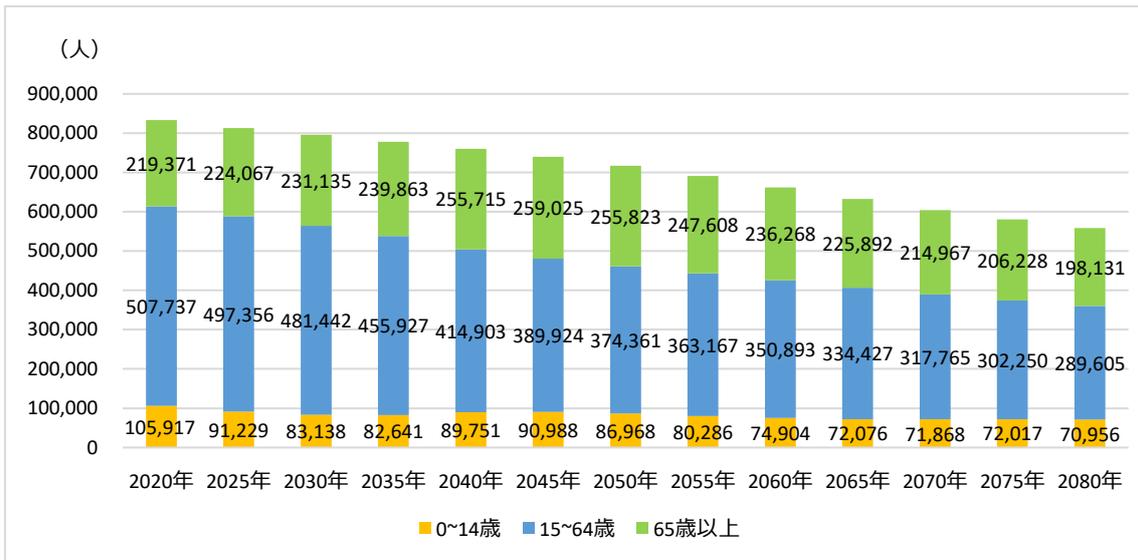
図表 2-32 北勢地域 社人研推計の人口ピラミッド (2080年)



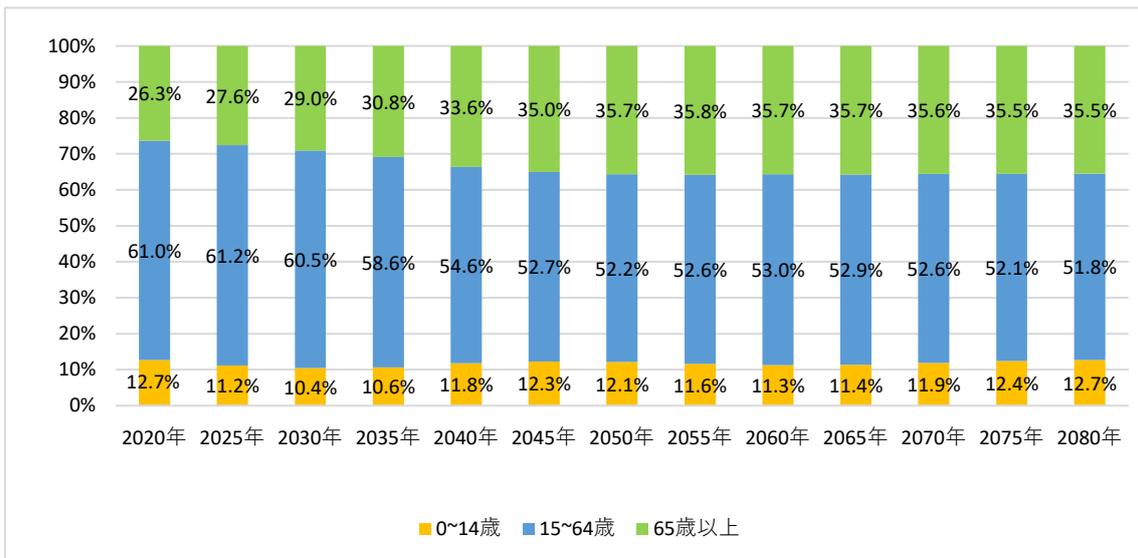
### 3) パターン① 年齢区分別人口／比率と人口ピラミッド

2070年までに北勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶う場合、2080年には年少人口は70,956人、生産年齢人口は289,605人、老年人口は198,131人と推計される。年齢区分別比率では、北勢地域における老年人口の比率は2055年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口12.7%、生産年齢人口51.8%、老年人口35.5%となる。

図表 2-33 北勢地域 パターン①の年齢区分別人口

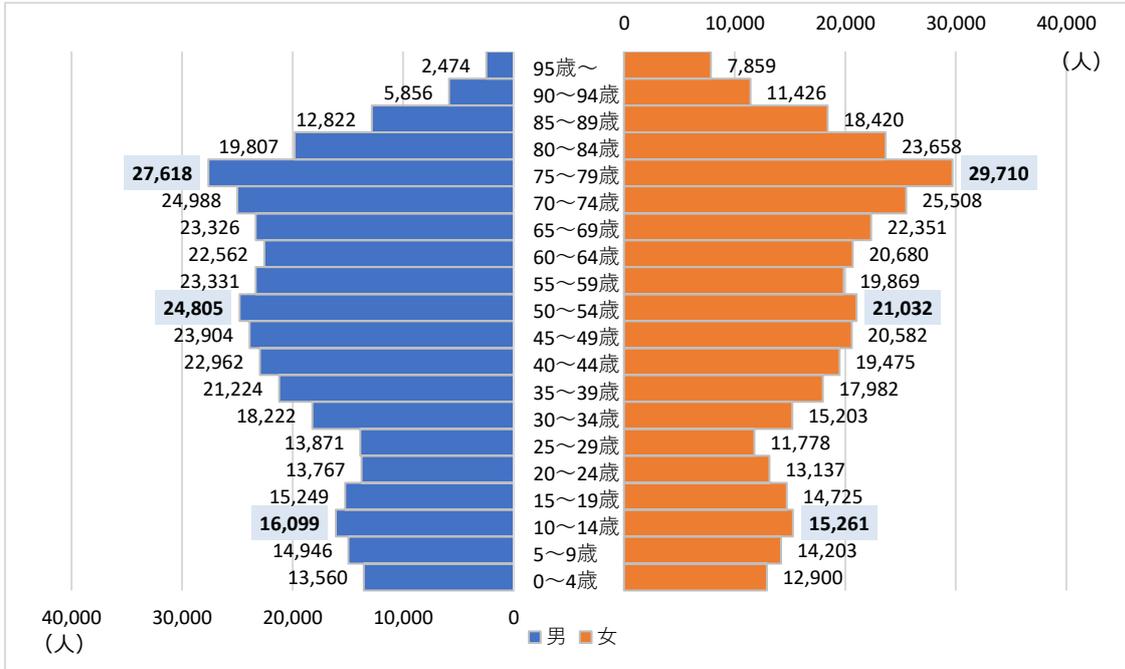


図表 2-34 北勢地域 パターン①の年齢区分別比率

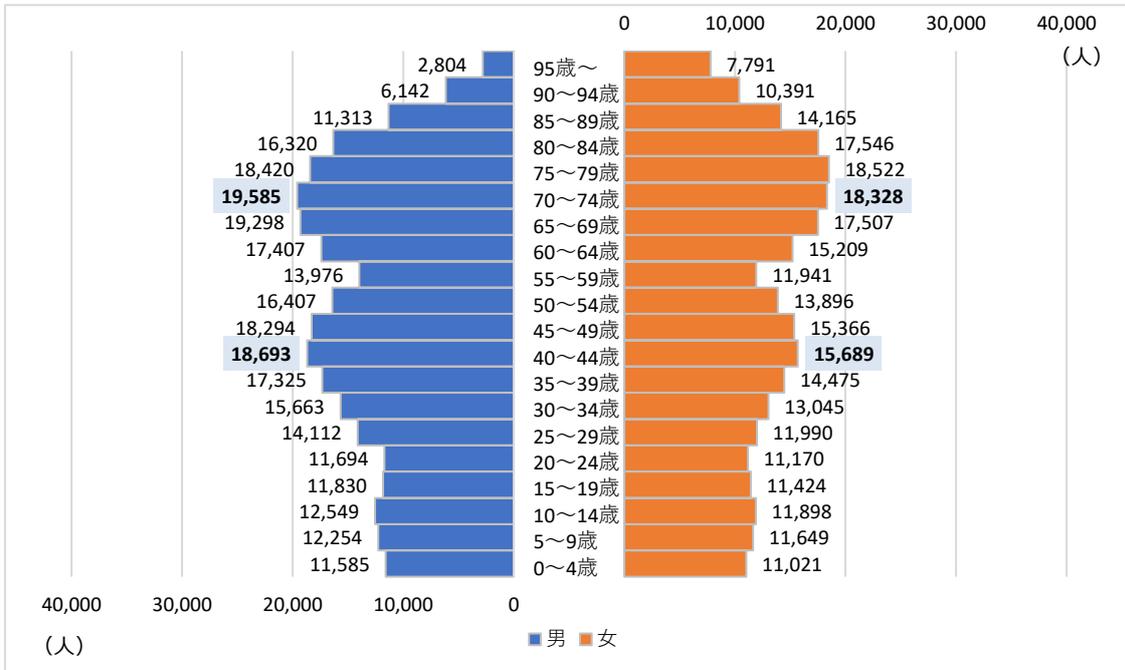


パターン①において、2050年の人口ピラミッドでは、合計特殊出生率が改善した年代（10～14歳）と、50～54歳、75～79歳の3つの年代を頂点とする構造になり、2080年には、40～44歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、20～24歳以下はほぼ同規模の人口規模になると推計された。

図表 2-35 北勢地域 パターン①の人口ピラミッド（2050）



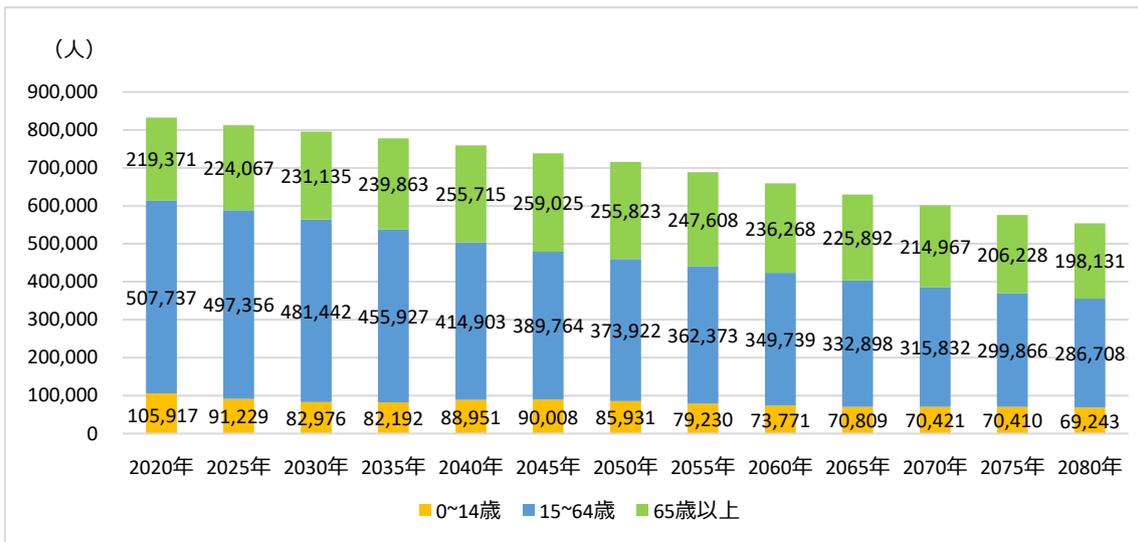
図表 2-36 北勢地域 パターン①の人口ピラミッド（2080）



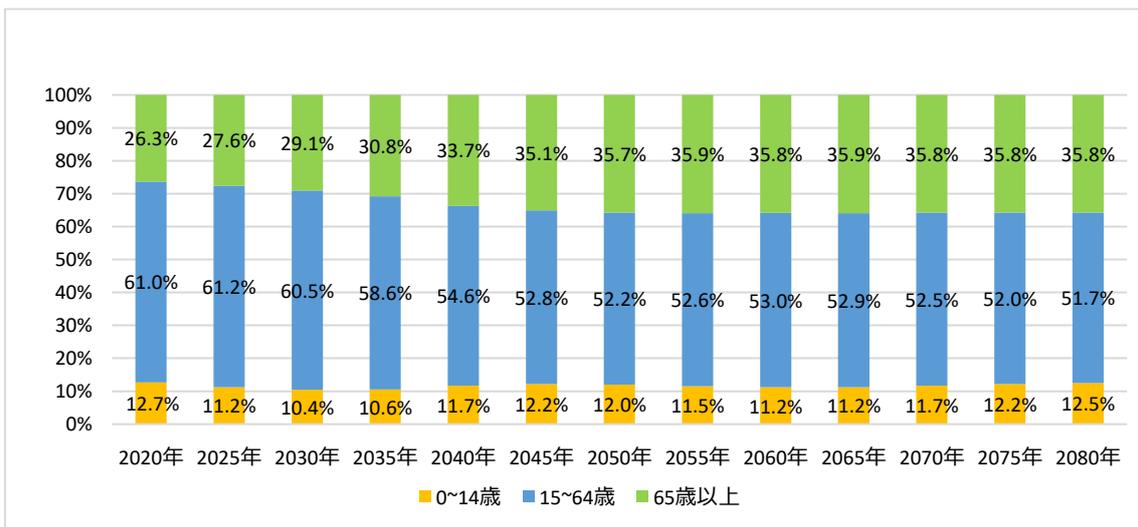
#### 4) パターン② 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年までに北勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶った場合、2080年には年少人口は69,243人、生産年齢人口は286,708人、老年人口は198,131人と推計された。年齢区分別比率では、北勢地域における老年人口の比率は2060年以降ほぼ一定となり、2080年には年少人口12.5%、生産年齢人口51.7%、老年人口35.8%になると推計された。

図表 2-37 北勢地域 パターン②の年齢区分別人口

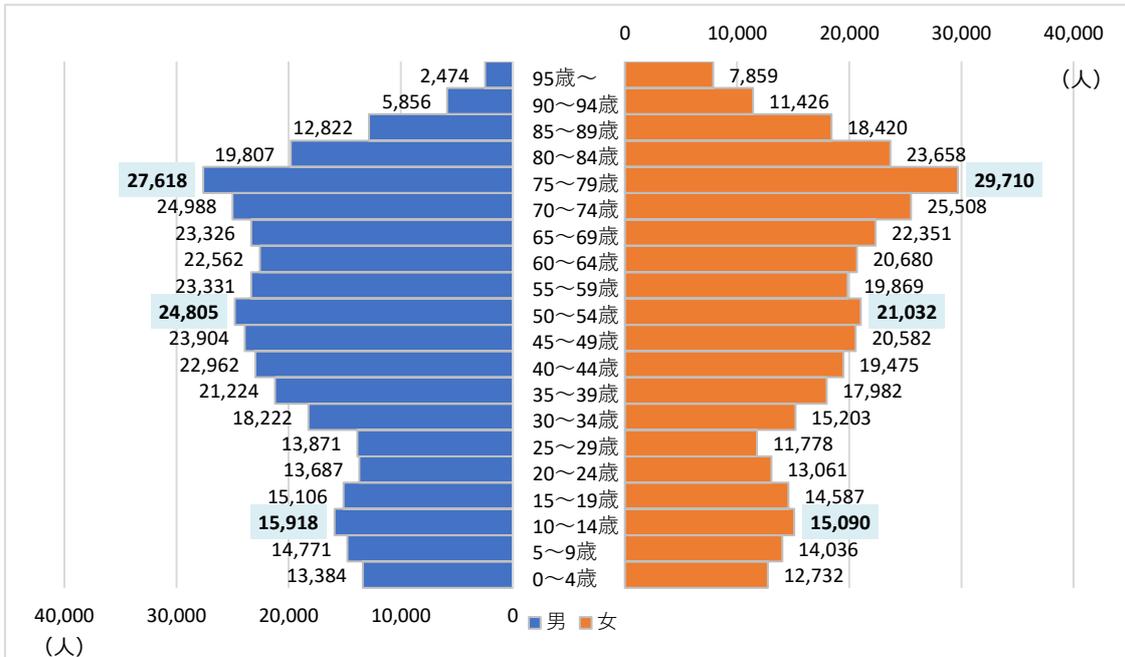


図表 2-38 北勢地域 パターン②の年齢区分別比率

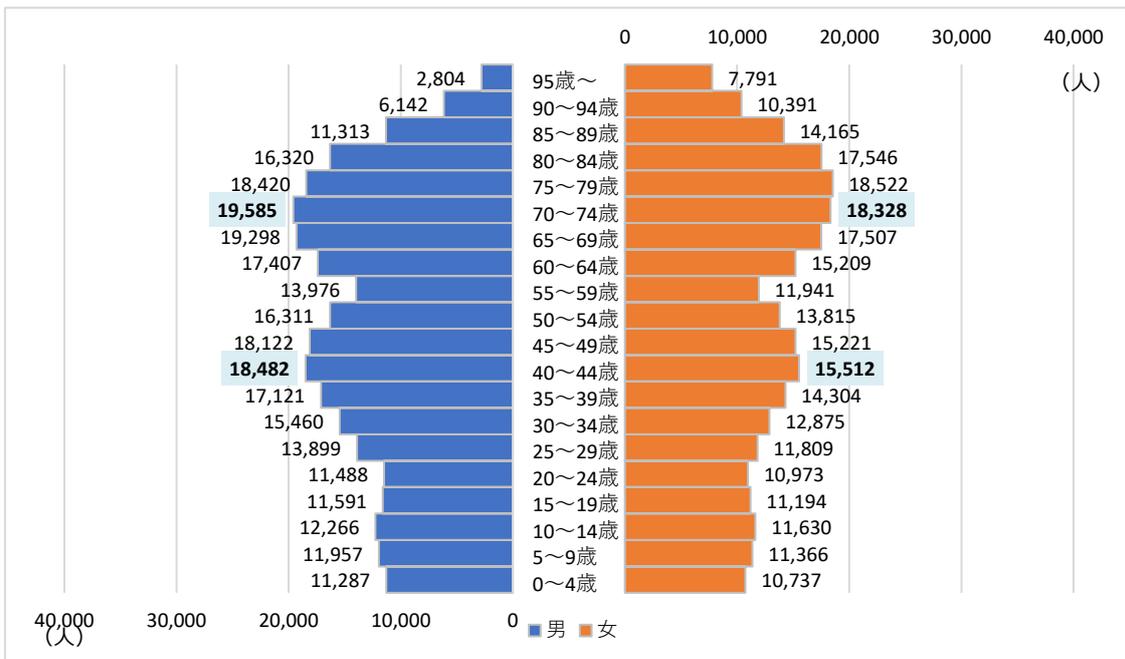


パターン②の 2050 年の人口ピラミッドは、合計特殊出生率が改善した年代（10～14 歳）と、50～54 歳、75～79 歳の 3 つの年代を頂点とする構造になり、2080 年には、40～44 歳、70～74 歳の 2 つの年代を頂点とし、20～24 歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-39 北勢地域 パターン②の人口ピラミッド（2050）



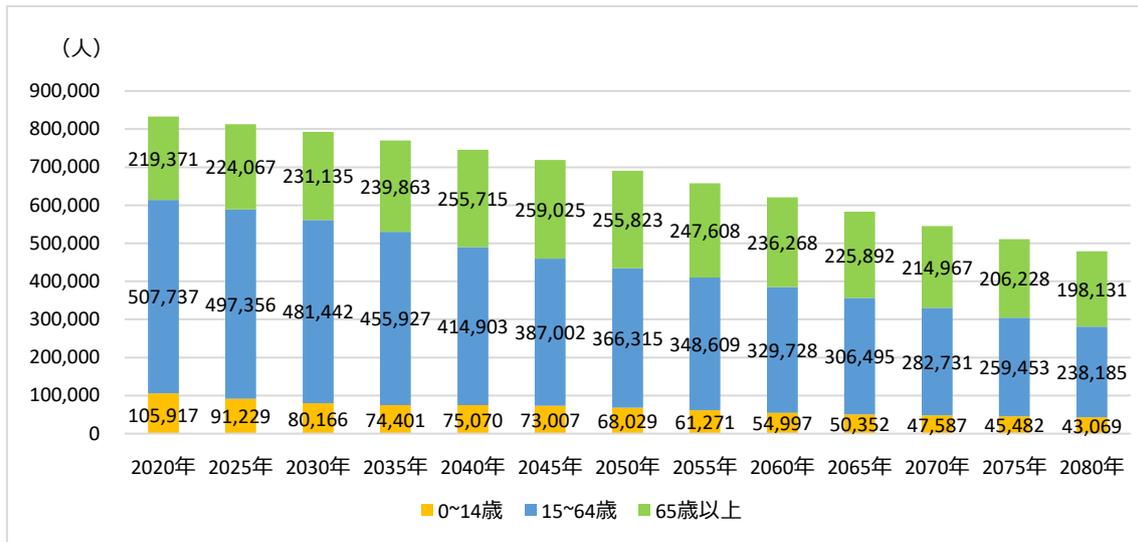
図表 2-40 北勢地域 パターン②の人口ピラミッド（2080）



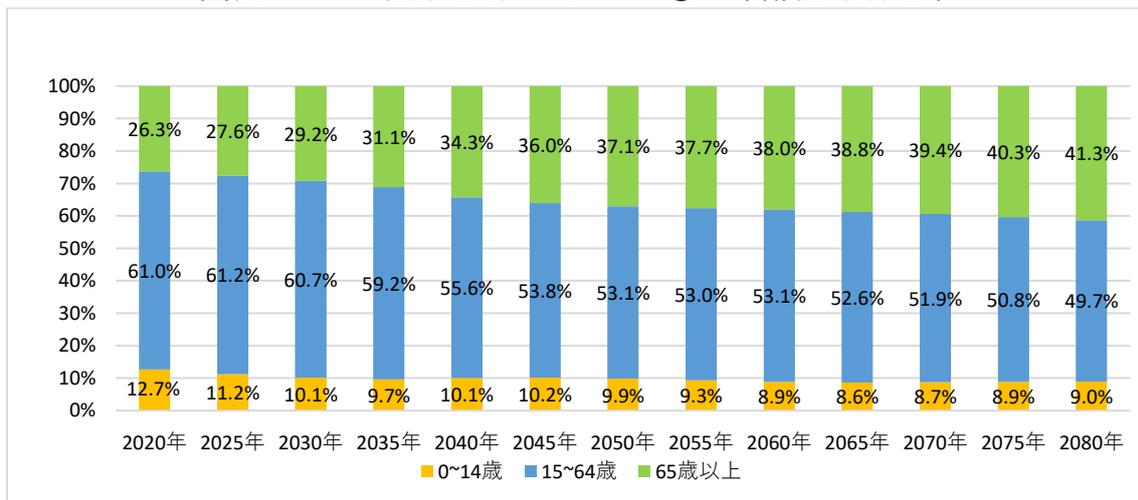
### 5) パターン③ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は43,069人、生産年齢人口は238,185人、老年人口は198,131人と推計された。また、年齢区分別比率では、北勢地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口9.0%、生産年齢人口49.7%、老年人口41.3%になると推計された。

図表 2-41 北勢地域 パターン③の年齢区分別人口

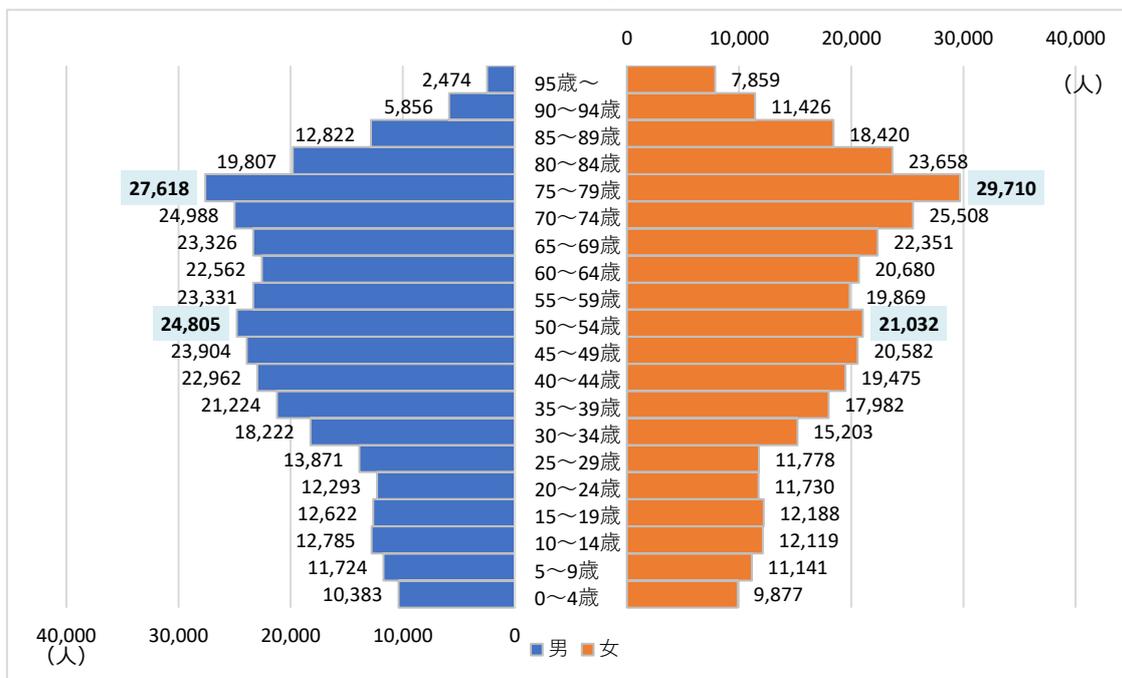


図表 2-42 北勢地域 パターン③の年齢区分別比率

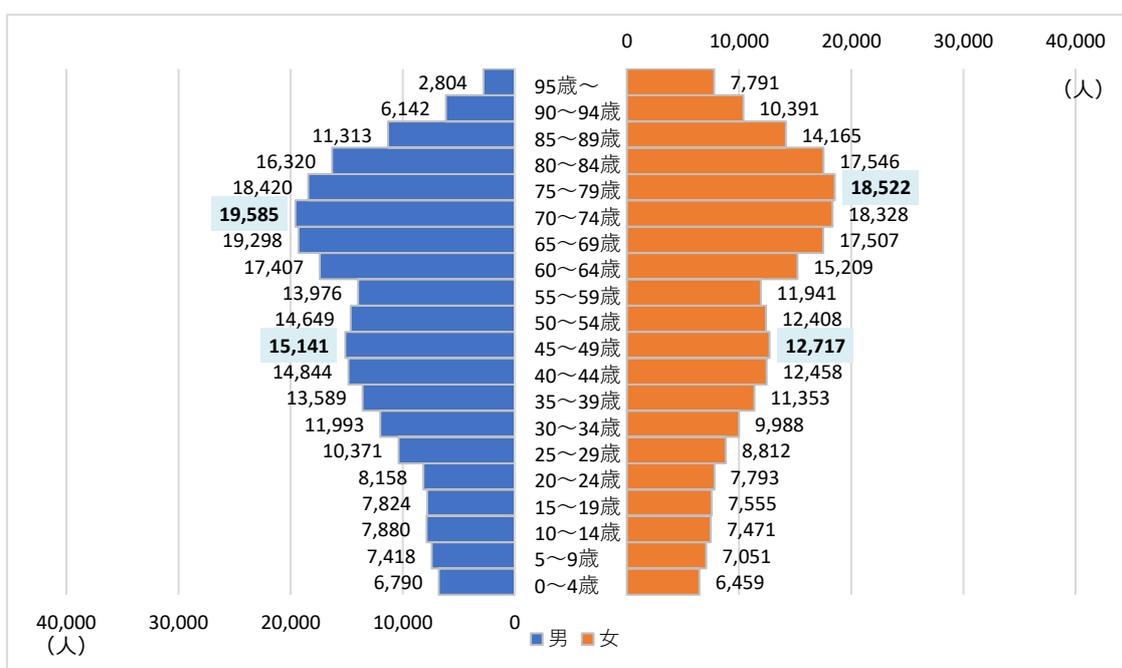


パターン③の2050年の人口ピラミッドは、50～54歳、75～79歳の2つの年代を頂点とする構造になる。2080年には、45～49歳と70～79歳の2つの頂点を持ち、45～49歳以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-43 北勢地域 パターン③の人口ピラミッド (2050)



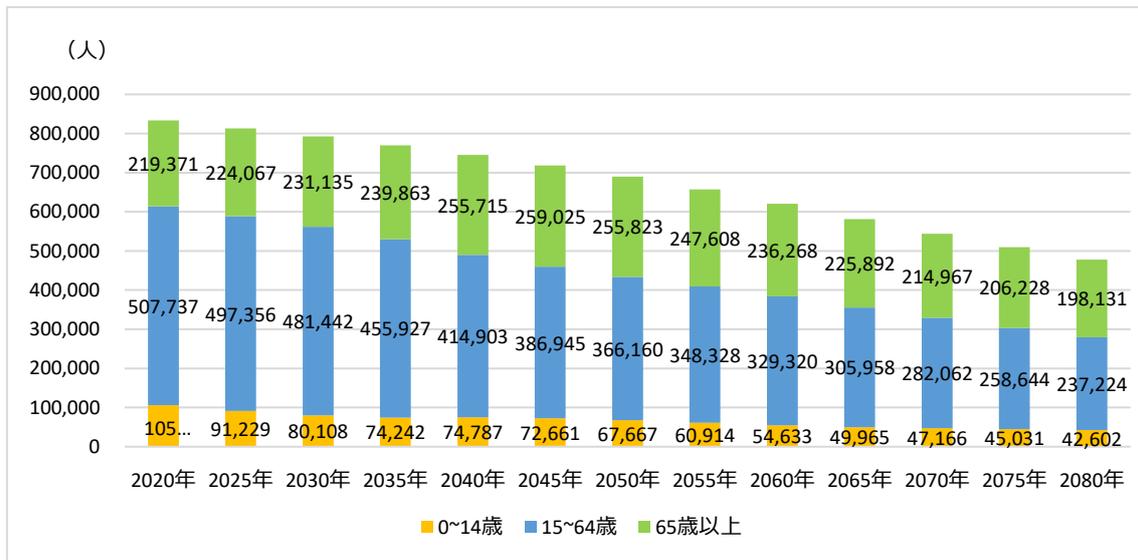
図表 2-44 北勢地域 パターン③の人口ピラミッド (2080)



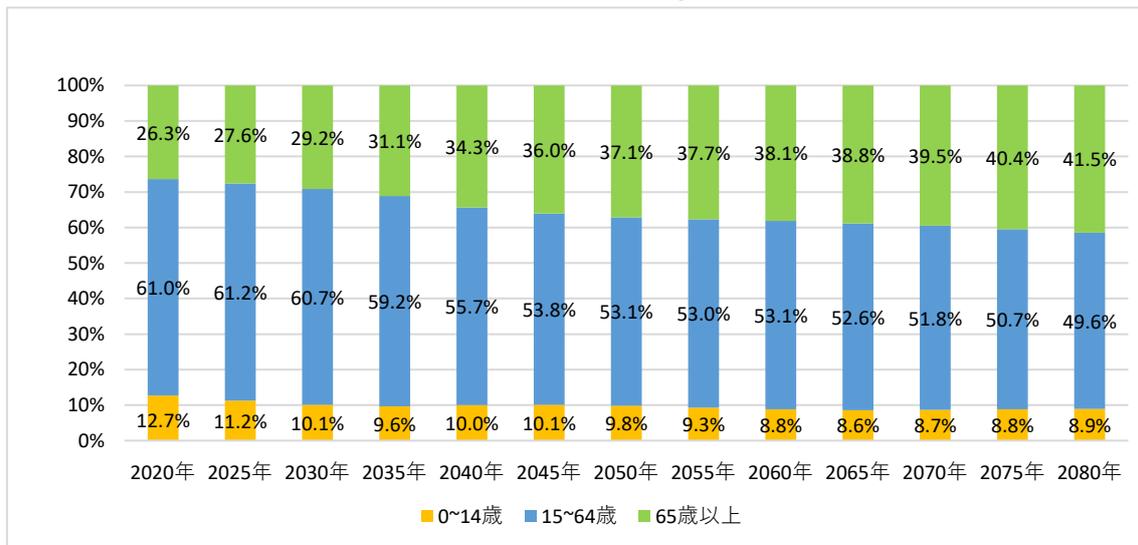
## 6) パターン④ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は42,602人、生産年齢人口は237,224人、老年人口は198,131人と推計された。また、年齢区分別比率では、北勢地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口8.9%、生産年齢人口49.6%、老年人口41.5%になると推計された。

図表 2-45 北勢地域 パターン④の年齢区分別人口

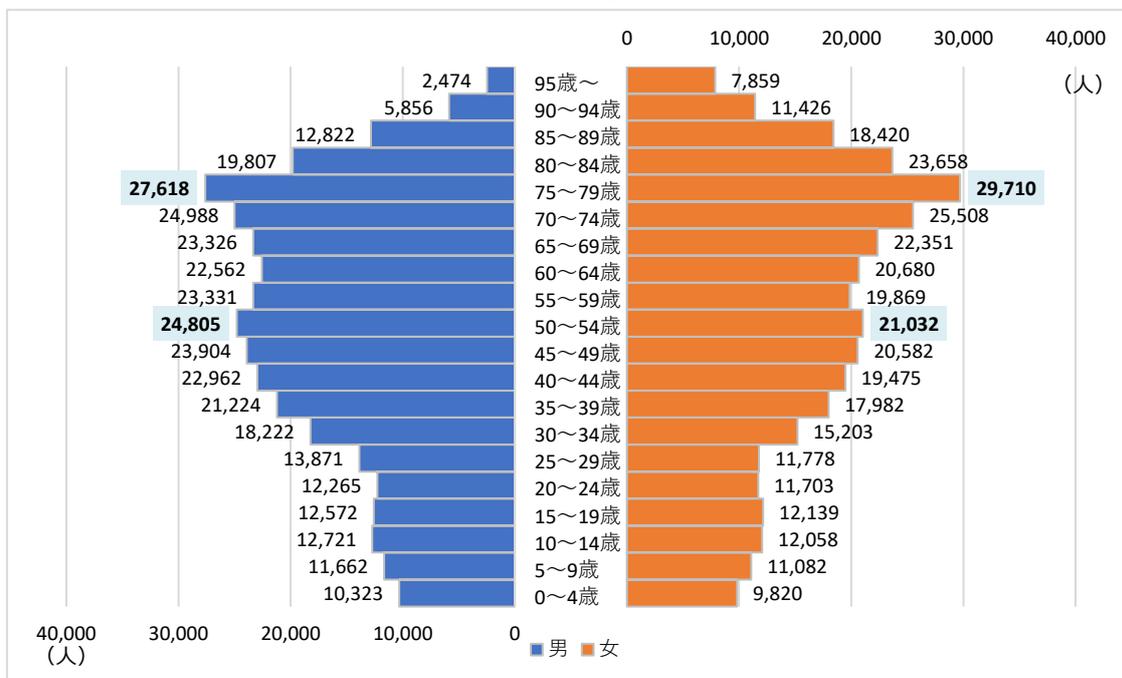


図表 2-46 北勢地域 パターン④の年齢区分別比率

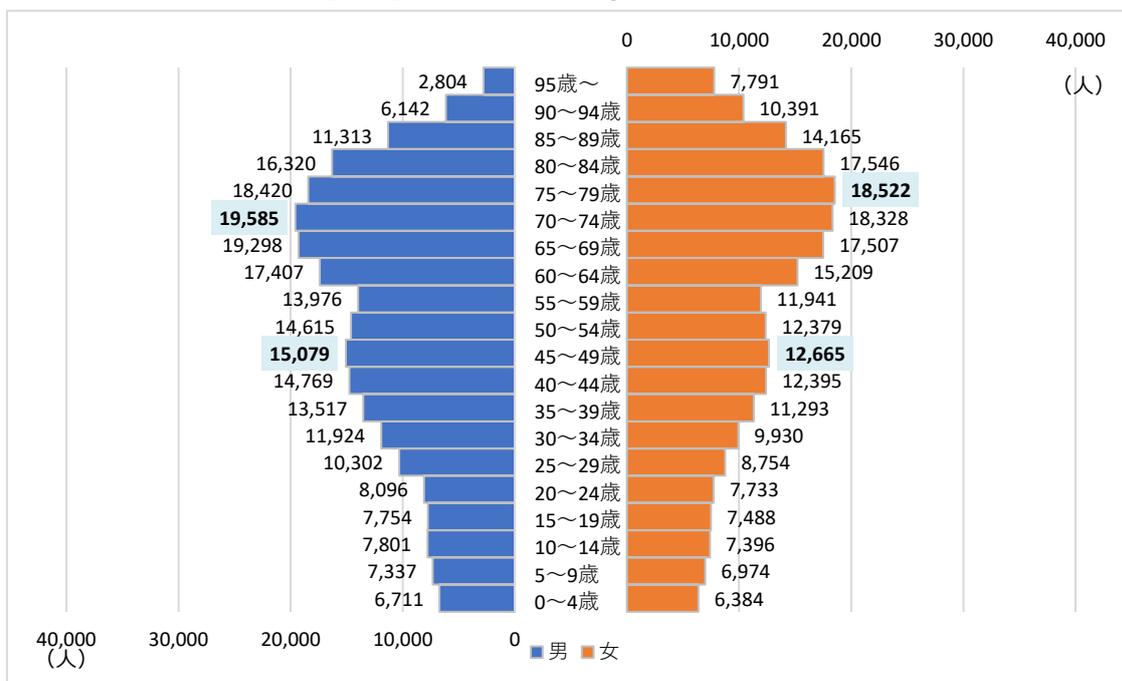


パターン④の2050年の人口ピラミッドは、50～54歳、75～79歳の2つの年代を頂点とする構造になる。2080年には、45～49歳と70～79歳の2つの頂点を持ち、45～49歳以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-47 北勢地域 パターン④の人口ピラミッド (2050)



図表 2-48 北勢地域 パターン④の人口ピラミッド (2080)



## (2) 中勢地域

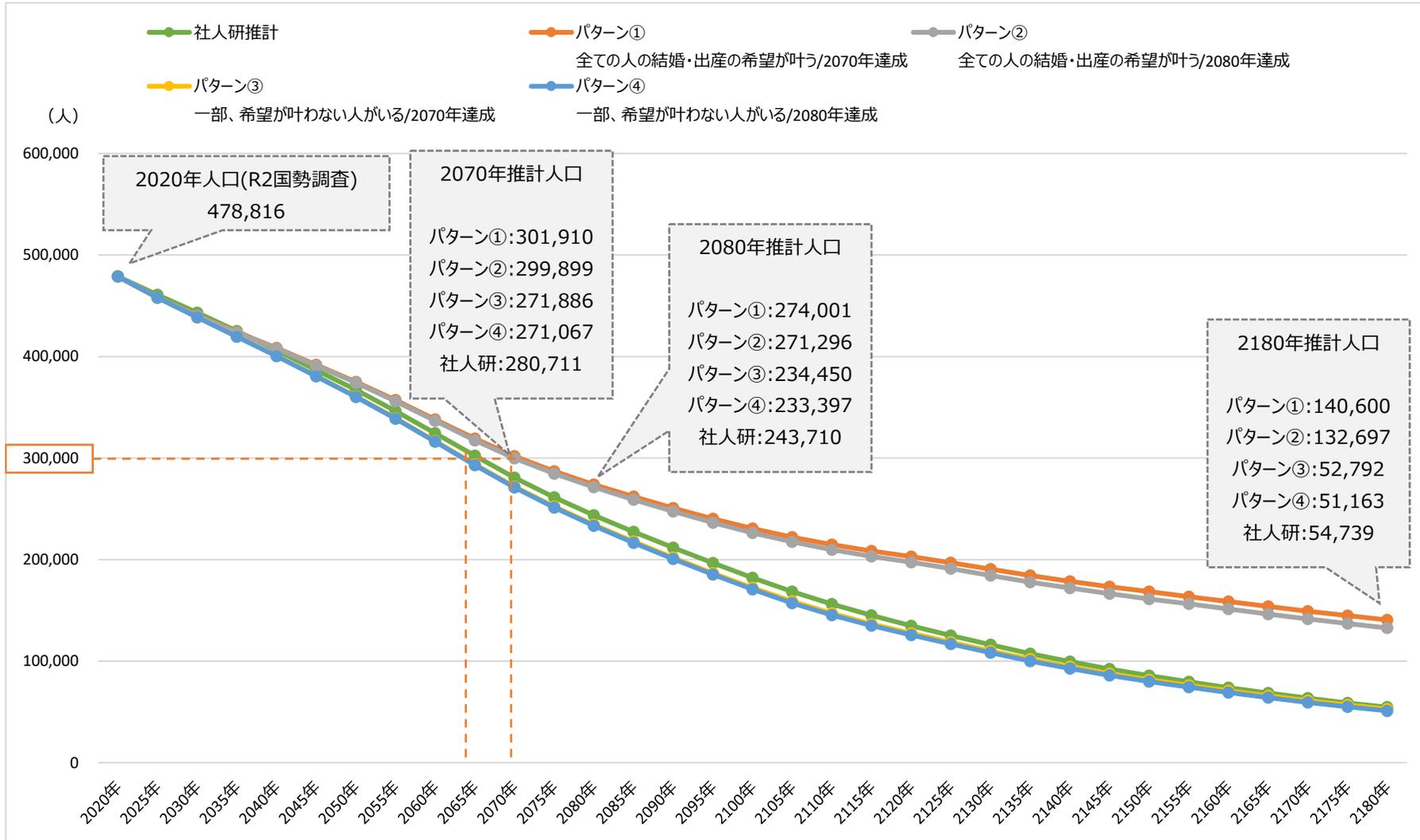
### 1) 総人口

令和2年国勢調査によると、中勢地域の2020年時点での人口は478,816人である。社人研推計では、中勢地域の総人口は2080年には243,710人、2180年には54,739人まで減少する見込みである。

中勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が2070年までに叶う場合(パターン①)は、2080年に274,001人、2180年に140,600人と推計され、2080年までに叶う場合(パターン②)には、2080年に271,296人、2180年に132,697人と推計された。

また、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合、2070年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン(パターン③)では2080年に234,450人、2180年に52,792人と推計され、2080年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン(パターン④)では、2080年に233,397人、2180年に51,163人と推計された。

図表 2-49 中勢地域 推計パターン別の総人口



(単位：人)

推計パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研推計	478,816	460,685	443,080	424,999	406,105	386,710	367,149	346,347	324,432	302,240	280,711
①	478,816	457,997	440,319	424,132	408,422	391,961	375,130	357,060	338,108	319,238	301,910
②	478,816	457,997	440,216	423,850	407,920	391,247	374,204	355,910	336,710	317,555	299,899
③	478,816	457,997	438,715	419,716	400,564	380,781	360,685	339,292	316,728	293,817	271,886
④	478,816	457,997	438,670	419,589	400,339	380,461	360,273	338,789	316,129	293,114	271,067

推計パターン	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年	2105年	2110年	2115年	2120年	2125年
社人研推計	261,303	243,710	227,344	211,776	196,643	182,186	168,623	156,289	145,159	134,942	125,268
①	287,046	274,001	262,017	250,876	240,332	230,670	222,047	214,766	208,606	203,050	197,014
②	284,689	271,296	258,966	247,467	236,553	226,505	217,492	209,826	203,301	197,413	191,087
③	252,236	234,450	217,838	202,043	186,764	172,295	158,903	147,037	136,710	127,606	118,793
④	251,299	233,397	216,674	200,772	185,387	170,814	157,322	145,363	134,958	125,795	116,948

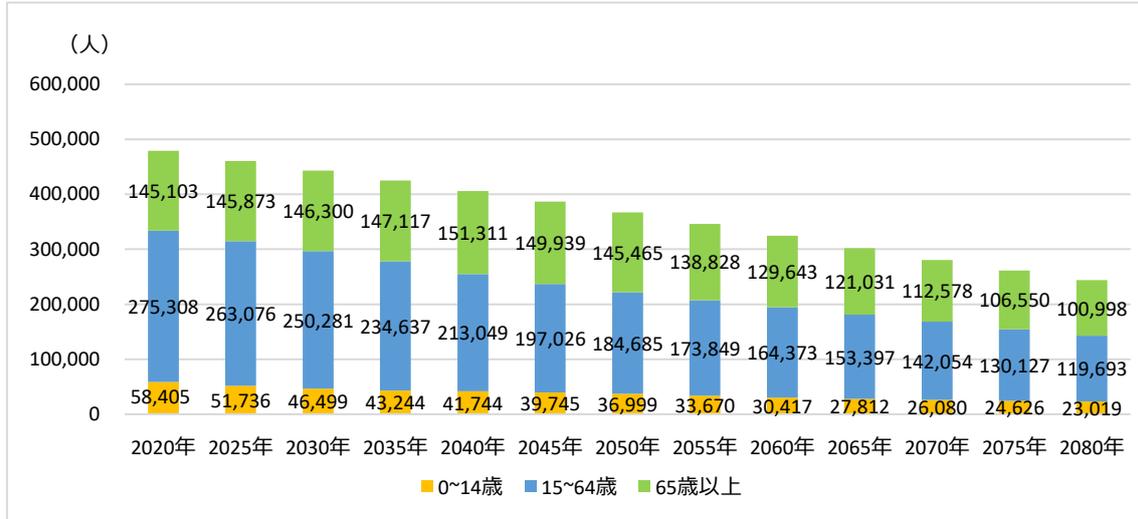
推計パターン	2130年	2135年	2140年	2145年	2150年	2155年	2160年	2165年	2170年	2175年	2180年
社人研推計	116,092	107,509	99,601	92,386	85,795	79,680	73,943	68,573	63,587	58,984	54,739
①	190,636	184,375	178,610	173,347	168,423	163,597	158,755	153,915	149,239	144,806	140,600
②	184,451	177,946	171,947	166,463	161,336	156,332	151,334	146,357	141,555	137,008	132,697
③	110,210	102,076	94,631	87,913	81,823	76,179	70,856	65,815	61,110	56,774	52,792
④	108,349	100,210	92,767	86,055	79,979	74,357	69,065	64,060	59,395	55,101	51,163

※表中赤字箇所は、各パターンにおいて総人口 30 万人を初めて下回った年次を示す。

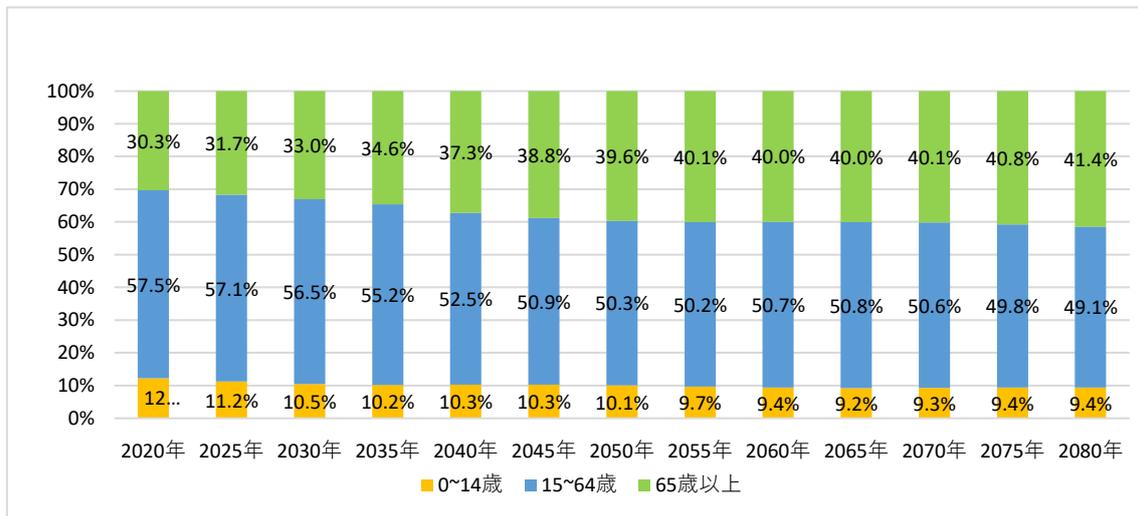
## 2) 社人研推計

社人研推計では、2080年には年少人口は23,019人、生産年齢人口は119,693人、老年人口は100,998人と推計された。年齢区分別比率では、中勢地域における老年人口の比率は増え続ける傾向にあり、2080年には年少人口9.4%、生産年齢人口49.1%、老年人口41.4%になると推計された。

図表 2-50 中勢地域 社人研推計の年齢区分別人口

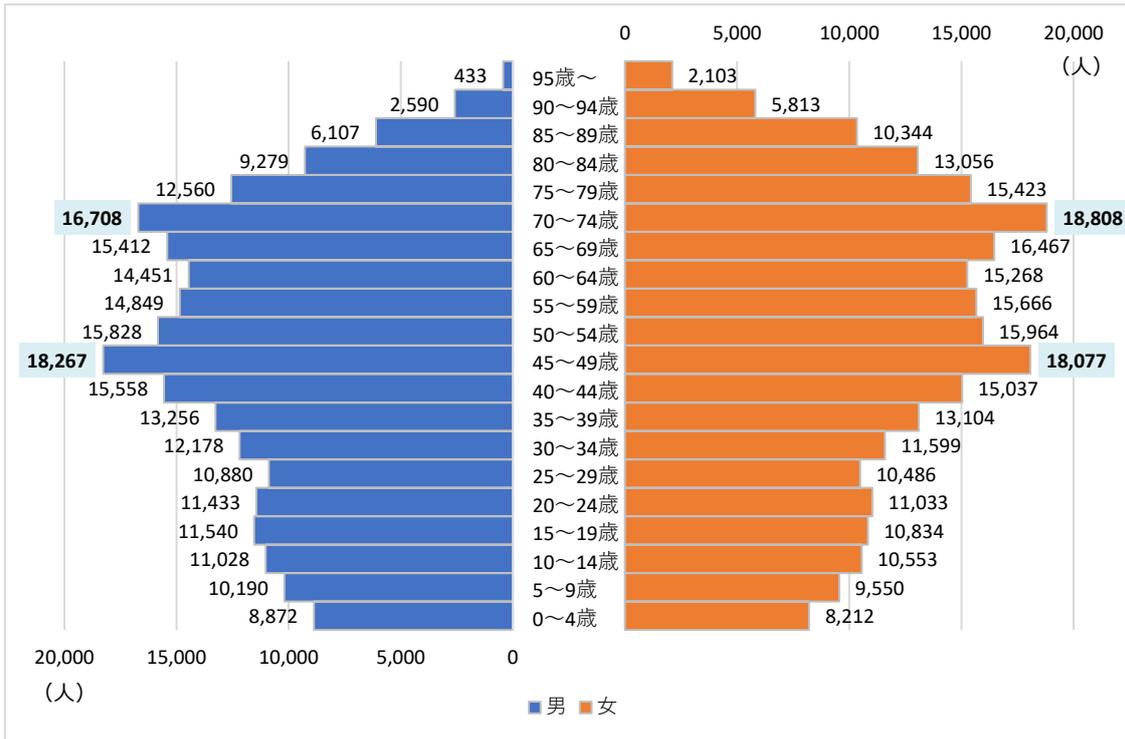


図表 2-51 中勢地域 社人研推計の年齢区分別比率

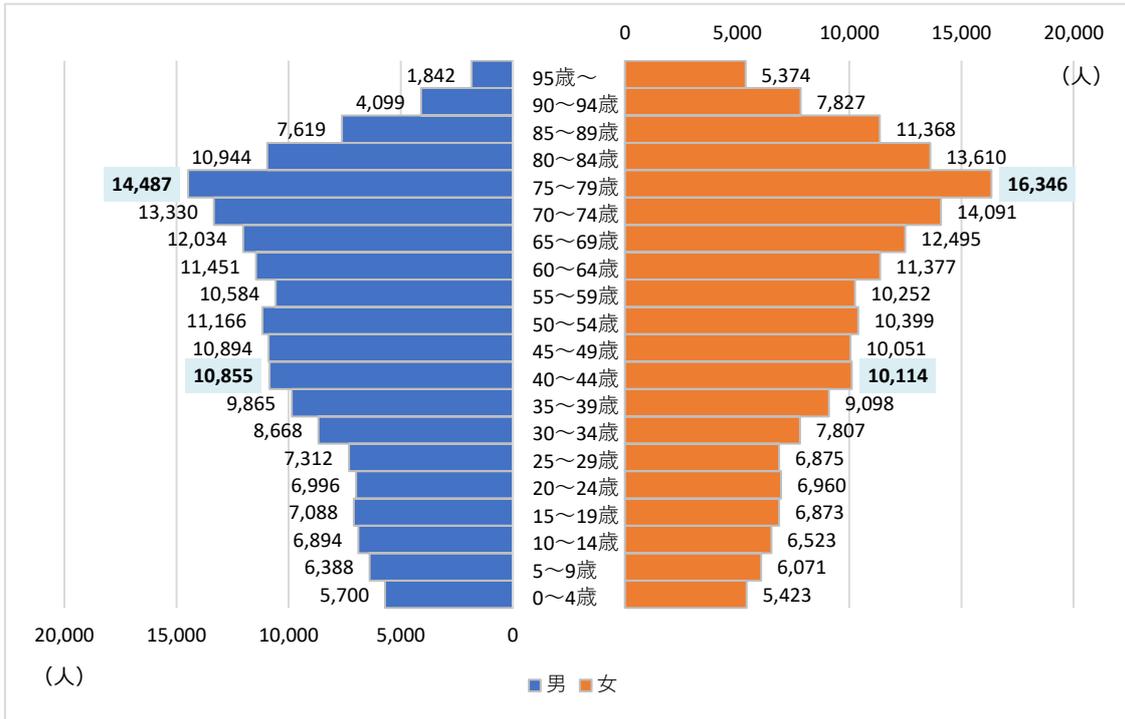


2020年時点の中勢地域の人口ピラミッドは、45～49歳、70～74歳の人口が多いつぼ型に近い構造となっている。2050年では40～44歳と75～79歳の2つの年代を頂点とし、40～44歳以下の年代は人口規模が次第に縮小していく構造になる。2080年には、70～74歳の年代を頂点としそれ以下の人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

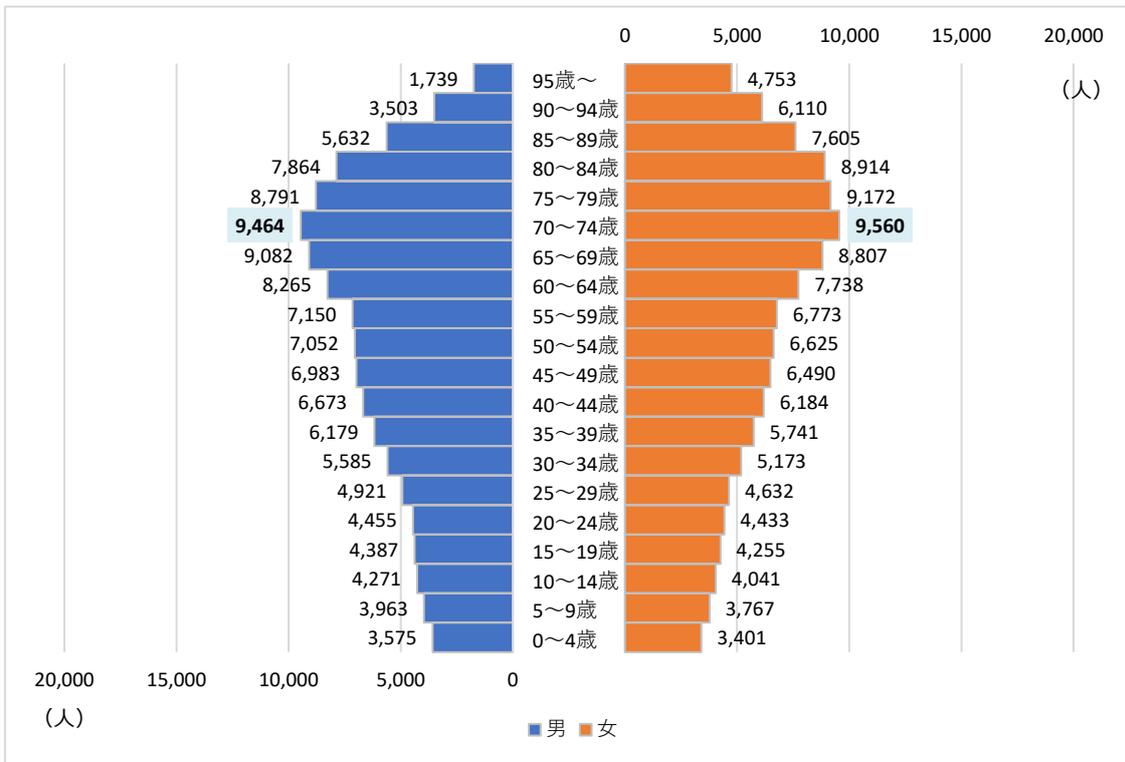
図表 2-52 中勢地域 社人研推計の人口ピラミッド（2020年）



図表 2-53 中勢地域 社人研推計の人口ピラミッド (2050年)



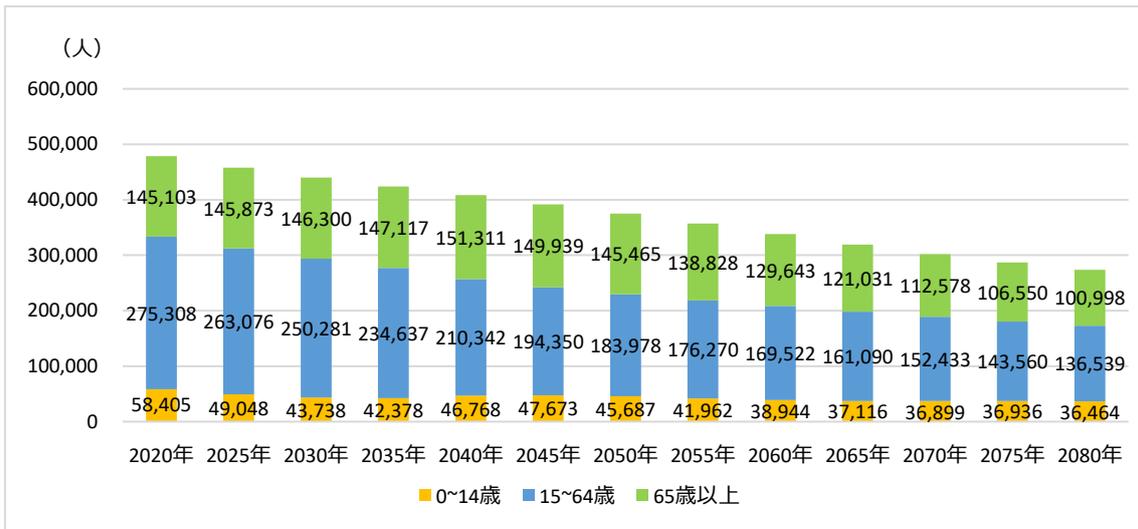
図表 2-54 中勢地域 社人研推計の人口ピラミッド (2080年)



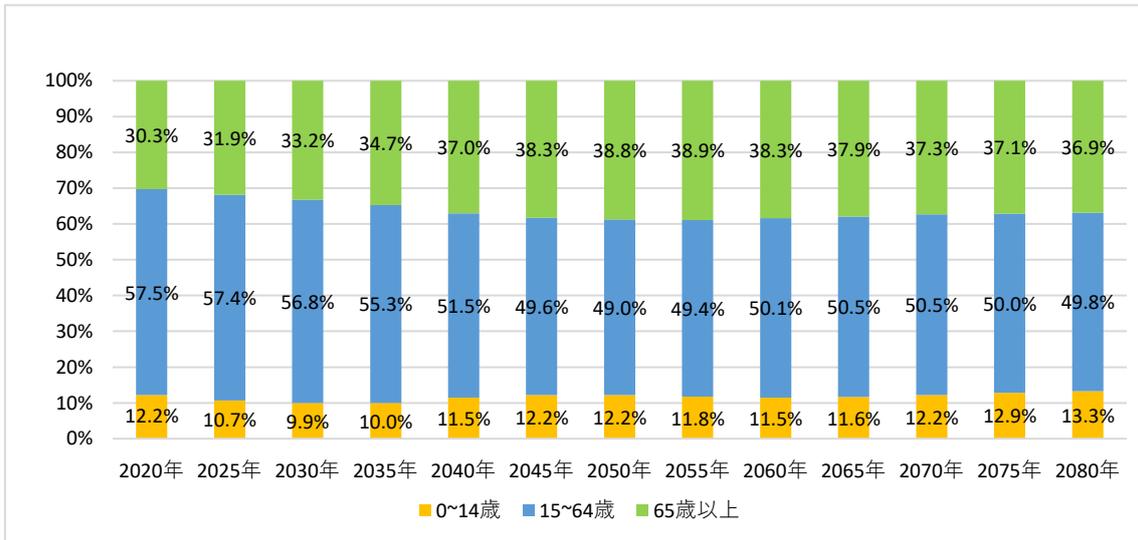
### 3) パターン① 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年までに中勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶う場合、2080年には年少人口は36,464人、生産年齢人口は136,539人、老年人口は100,998人と推計された。年齢区分別比率では、中勢地域における老年人口の比率は2055年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口13.3%、生産年齢人口49.8%、老年人口36.9%になると推計された。

図表 2-55 中勢地域 パターン①の年齢区分別人口

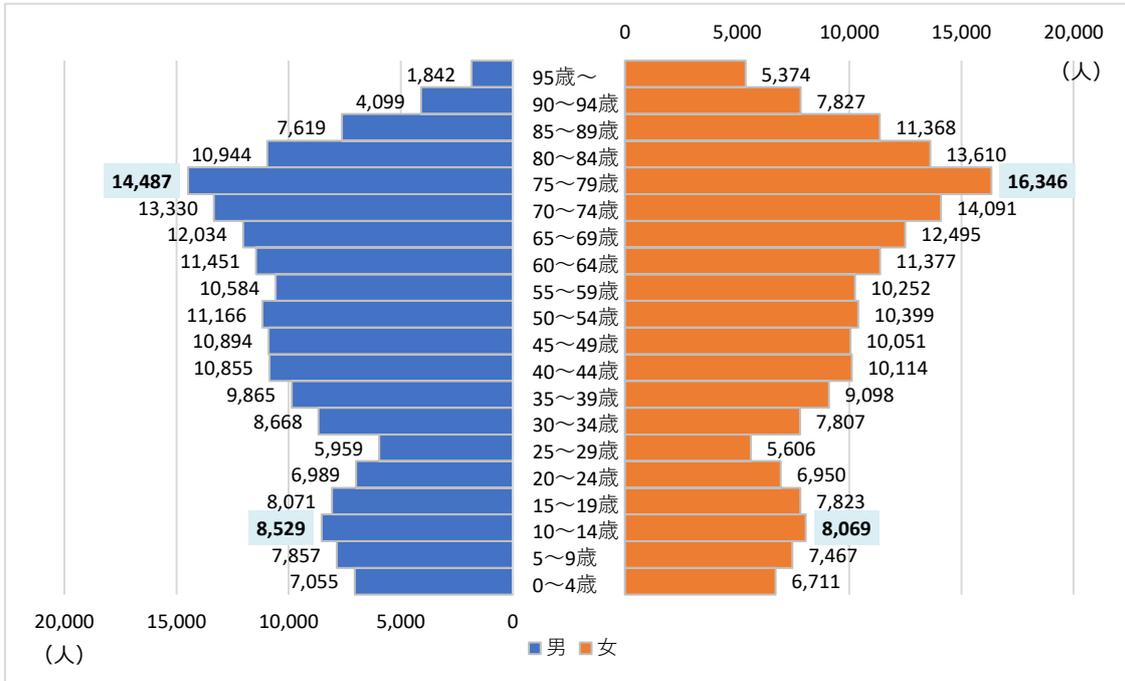


図表 2-56 中勢地域 パターン①の年齢区分別比率

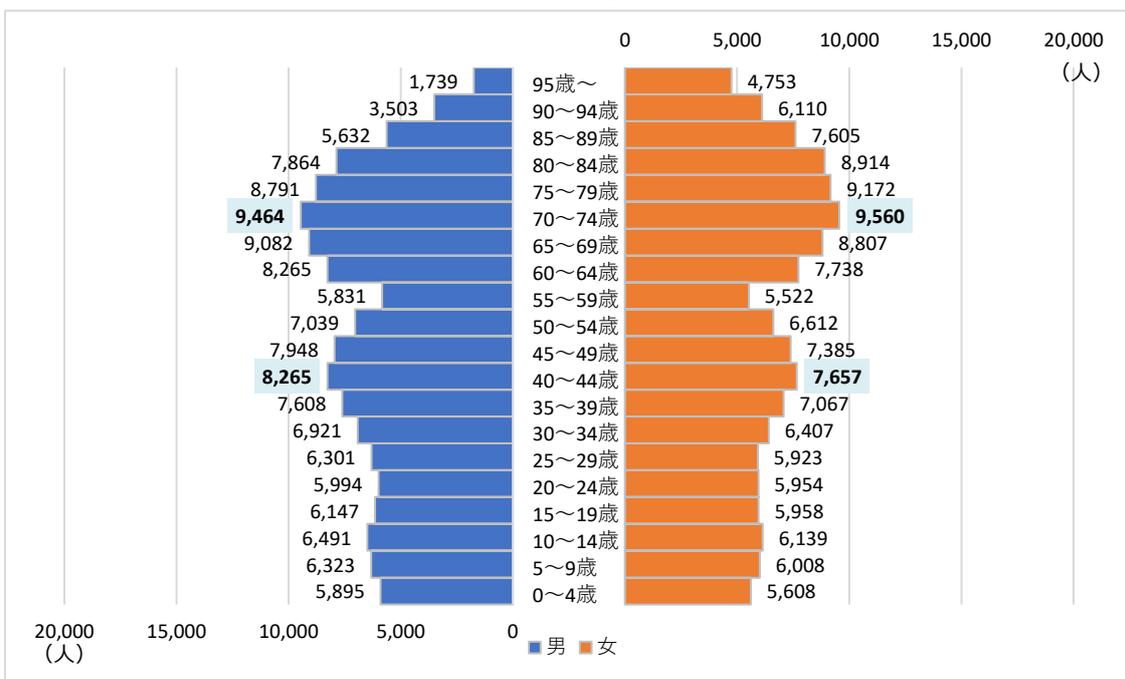


パターン①の2050年の人口ピラミッドは、10～14歳と75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になり、2080年には、40～44歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、25～29歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-57 中勢地域 パターン①の人口ピラミッド (2050)



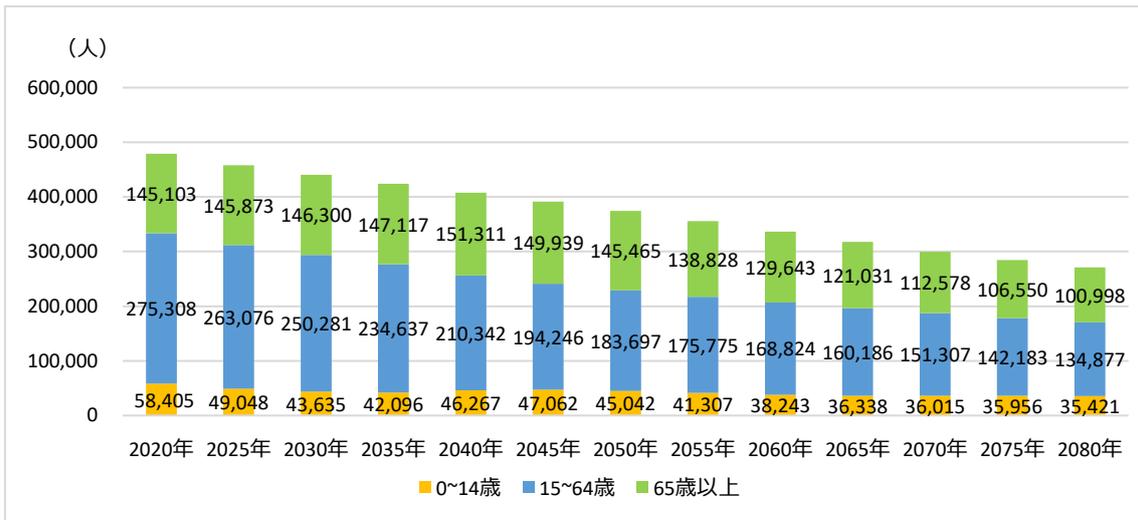
図表 2-58 中勢地域 パターン①の人口ピラミッド (2080)



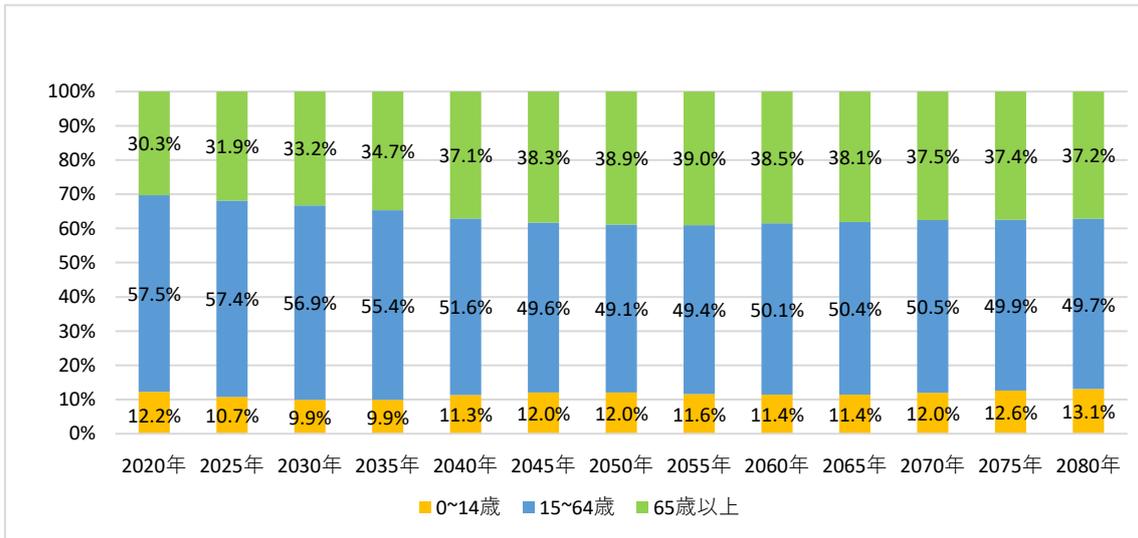
#### 4) パターン② 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年までに中勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶った場合、2080年には年少人口は35,421人、生産年齢人口は134,877人、老年人口は100,998人と推計された。年齢区分別比率では、中勢地域における老年人口の比率は2055年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口13.1%、生産年齢人口49.7%、老年人口37.2%になると推計された。

図表 2-59 中勢地域 パターン②の年齢区分別人口

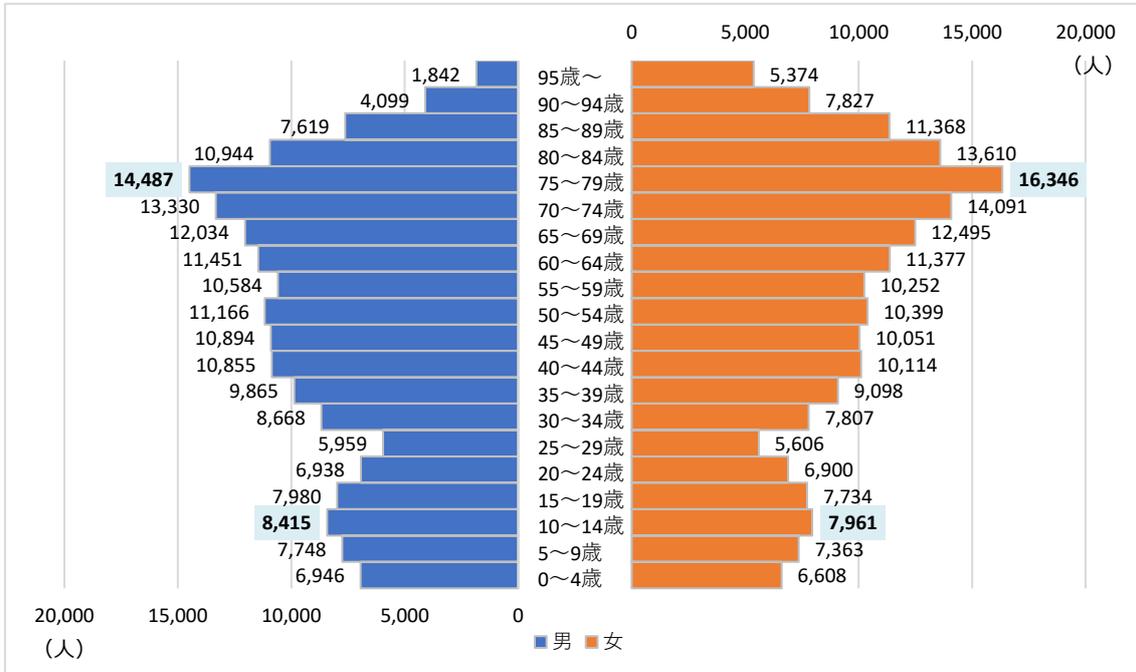


図表 2-60 中勢地域 パターン②の年齢区分別比率

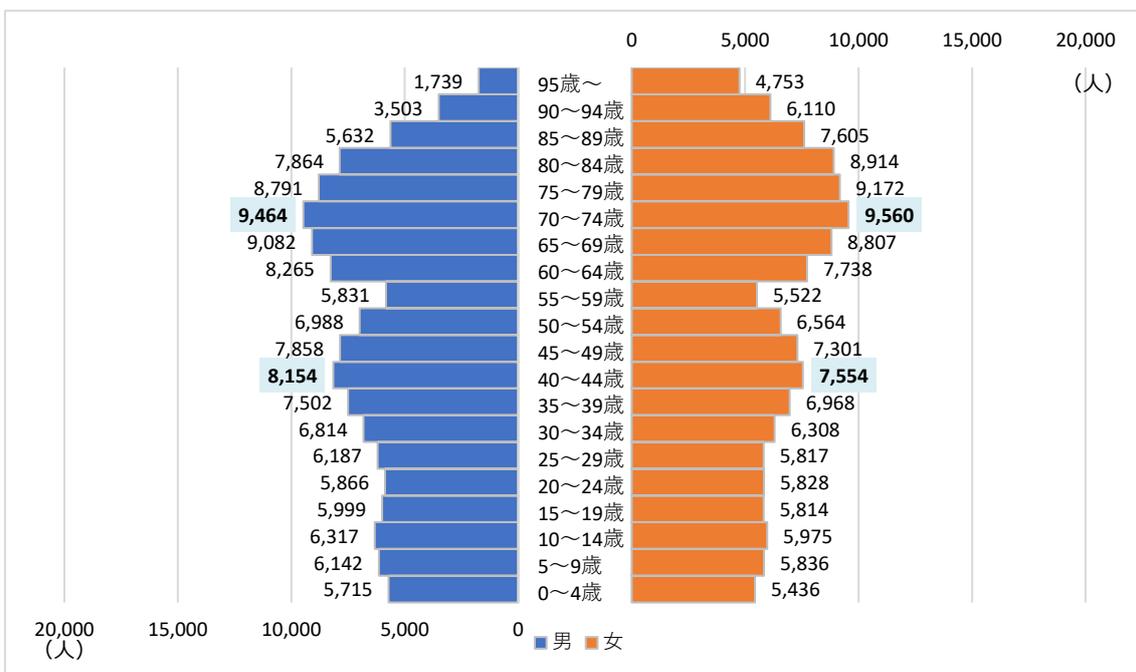


パターン②の2050年の人口ピラミッドは、10～14歳と75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になり、2080年には、40～44歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、25～29歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-61 中勢地域 パターン②の人口ピラミッド (2050)



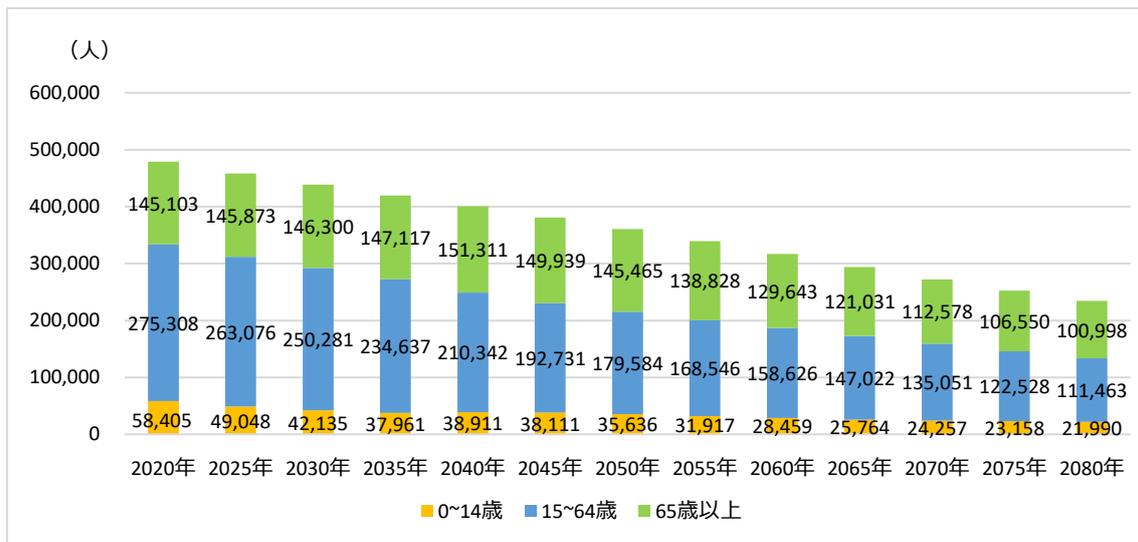
図表 2-62 中勢地域 パターン②の人口ピラミッド (2080)



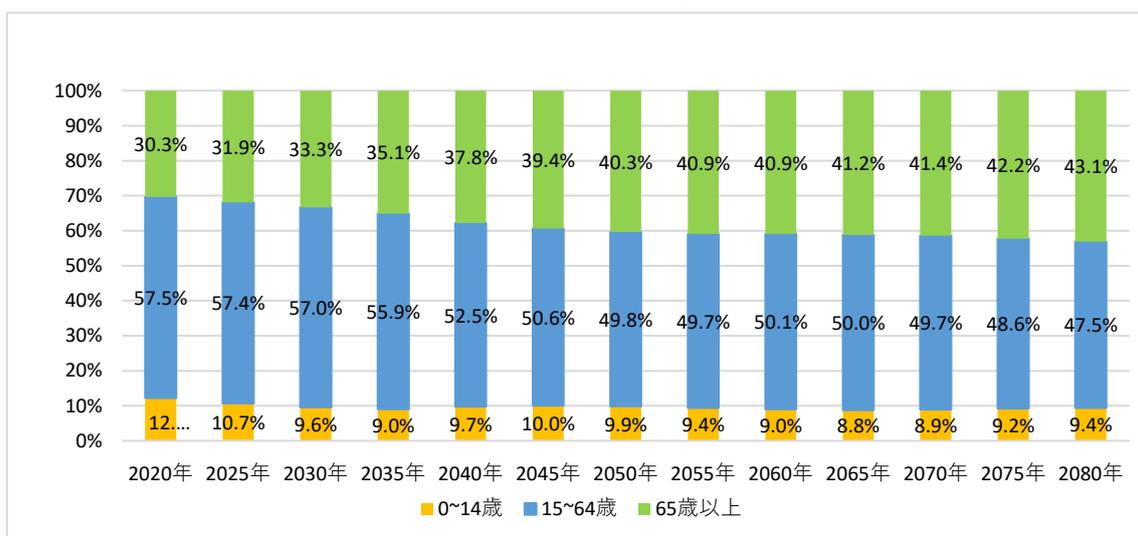
### 5) パターン③ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は21,990人、生産年齢人口は111,463人、老年人口は100,998人と推計された。また、年齢区分別比率では、中勢地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口9.4%、生産年齢人口47.5%、老年人口43.1%になると推計された。

図表 2-63 中勢地域 パターン③の年齢区分別人口

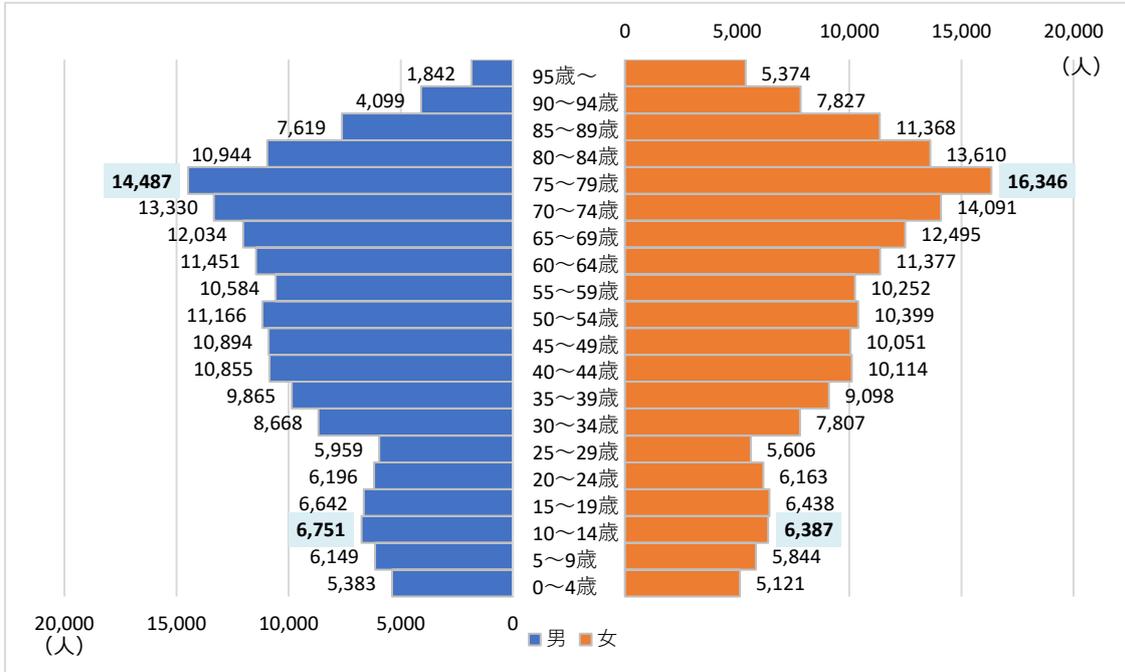


図表 2-64 中勢地域 パターン③の年齢区分別比率

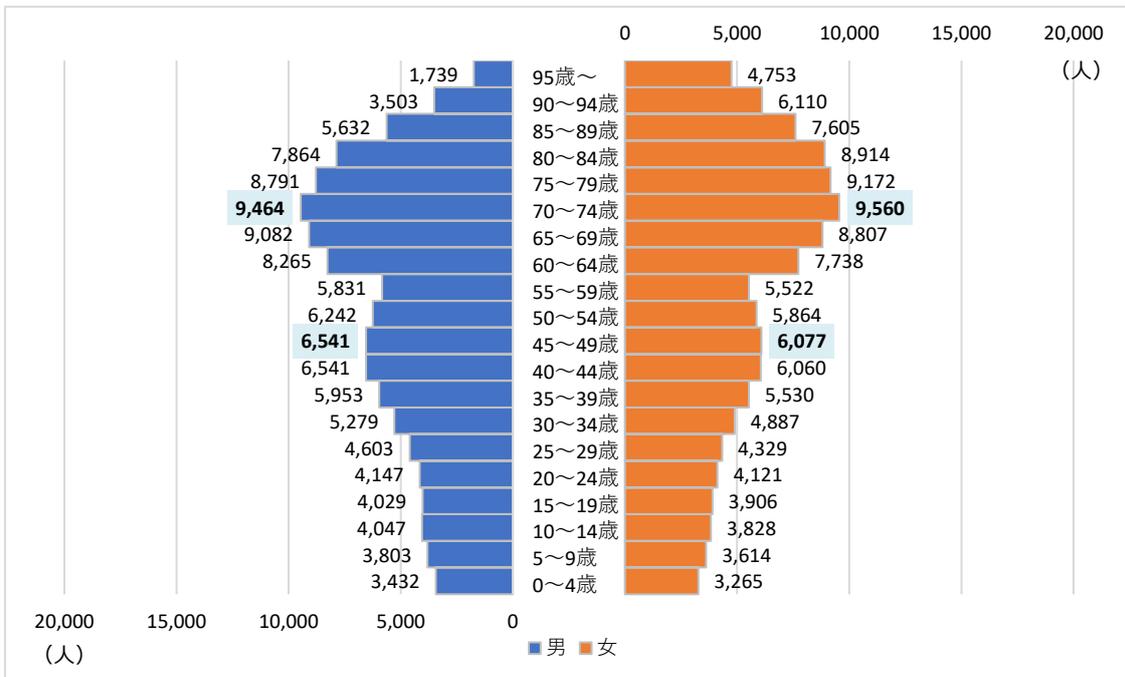


パターン③の2050年の人口ピラミッドは、10～14歳と75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になり、2080年には、45～49歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、45～49歳以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-65 中勢地域 パターン③の人口ピラミッド (2050)



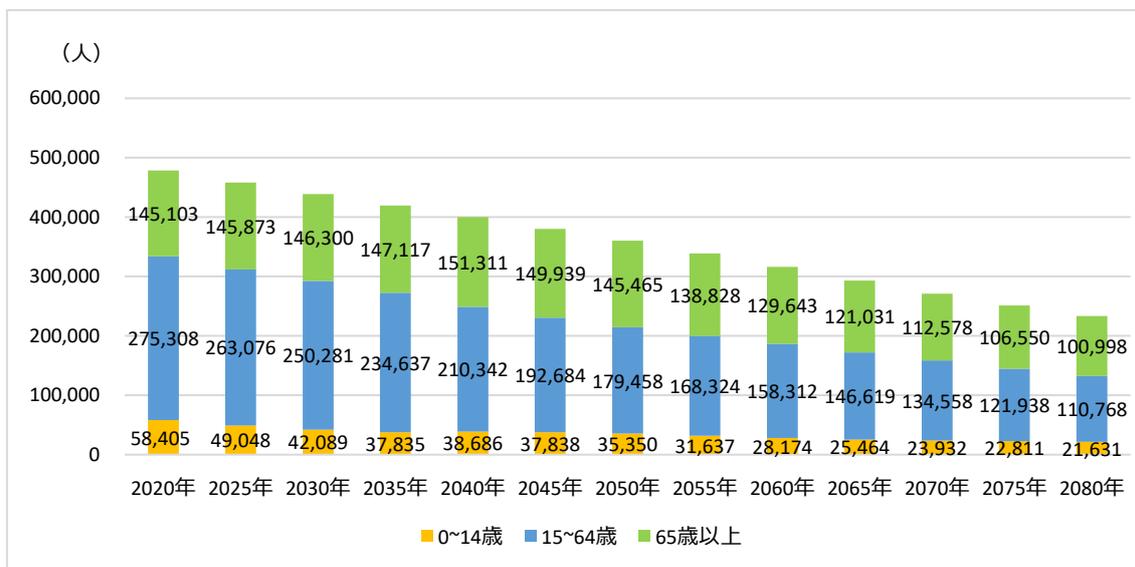
図表 2-66 中勢地域 パターン③の人口ピラミッド (2080)



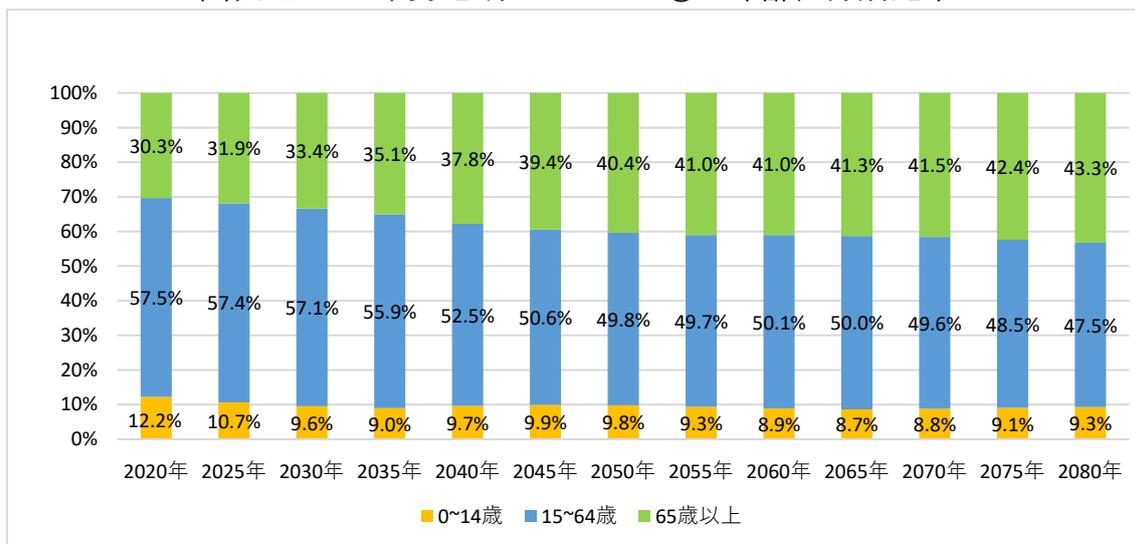
## 6) パターン④ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は21,631人、生産年齢人口は110,768人、老年人口は100,998人と推計された。また、年齢区分別比率では、中勢地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口9.3%、生産年齢人口47.5%、老年人口43.3%になると推計された。

図表 2-67 中勢地域 パターン④の年齢区分別人口

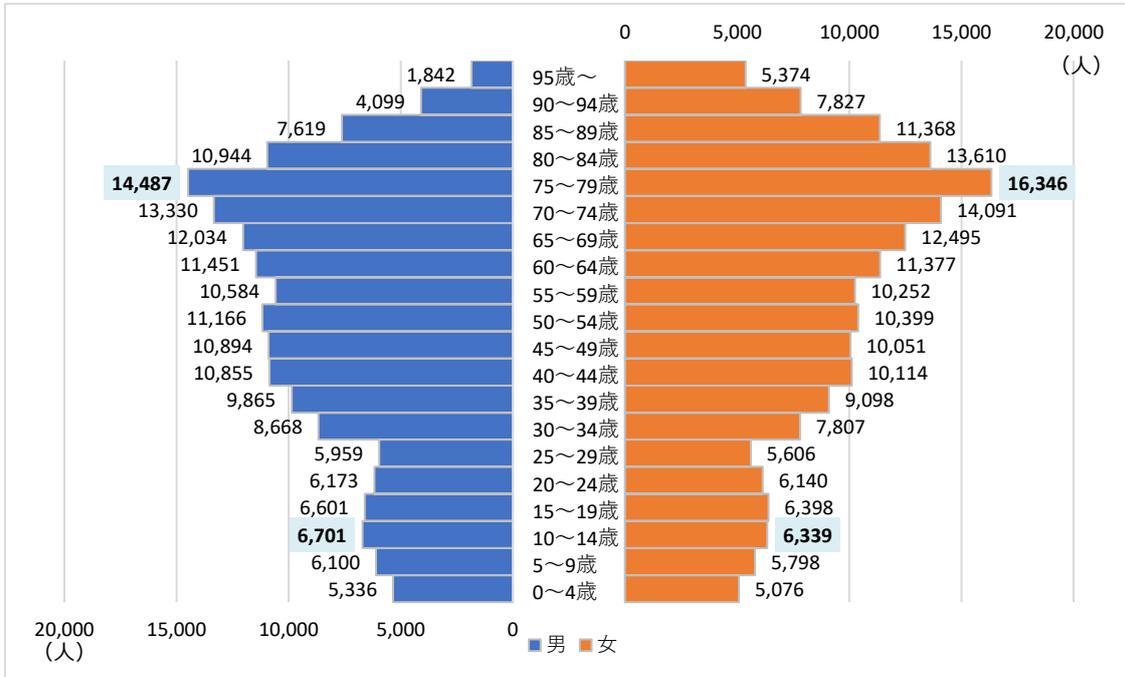


図表 2-68 中勢地域 パターン④の年齢区分別比率

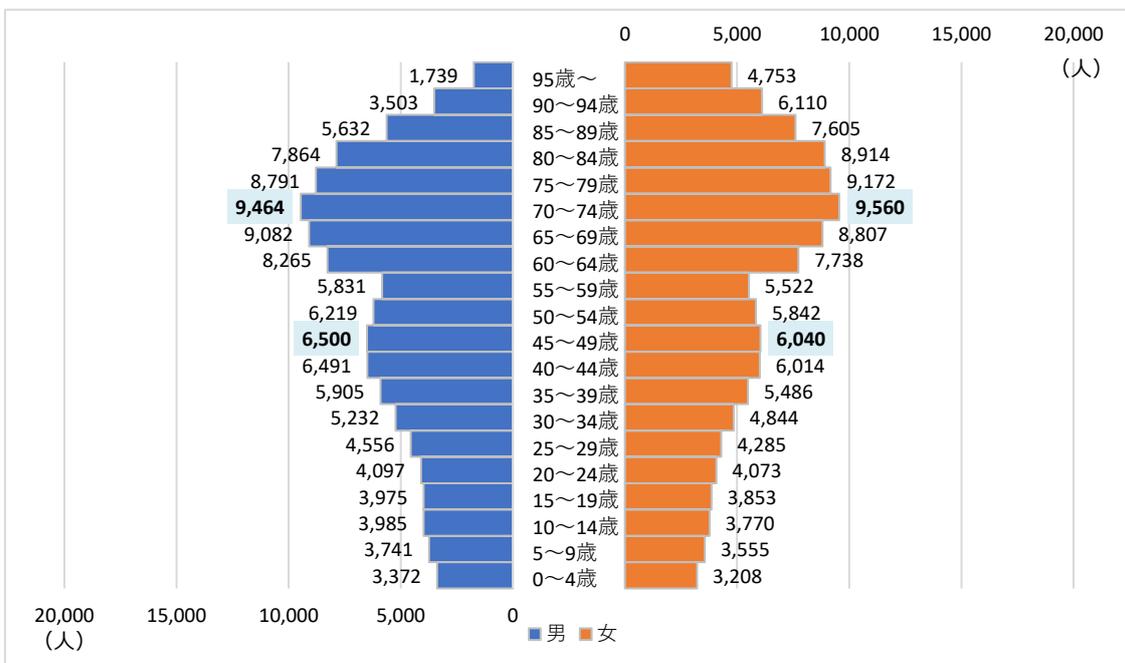


パターン④の2050年の人口ピラミッドは、10～14歳と75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になり、2080年には、45～49歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、45～49歳以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-69 中勢地域 パターン④の人口ピラミッド (2050)



図表 2-70 中勢地域 パターン④の人口ピラミッド (2080)



### (3) 南勢地域

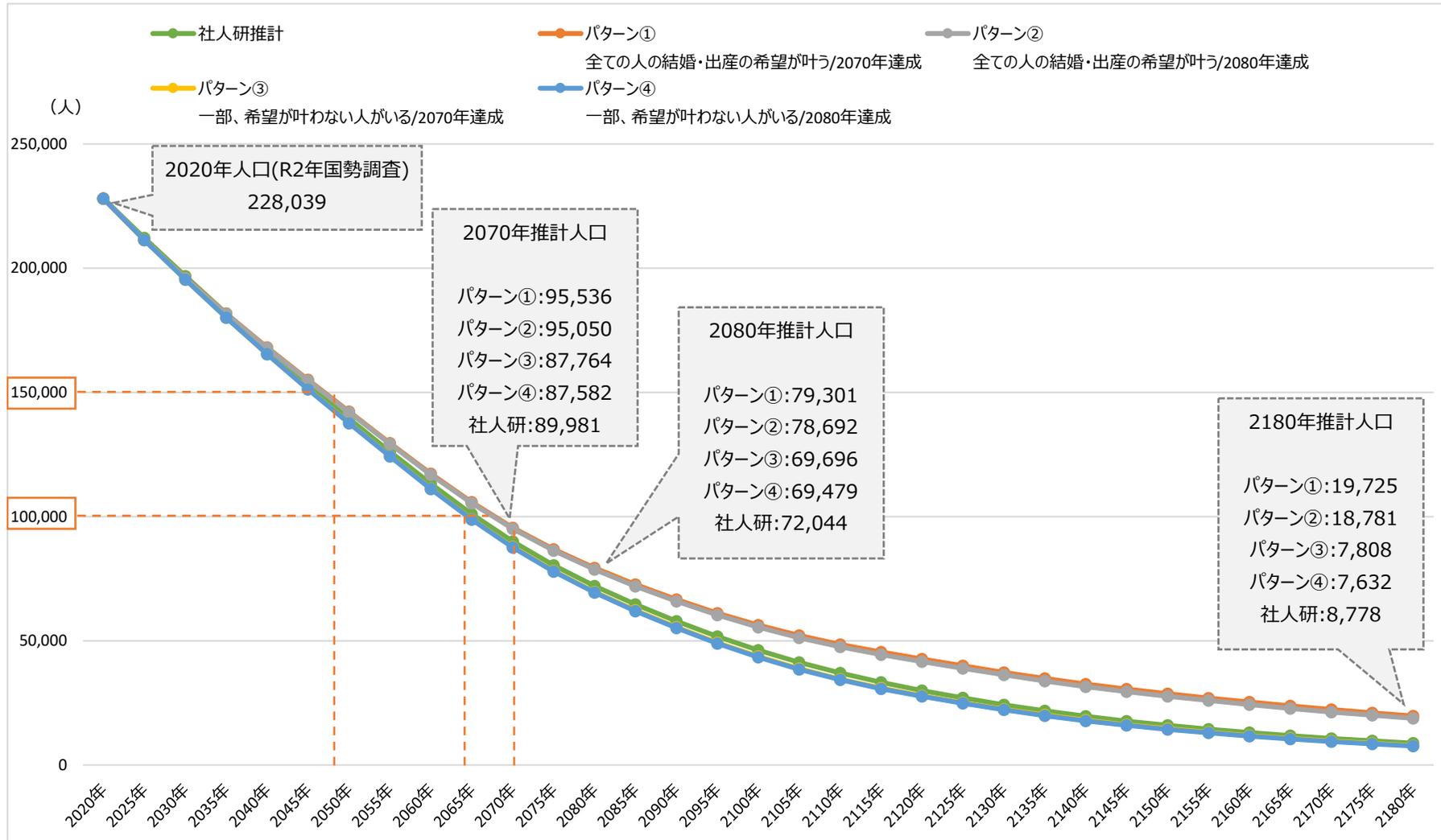
#### 1) 総人口

令和2年国勢調査によると、南勢地域の2020年時点での人口は228,039人である。社人研推計では、南勢地域の総人口は2080年には72,044人、2180年には8,778人まで減少する見込みである。

南勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が2070年までに叶う場合（パターン①）は、2080年に79,301人、2180年に19,725人と推計され、2080年までに叶う場合（パターン②）には2080年に78,692人、2180年に18,781人と推計された。

また、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合、2070年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン③）では2080年に69,696人、2180年に7,808人と推計され、2080年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン④）では、2080年に69,479人、2180年に7,632人と推計された。

図表 2-71 南勢地域 推計パターン別の総人口



(単位：人)

推計パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研推計	228,039	212,175	196,813	181,730	167,093	152,959	139,381	126,118	113,211	101,058	89,981
①	228,039	211,321	196,032	181,651	168,113	155,059	142,257	129,601	117,277	105,777	95,536
②	228,039	211,321	195,997	181,557	167,951	154,835	141,982	129,281	116,908	105,354	95,050
③	228,039	211,321	195,458	180,117	165,452	151,382	137,747	124,356	111,280	98,947	87,764
④	228,039	211,321	195,443	180,077	165,383	151,288	137,633	124,226	111,134	98,784	87,582

推計パターン	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年	2105年	2110年	2115年	2120年	2125年
社人研推計	80,407	72,044	64,629	57,930	51,781	46,238	41,333	37,041	33,293	29,986	26,991
①	86,838	79,301	72,627	66,616	61,158	56,321	52,129	48,540	45,439	42,672	39,953
②	86,288	78,692	71,962	65,897	60,385	55,494	51,250	47,613	44,472	41,675	38,939
③	78,120	69,696	62,211	55,435	49,228	43,659	38,773	34,570	30,987	27,915	25,099
④	77,920	69,479	61,979	55,190	48,971	43,390	38,494	34,282	30,694	27,621	24,809

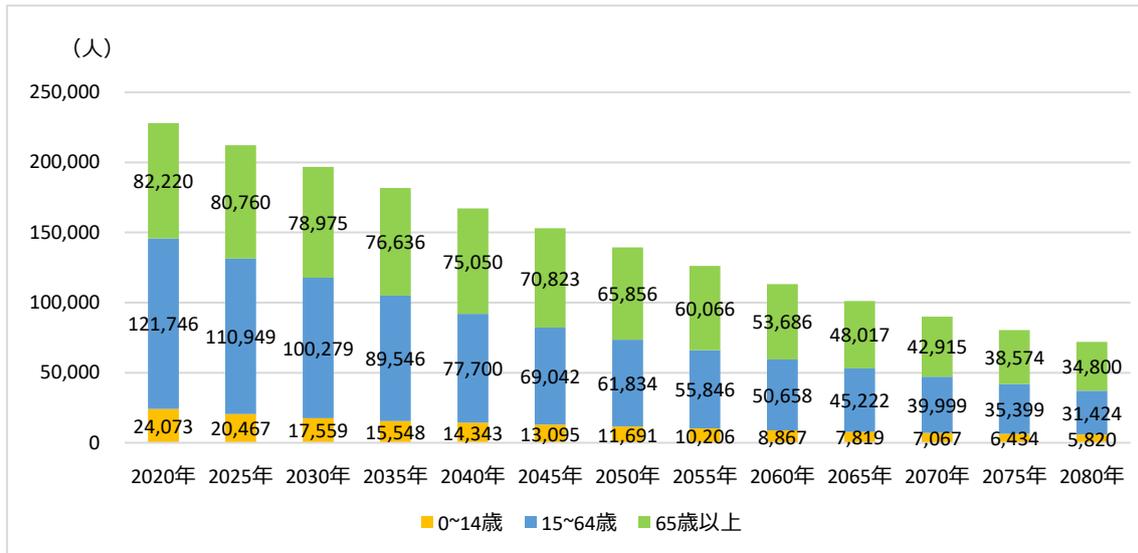
推計パターン	2130年	2135年	2140年	2145年	2150年	2155年	2160年	2165年	2170年	2175年	2180年
社人研推計	24,269	21,815	19,633	17,709	16,005	14,476	13,090	11,834	10,703	9,688	8,778
①	37,301	34,810	32,559	30,539	28,697	26,970	25,329	23,769	22,312	20,967	19,725
②	36,277	33,781	31,528	29,508	27,669	25,950	24,321	22,775	21,333	20,005	18,781
③	22,493	20,125	18,031	16,201	14,594	13,159	11,859	10,676	9,609	8,656	7,808
④	22,211	19,852	17,767	15,947	14,351	12,927	11,638	10,467	9,411	8,470	7,632

※表中赤字箇所は、各パターンにおいて総人口15万人を初めて下回った年次を示す。

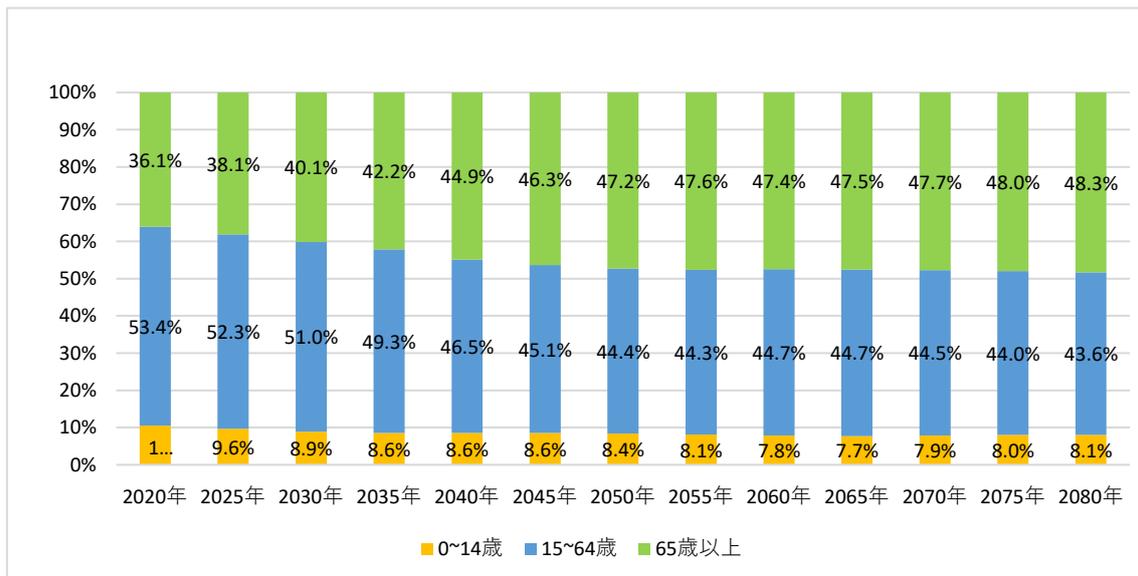
## 2) 社人研推計

社人研推計では、2080年には年少人口は5,820人、生産年齢人口は31,424人、老年人口は34,800人と推計された。年齢区分別比率では、南勢地域における老年人口の比率は増加し続ける傾向にあり、2080年には年少人口8.1%、生産年齢人口43.6%、老年人口48.3%になると推計された。

図表 2-72 南勢地域 社人研推計の年齢区分別人口



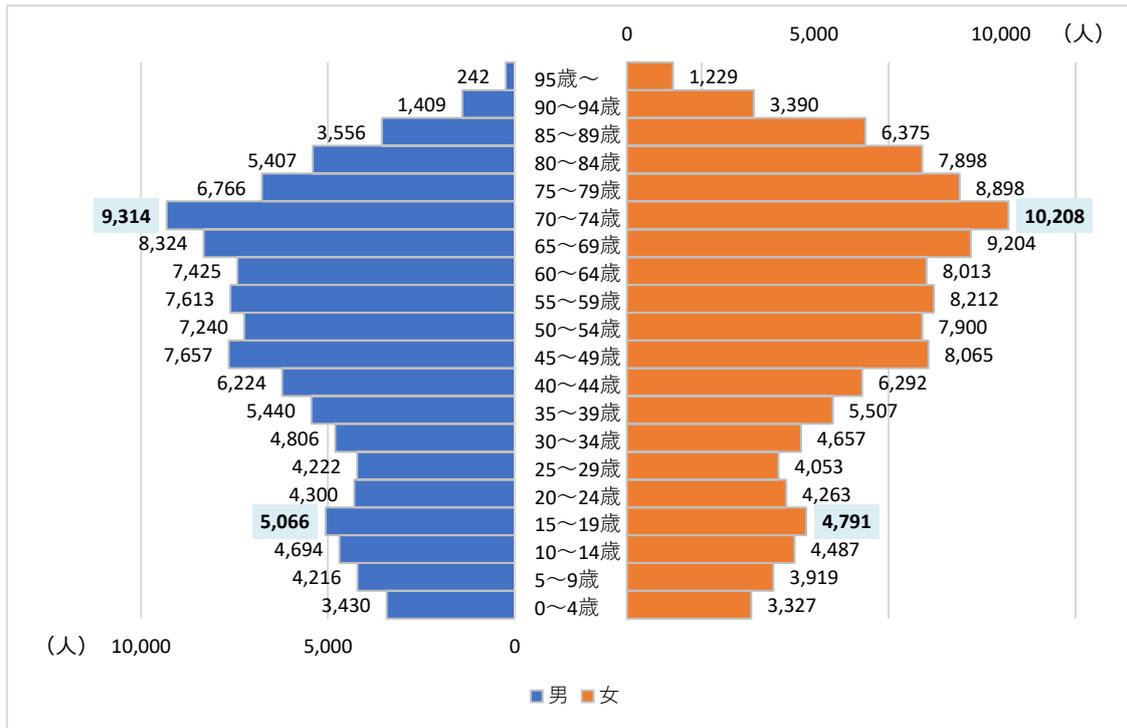
図表 2-73 南勢地域 社人研推計の年齢区分別比率



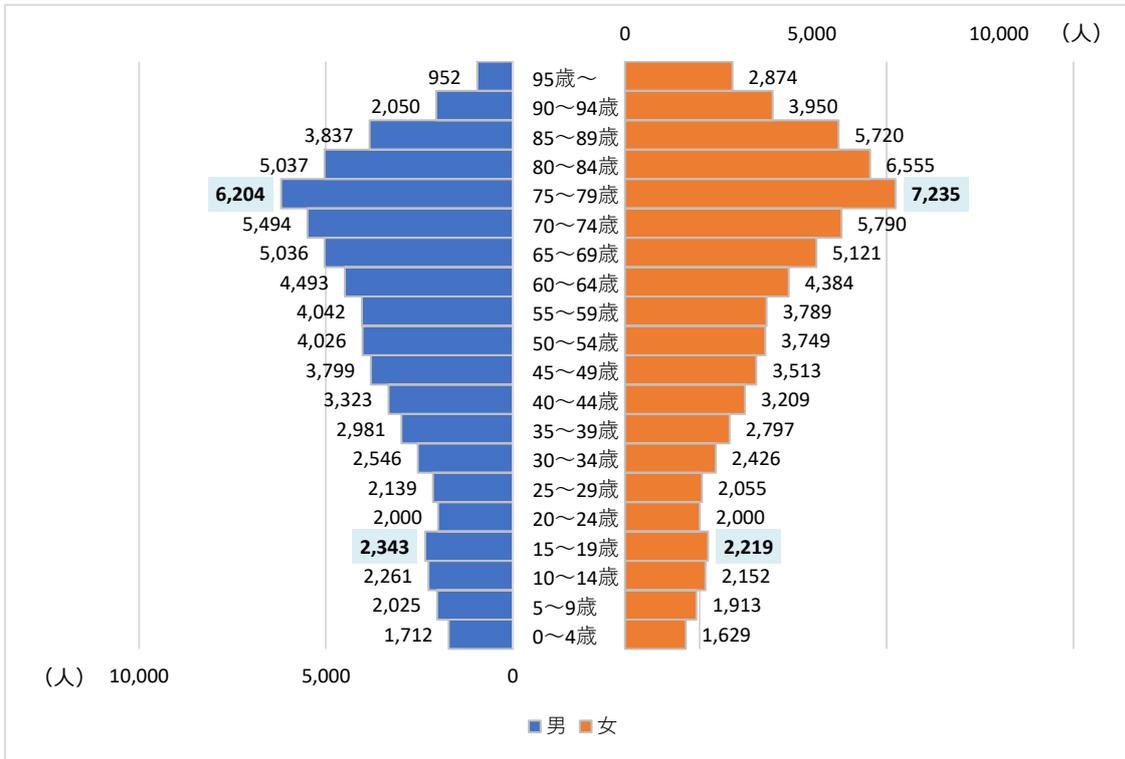
2020年時点での南勢地域の人口ピラミッドは、15～19歳、70～74歳の年代を頂点とするひょうたん型に近い構造である。

社人研推計の2050年の人口ピラミッドは、2020年と比較して人口の少ない細いひょうたん型になる。2080年には、75～79歳の年代を頂点とし、それ以下の年代の人口規模が次第に縮小していく構造になると推計された。

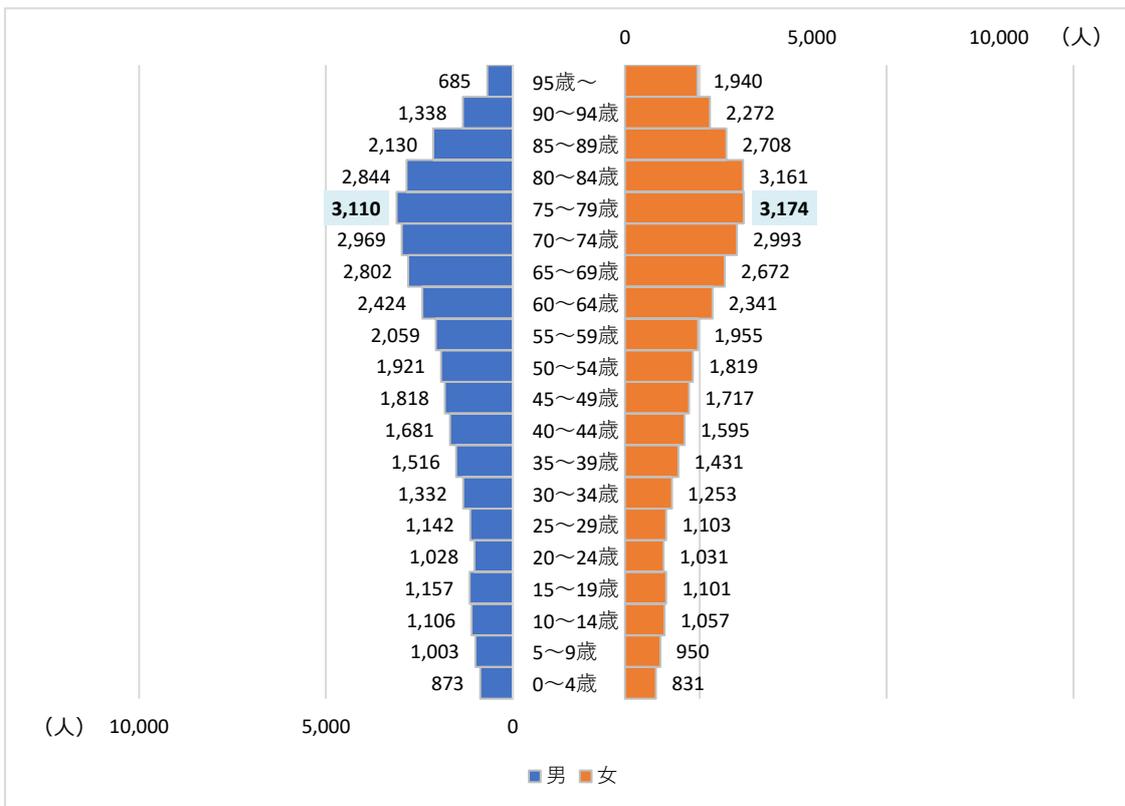
図表 2-74 南勢地域 社人研推計の人口ピラミッド（2020年）



図表 2-75 南勢地域 社人研推計の人口ピラミッド (2050年)



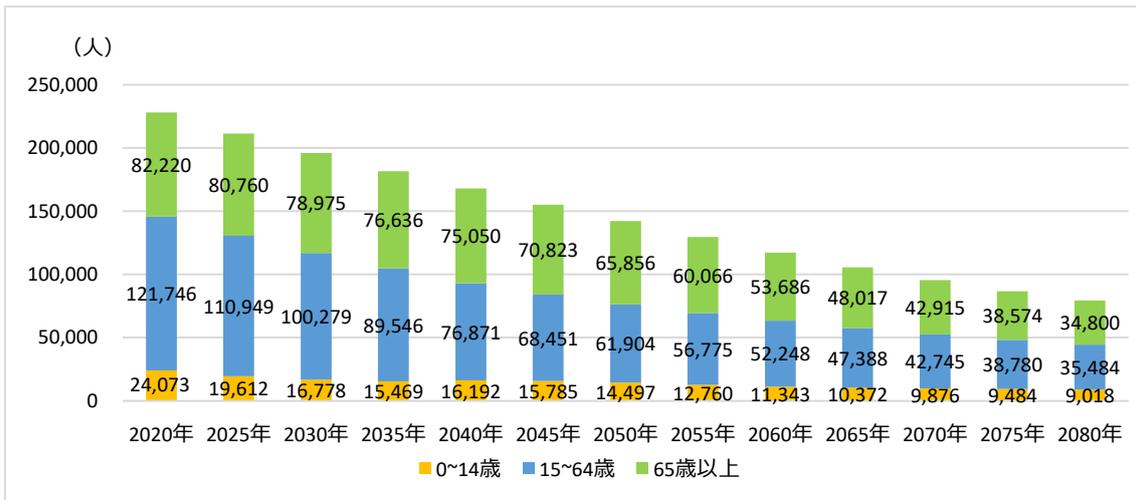
図表 2-76 南勢地域 社人研推計の人口ピラミッド (2080年)



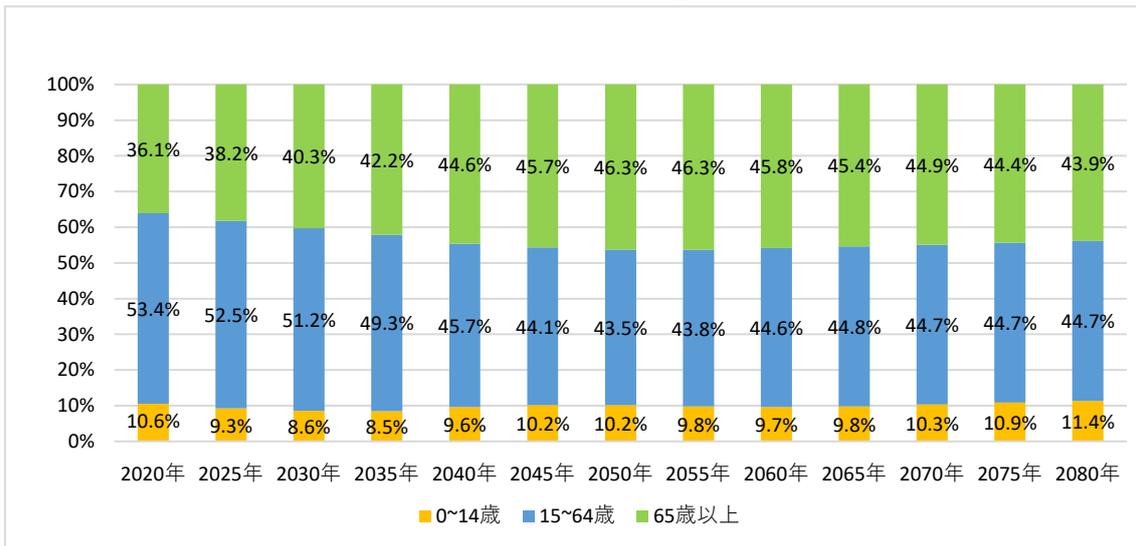
### 3) パターン① 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年までに南勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶う場合、年少人口は2080年には9,018人、生産年齢人口は35,484人、老年人口は34,800人と推計された。年齢区分別比率では、南勢地域における老年人口の比率は2055年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口11.4%、生産年齢人口44.7%、老年人口43.9%になると推計された。

図表 2-77 南勢地域 パターン①の年齢区分別人口

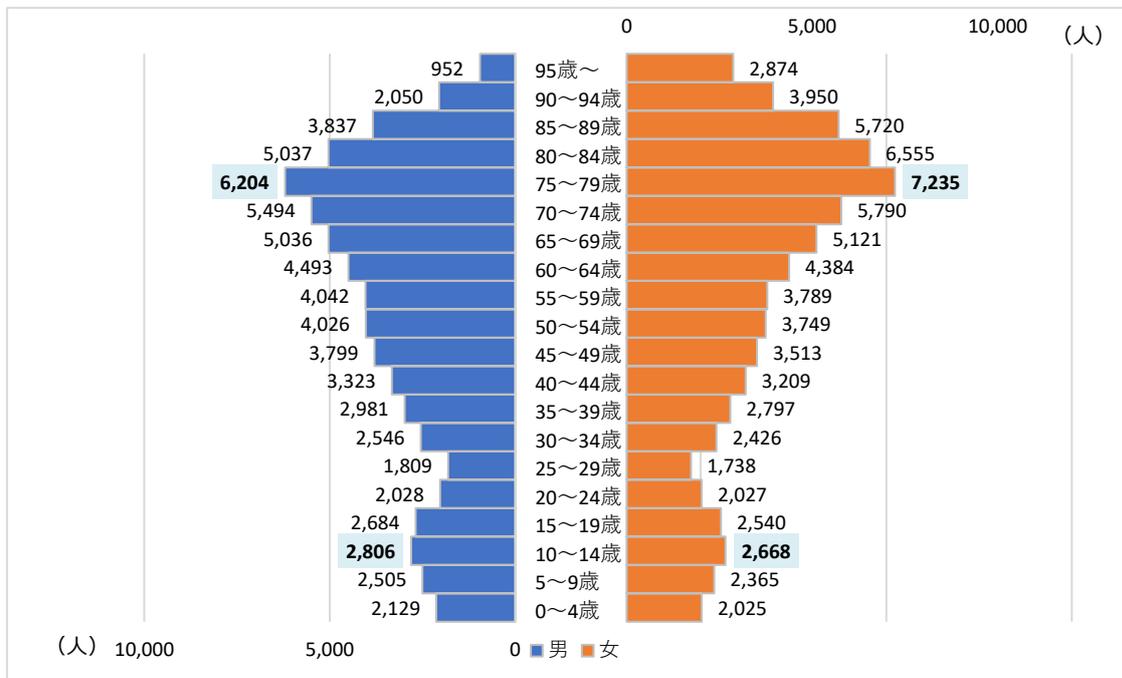


図表 2-78 南勢地域 パターン①の年齢区分別比率

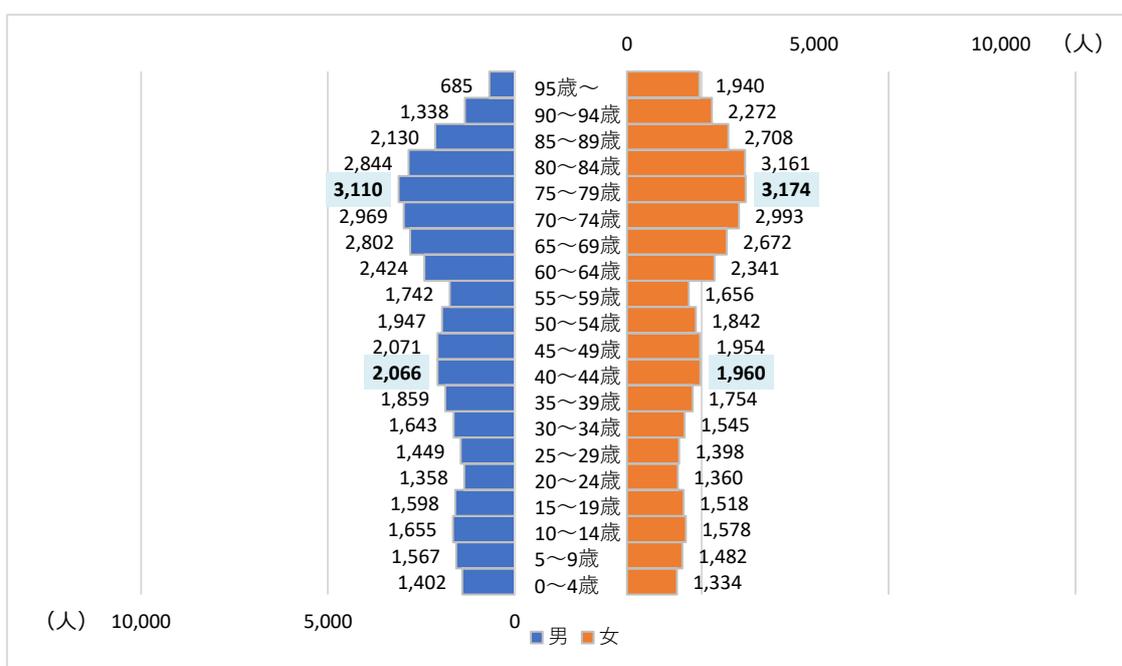


パターン①の2050年の人口ピラミッドは、2020年と比較して人口の少ない細いひょうたん型の構造になる。2080年には、40～44歳、75～79歳の2つの年代を頂点とし、25～29歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-79 南勢地域 パターン①の人口ピラミッド (2050)



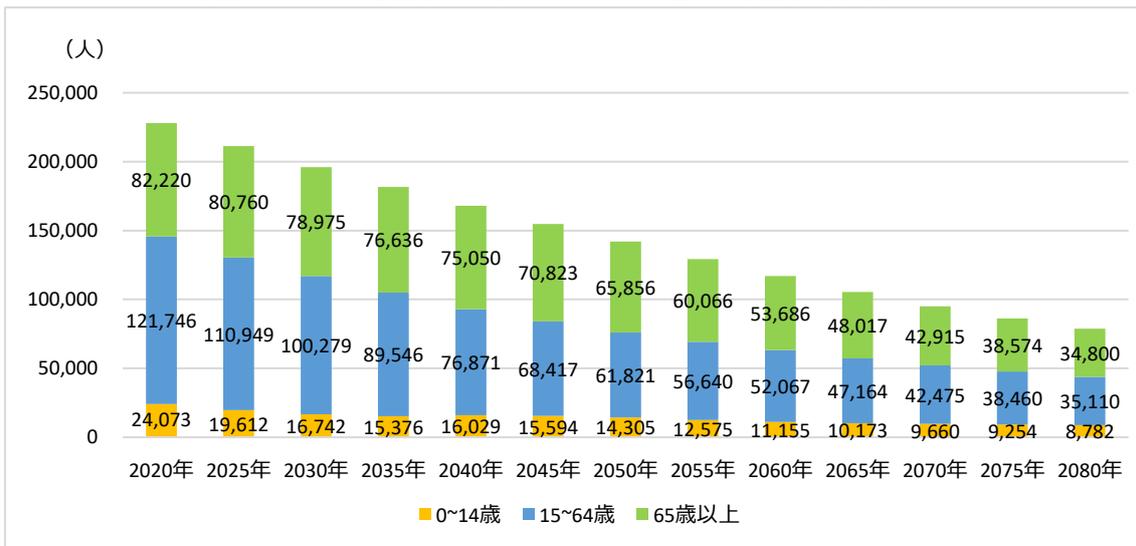
図表 2-80 南勢地域 パターン①の人口ピラミッド (2080)



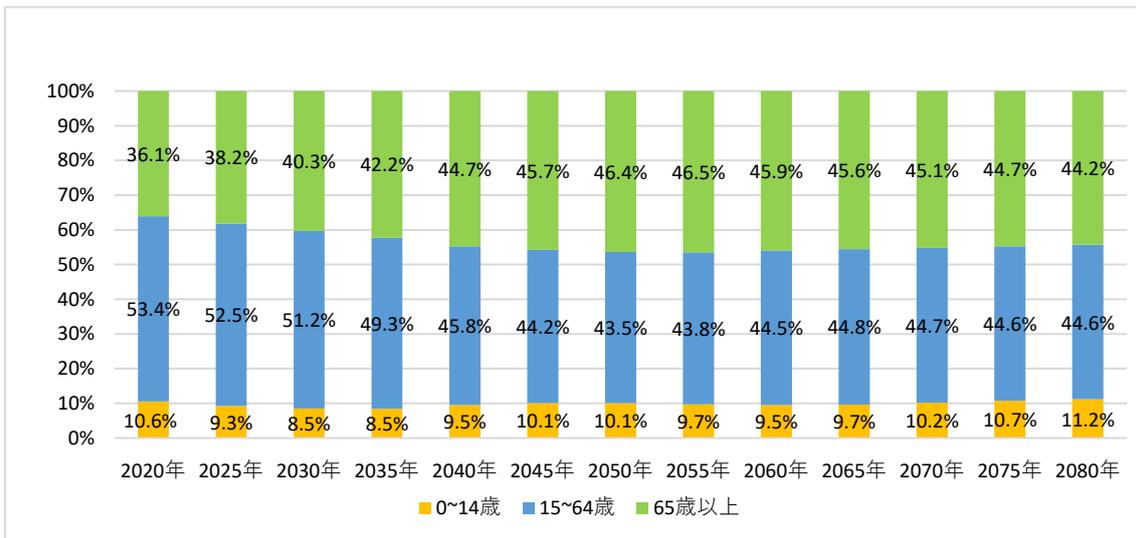
#### 4) パターン② 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年までに南勢地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶った場合、2080年には年少人口は8,782人、生産年齢人口は35,110人、老年人口は34,800人と推計された。年齢区分別比率では、南勢地域における老年人口の比率は2055年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口11.2%、生産年齢人口44.6%、老年人口44.2%になると推計された。

図表 2-81 南勢地域 パターン②の年齢区分別人口

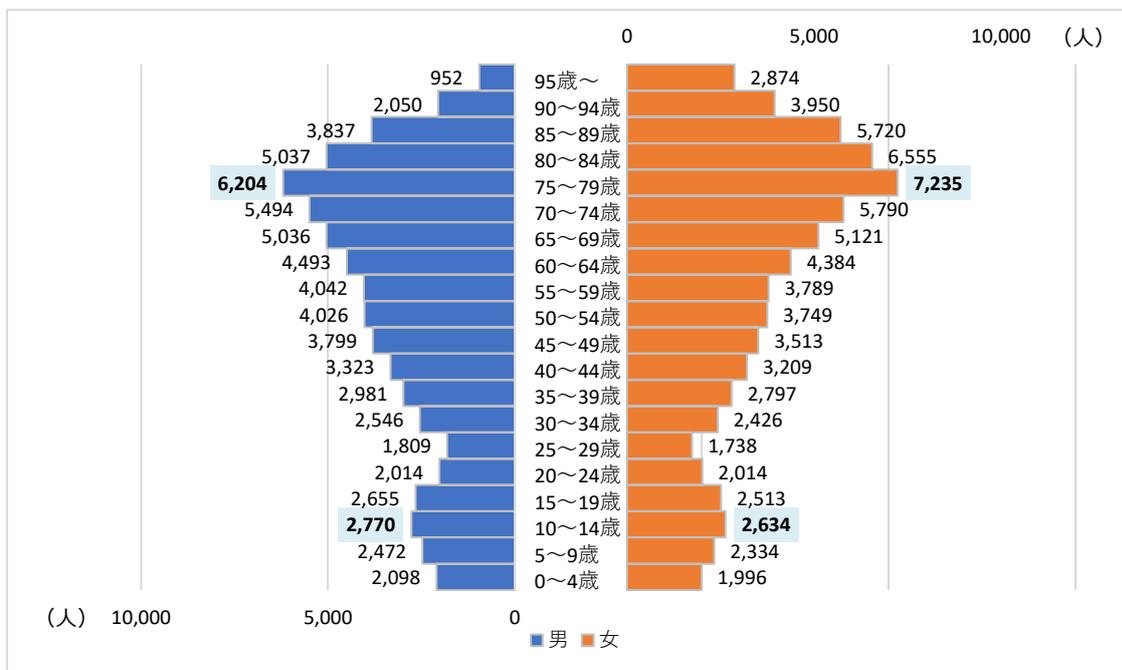


図表 2-82 南勢地域 パターン②の年齢区分別比率

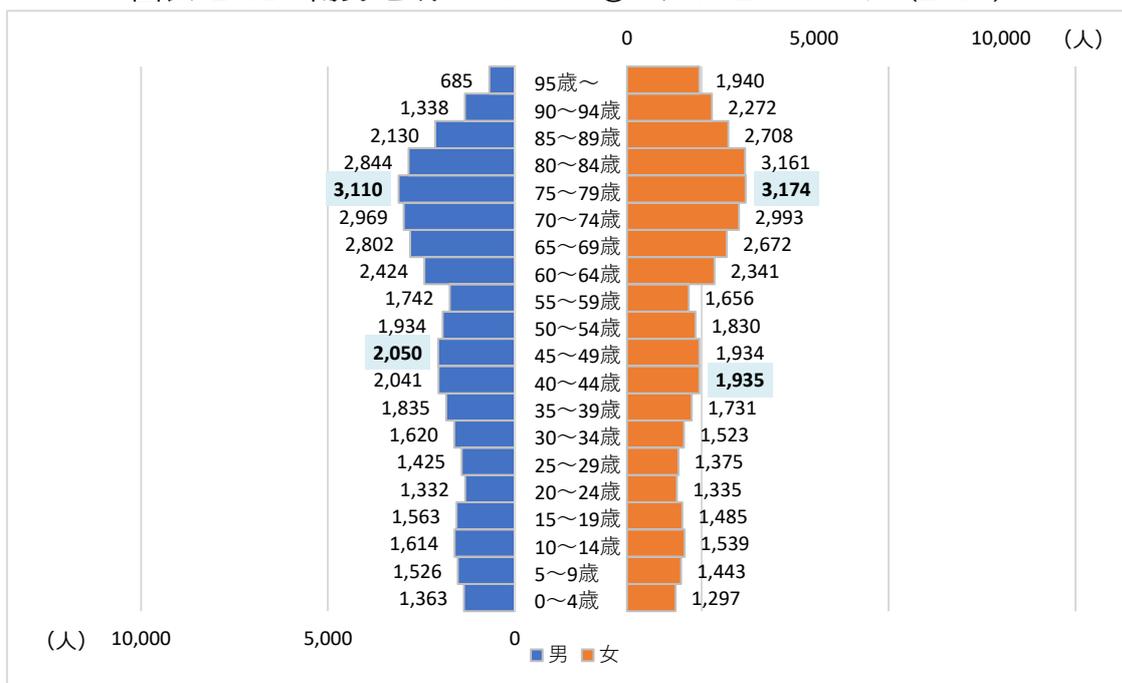


パターン②の 2050 年の人口ピラミッドは、2020 年と比較して人口が少なく、細いひょうたん型に近い構造になる。2080 年には、40～49 歳、75～79 歳の 2 つの頂点を持ち、25～29 歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-83 南勢地域 パターン②の人口ピラミッド (2050)



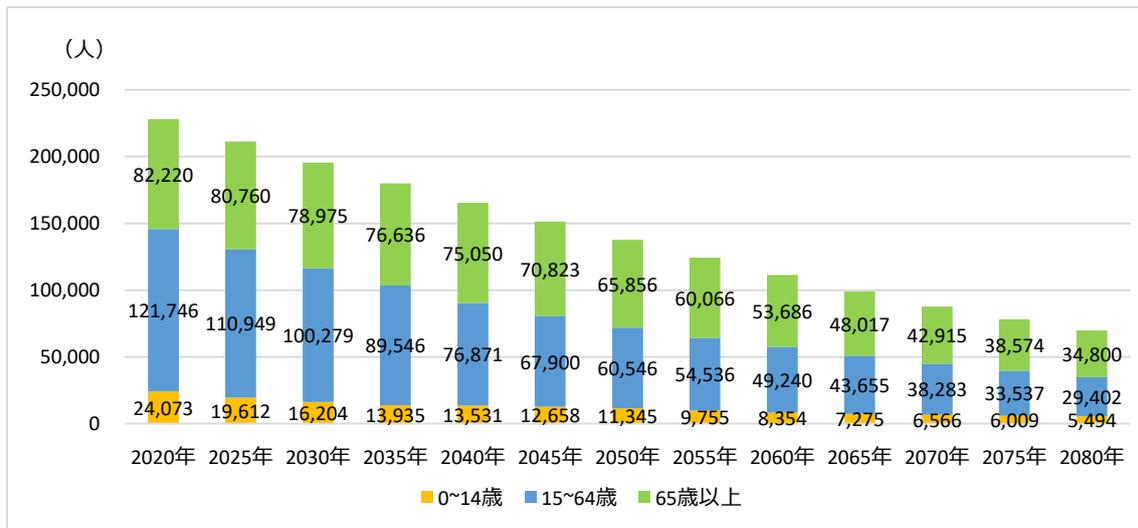
図表 2-84 南勢地域 パターン②の人口ピラミッド (2080)



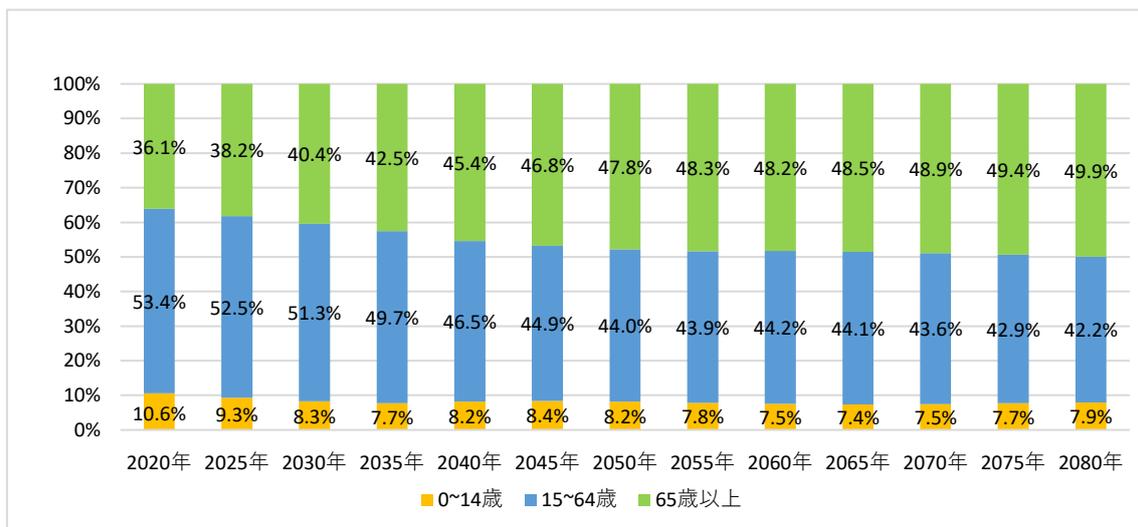
### 5) パターン③ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は5,494人、生産年齢人口は29,402人、老年人口は34,800人と推計された。また、年齢区分別比率では、南勢地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口7.9%、生産年齢人口42.2%、老年人口49.9%になると推計された。

図表 2-85 南勢地域 パターン③の年齢区分別人口

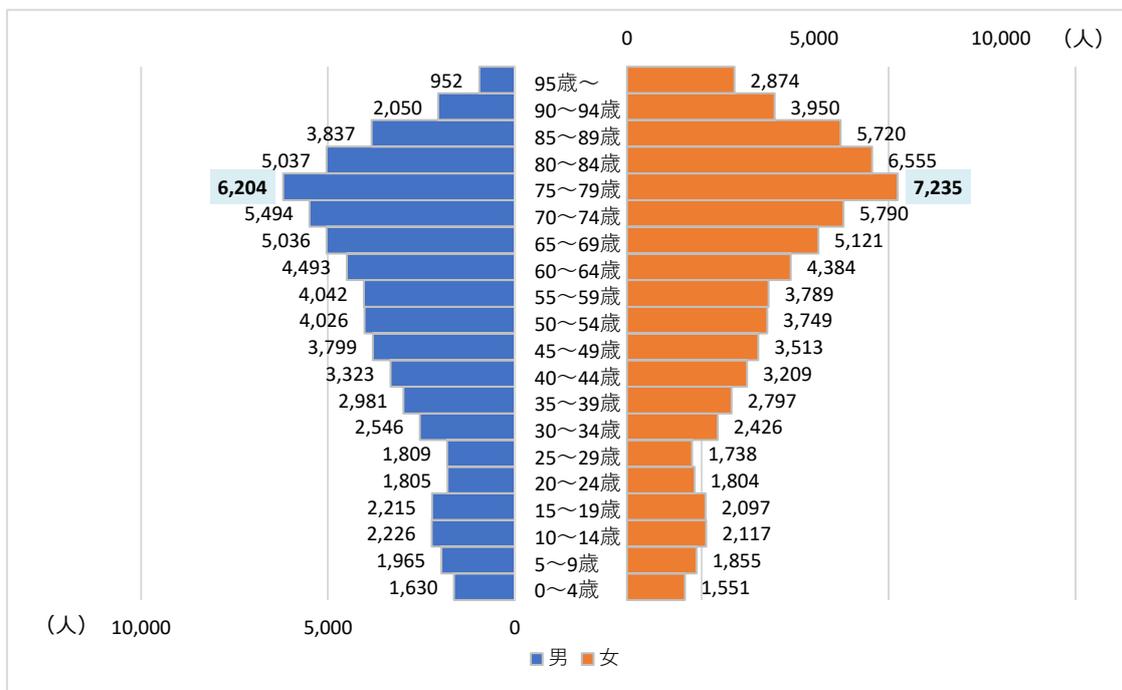


図表 2-86 南勢地域 パターン③の年齢区分別比率

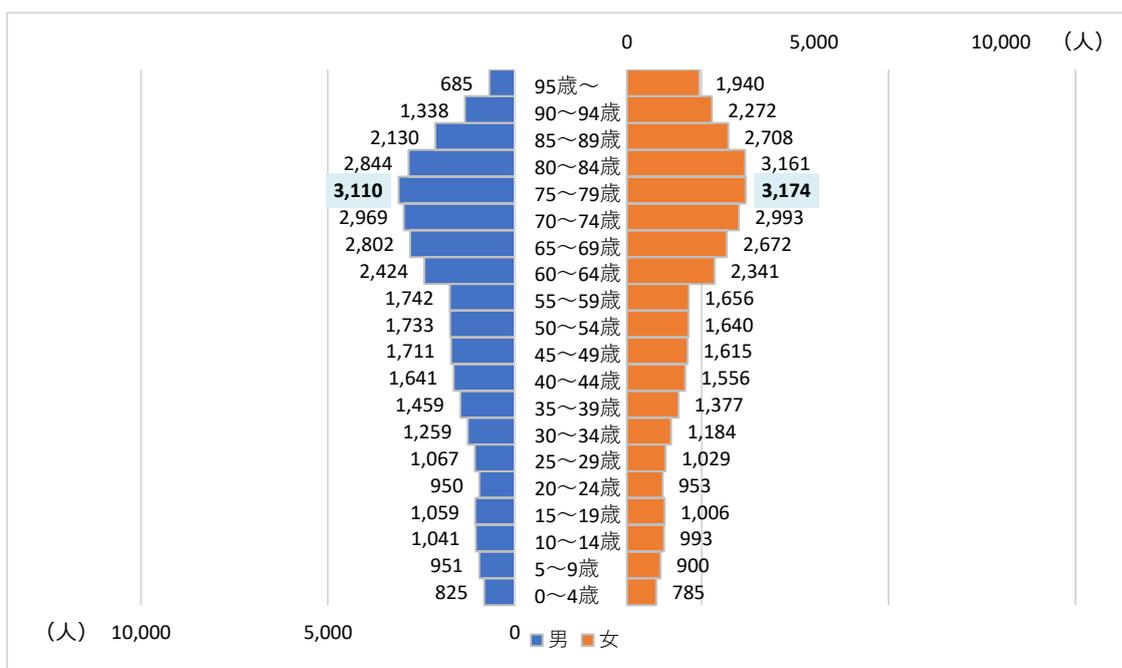


パターン③の 2050 年、2080 年のいずれの人口ピラミッドにおいても、75～79 歳をピークにそれ以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-87 南勢地域 パターン③の人口ピラミッド (2050)



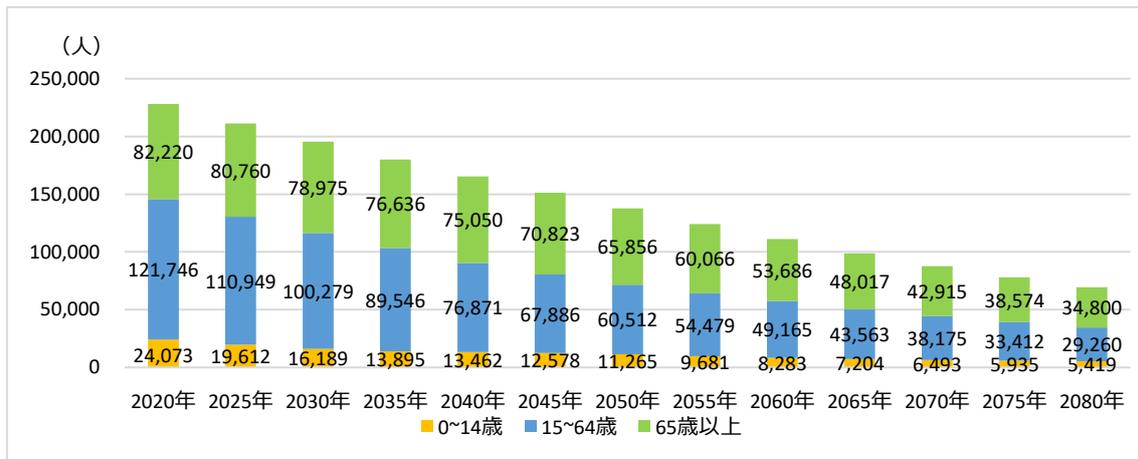
図表 2-88 南勢地域 パターン③の人口ピラミッド (2080)



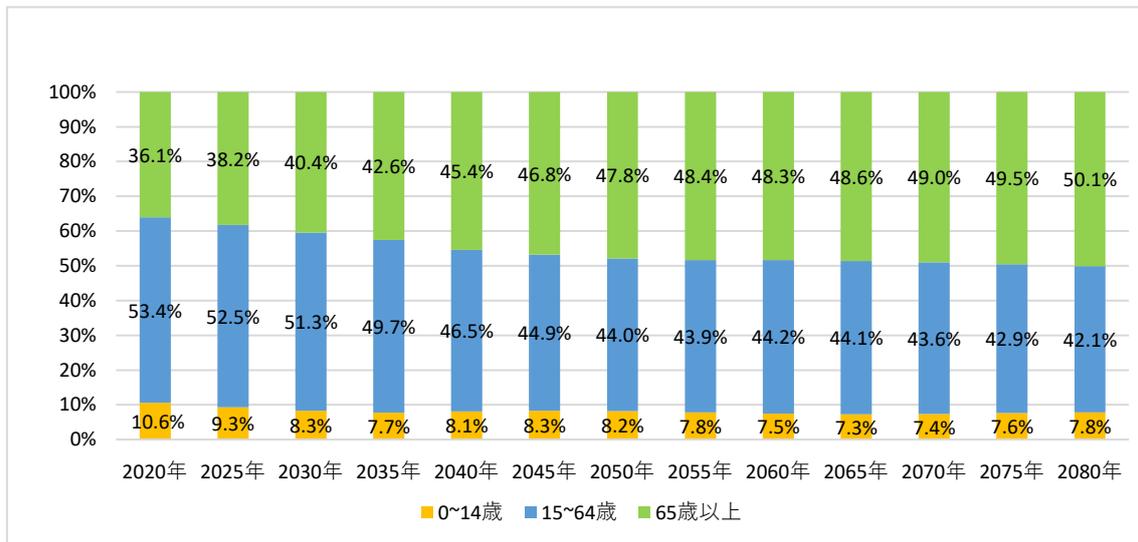
## 6) パターン④ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は5,419人、生産年齢人口は29,260人、老年人口は34,800人と推計された。また、年齢区分別比率では、南勢地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口7.8%、生産年齢人口42.1%、老年人口50.1%となり、老年人口が半数以上になると推計された。

図表 2-89 南勢地域 パターン④の年齢区分別人口

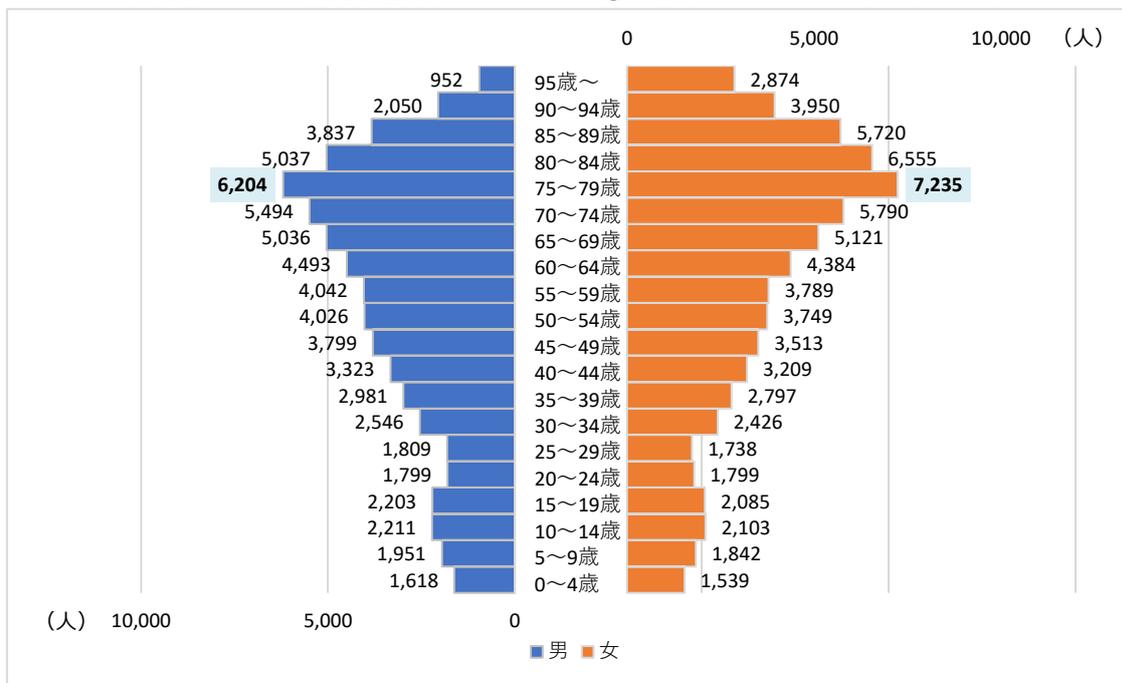


図表 2-90 南勢地域 パターン④の年齢区分別比率

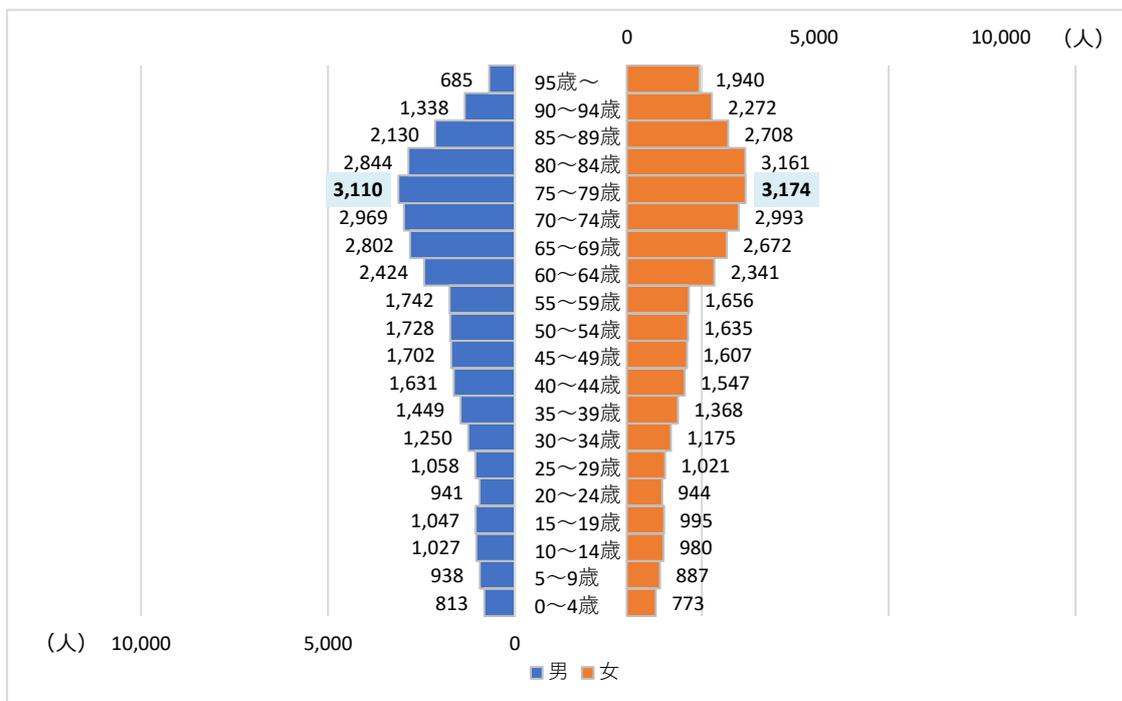


パターン④の 2050 年、2080 年のいずれの人口ピラミッドにおいても、75～79 歳をピークにそれ以下の年代で人口規模が次第に縮小する構造になると推計された。

図表 2-91 南勢地域 パターン④の人口ピラミッド (2050)



図表 2-92 南勢地域 パターン④の人口ピラミッド (2080)



## (4) 伊賀地域

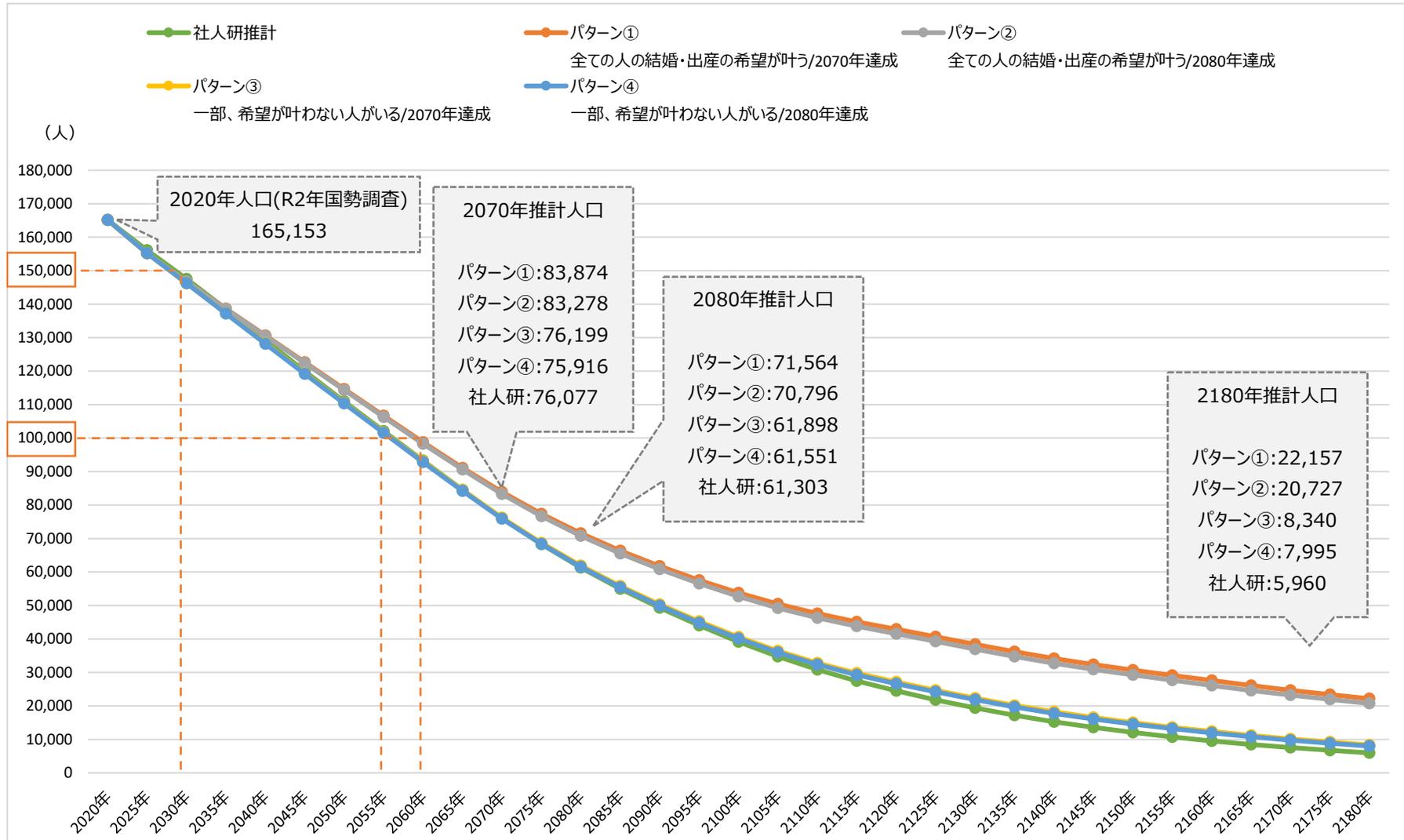
### 1) 総人口

令和2年国勢調査によると、伊賀地域の2020年時点での人口は165,153人である。社人研推計では、伊賀地域の総人口は2080年には61,303人、2180年には5,960人まで減少する見込みである。

伊賀地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が2070年までに叶う場合（パターン①）は、2080年に71,564人、2180年に22,157人と推計され、2080年までに叶う場合（パターン②）には2080年に70,798人、2180年に20,727人と推計された。

また、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合、2070年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン③）では2080年に61,898人、2180年に8,340人と推計され、2080年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン④）では、2080年に61,551人、2180年に7,995人と推計された。

図表 2-93 伊賀地域 推計パターン別の総人口



(単位：人)

推計パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研推計	165,153	156,114	147,512	138,512	129,234	119,946	110,972	102,075	93,224	84,534	76,077
①	165,153	155,220	146,776	138,647	130,648	122,629	114,649	106,664	98,744	91,092	83,874
②	165,153	155,220	146,738	138,545	130,471	122,383	114,341	106,294	98,308	90,581	83,278
③	165,153	155,220	146,265	137,275	128,263	119,305	110,500	101,729	92,990	84,431	76,199
④	165,153	155,220	146,245	137,222	128,170	119,176	110,340	101,540	92,773	84,182	75,916

推計パターン	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年	2105年	2110年	2115年	2120年	2125年
社人研推計	68,317	61,303	55,005	49,301	44,031	39,171	34,749	30,847	27,473	24,510	21,835
①	77,377	71,564	66,383	61,752	57,563	53,788	50,437	47,560	45,108	42,910	40,657
②	76,694	70,798	65,537	60,827	56,557	52,701	49,272	46,322	43,805	41,556	39,266
③	68,682	61,898	55,806	50,295	45,233	40,604	36,444	32,841	29,795	27,177	24,707
④	68,366	61,551	55,430	49,892	44,805	40,152	35,969	32,348	29,290	26,665	24,197

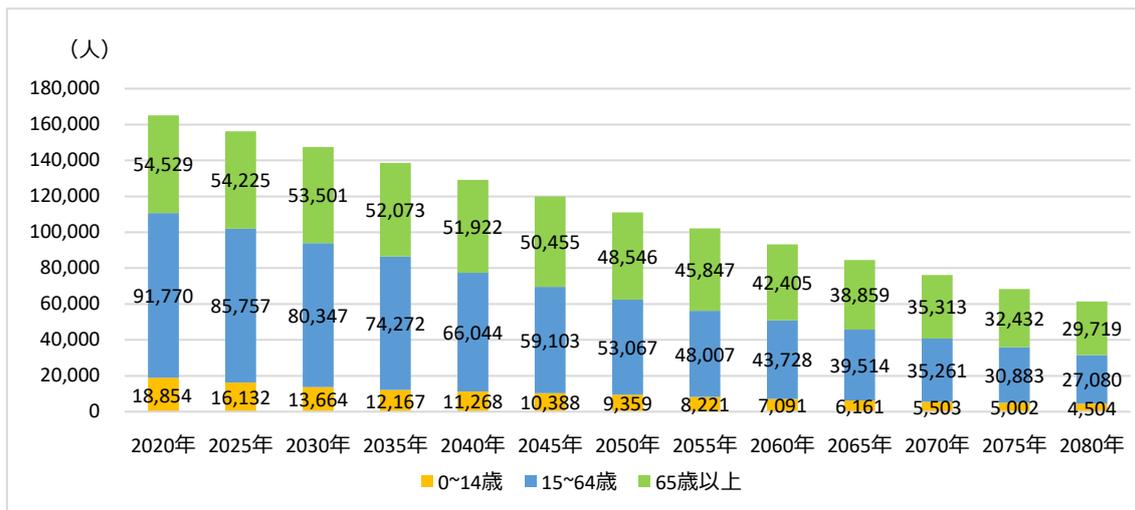
推計パターン	2130年	2135年	2140年	2145年	2150年	2155年	2160年	2165年	2170年	2175年	2180年
社人研推計	19,404	17,216	15,271	13,564	12,070	10,748	9,562	8,497	7,547	6,705	5,960
①	38,379	36,195	34,198	32,387	30,718	29,133	27,595	26,105	24,694	23,380	22,157
②	36,960	34,755	32,740	30,915	29,238	27,651	26,117	24,635	23,236	21,936	20,727
③	22,355	20,179	18,231	16,514	14,997	13,629	12,372	11,208	10,148	9,194	8,340
④	21,853	19,687	17,752	16,047	14,544	13,193	11,953	10,808	9,766	8,831	7,995

※表中赤字箇所は、各パターンにおいて総人口15万人を初めて下回った年次を示す。

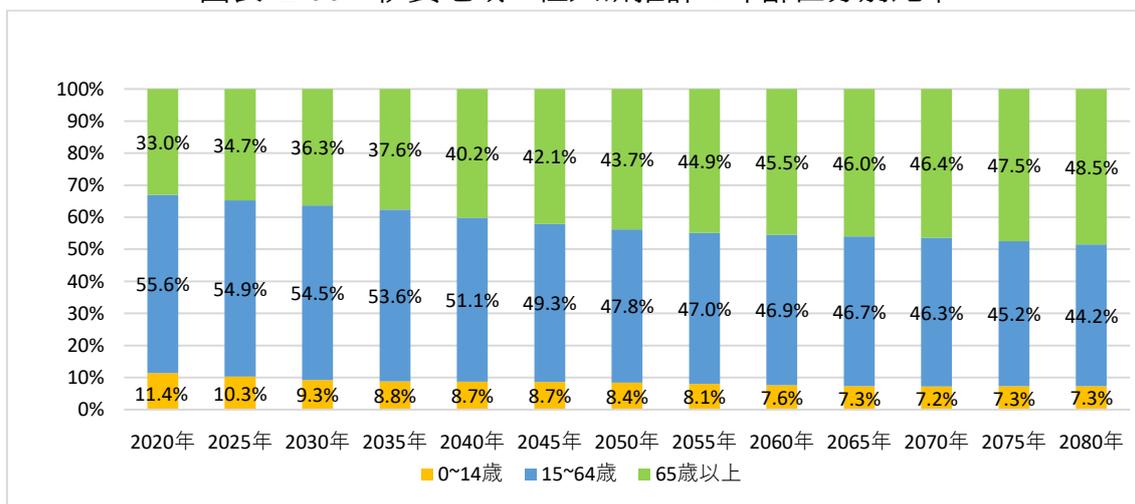
## 2) 社人研推計

社人研推計では、2080年には年少人口は4,504人、生産年齢人口は27,080人、老年人口は29,719人と推計された。年齢区分別比率では、伊賀地域における老年人口の比率は増え続け、2080年には年少人口7.3%、生産年齢人口44.2%、老年人口48.5%になると推計された。

図表 2-94 伊賀地域 社人研推計の年齢区分別人口



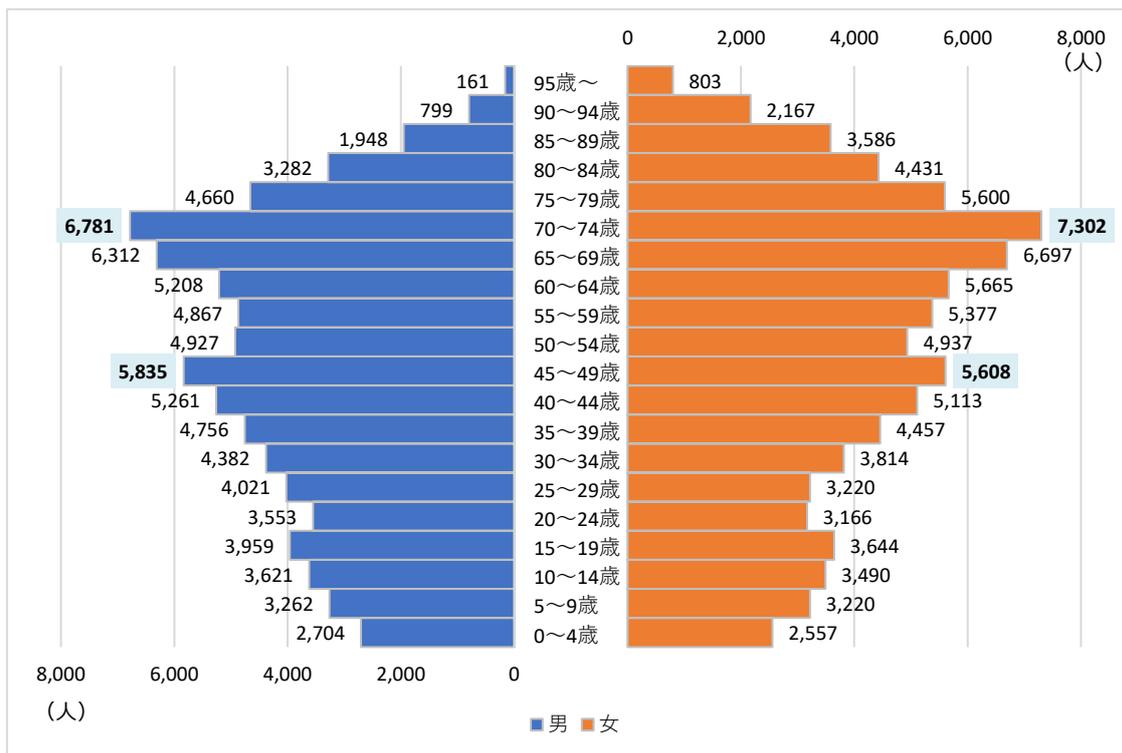
図表 2-95 伊賀地域 社人研推計の年齢区分別比率



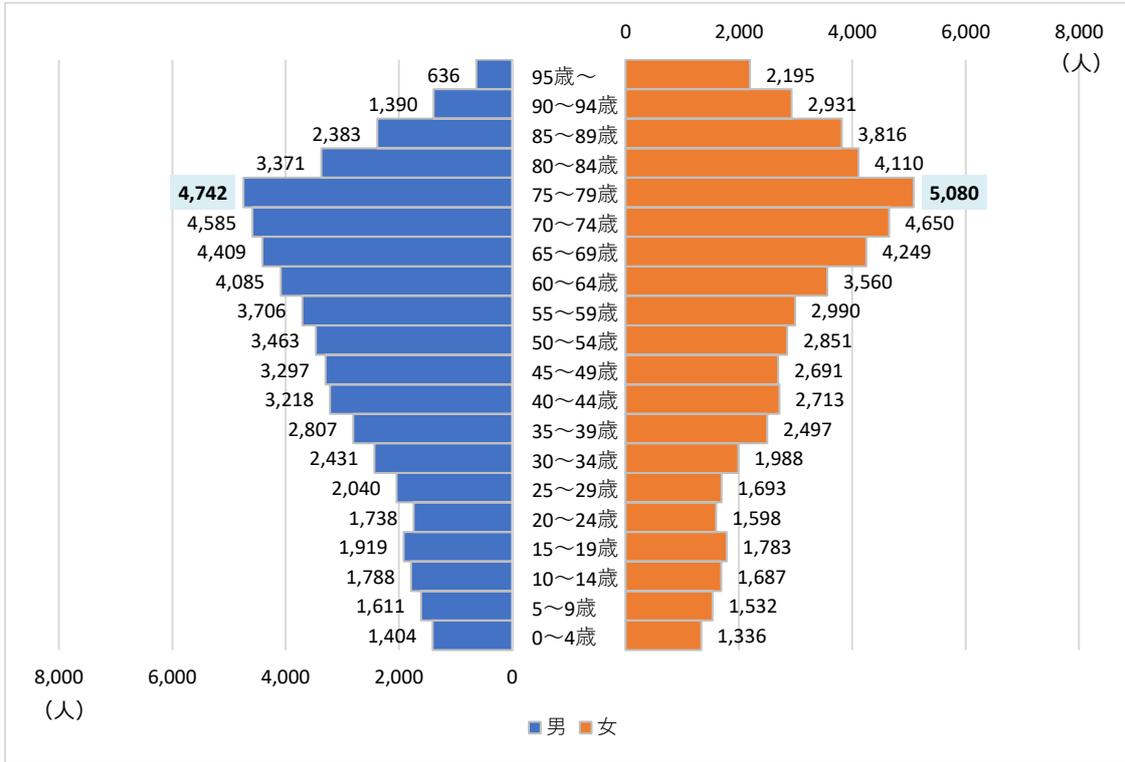
伊賀地域の人口ピラミッドは、2020年時点で45～49歳と70～74歳の2つの年代を最大とするつぼ型に近い構造である。

社人研推計の2050年の人口ピラミッドでは、75～79歳を頂点にそれ以下の年代で徐々に人口規模が縮小していく構造になる。2080年のピラミッドは、2050年と比較してさらに細く、70～74歳を頂点としてそれ以下の年代で徐々に人口規模が縮小していくと推計された。

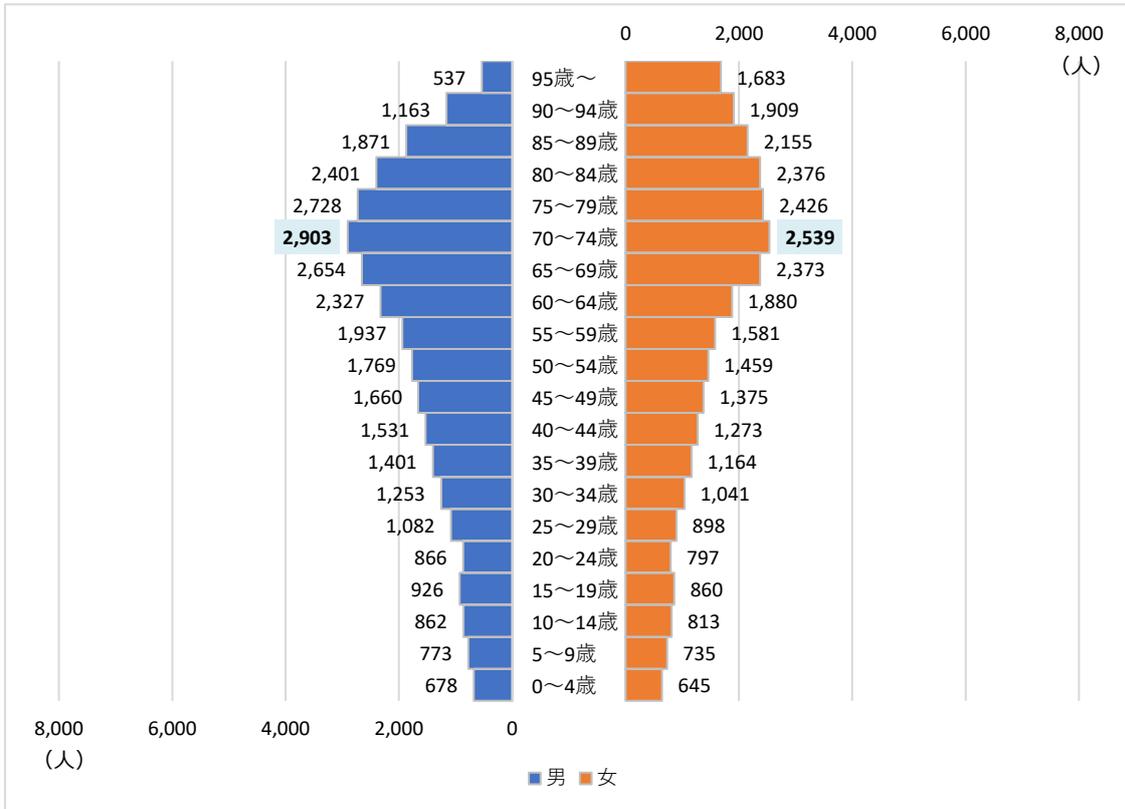
図表 2-96 伊賀地域 社人研推計の人口ピラミッド（2020年）



図表 2-97 伊賀地域 社人研推計の人口ピラミッド (2050年)



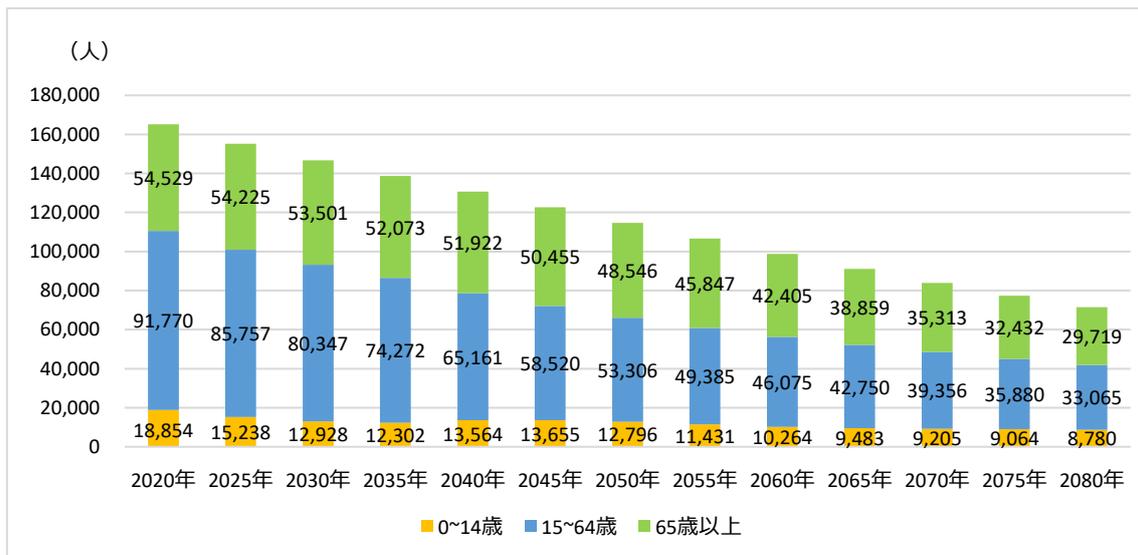
図表 2-98 伊賀地域 社人研推計の人口ピラミッド (2080年)



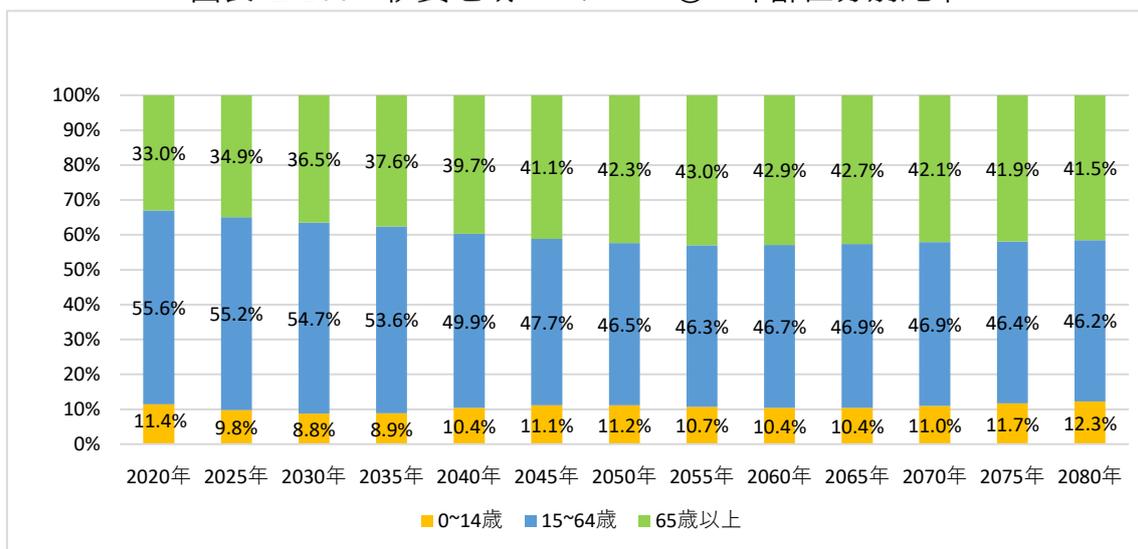
### 3) パターン① 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年までに伊賀地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶う場合、2080年には年少人口は8,780人、生産年齢人口は33,065人、老年人口は29,719人と推計された。年齢区分別比率では、伊賀地域における老年人口の比率は2055年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口12.3%、生産年齢人口46.2%、老年人口41.5%になると推計された。

図表 2-99 伊賀地域 パターン①の年齢区分別人口

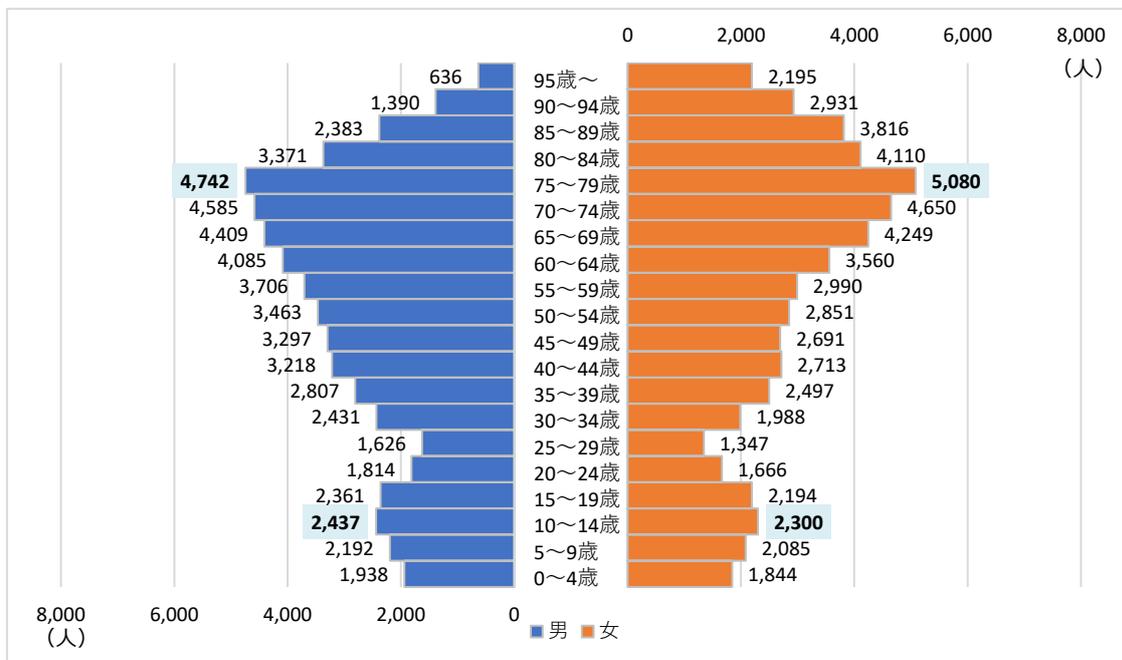


図表 2-100 伊賀地域 パターン①の年齢区分別比率

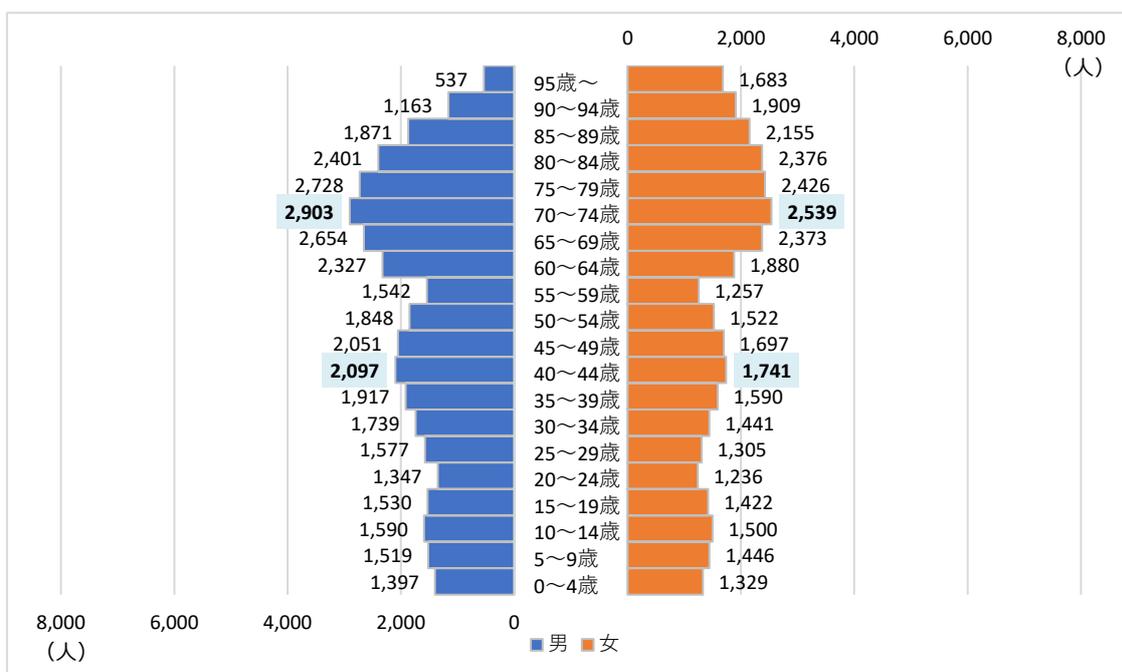


パターン①の2050年の人口ピラミッドでは、10～14歳、75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になる。2080年には、40～44歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、25～29歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-101 伊賀地域 パターン①の人口ピラミッド (2050)



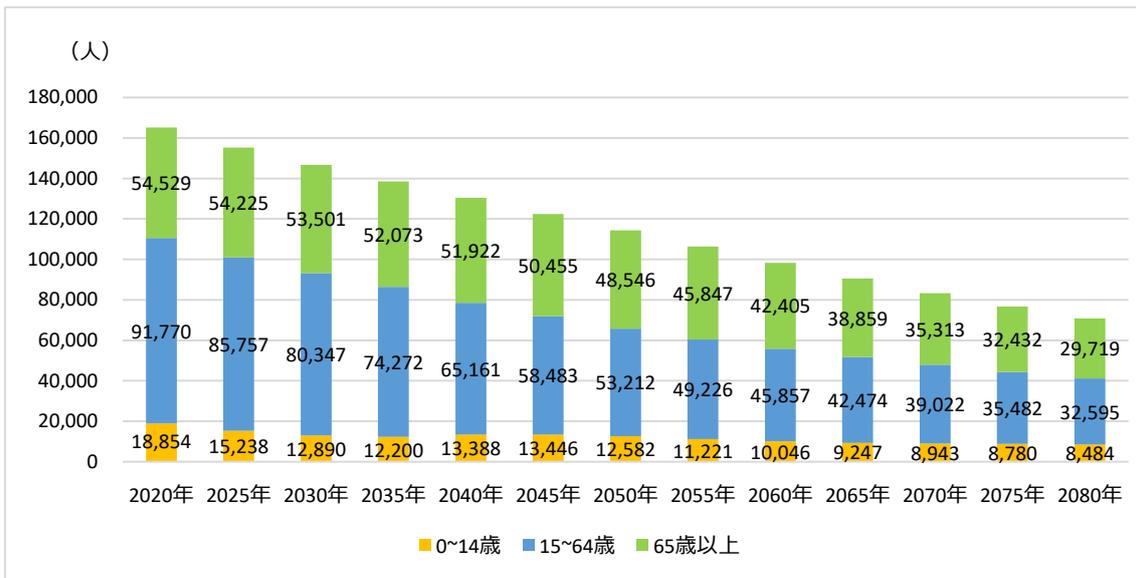
図表 2-102 伊賀地域 パターン①の人口ピラミッド (2080)



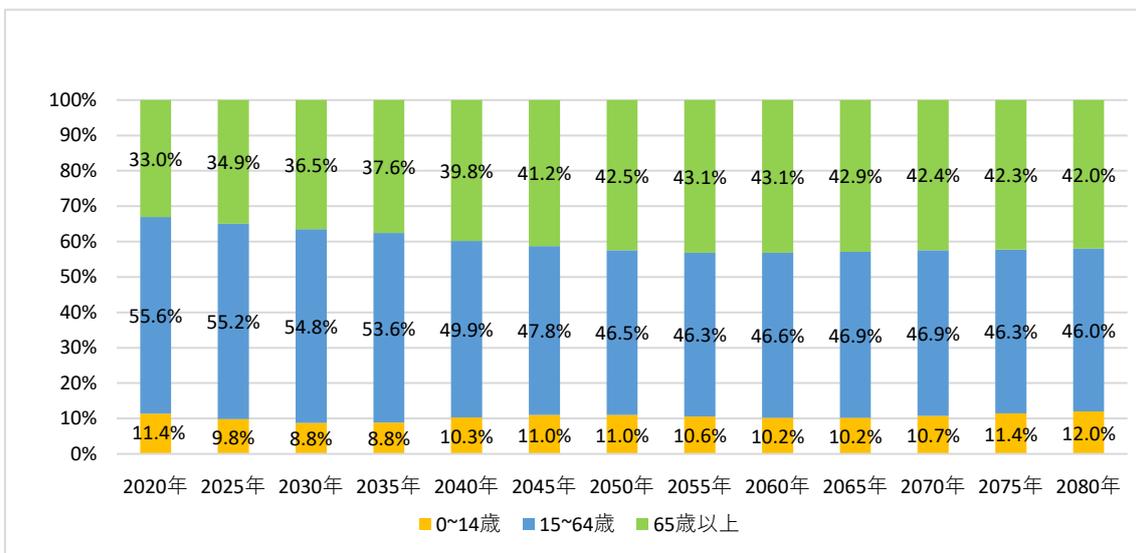
#### 4) パターン② 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年までに伊賀地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶った場合、2080年には年少人口は8,484人、生産年齢人口は32,595人、老年人口は29,719人と推計された。年齢区分別比率では、伊賀地域における老年人口の比率は2060年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口12.0%、生産年齢人口46.0%、老年人口42.0%になると推計された。

図表 2-103 伊賀地域 パターン②の年齢区分別人口

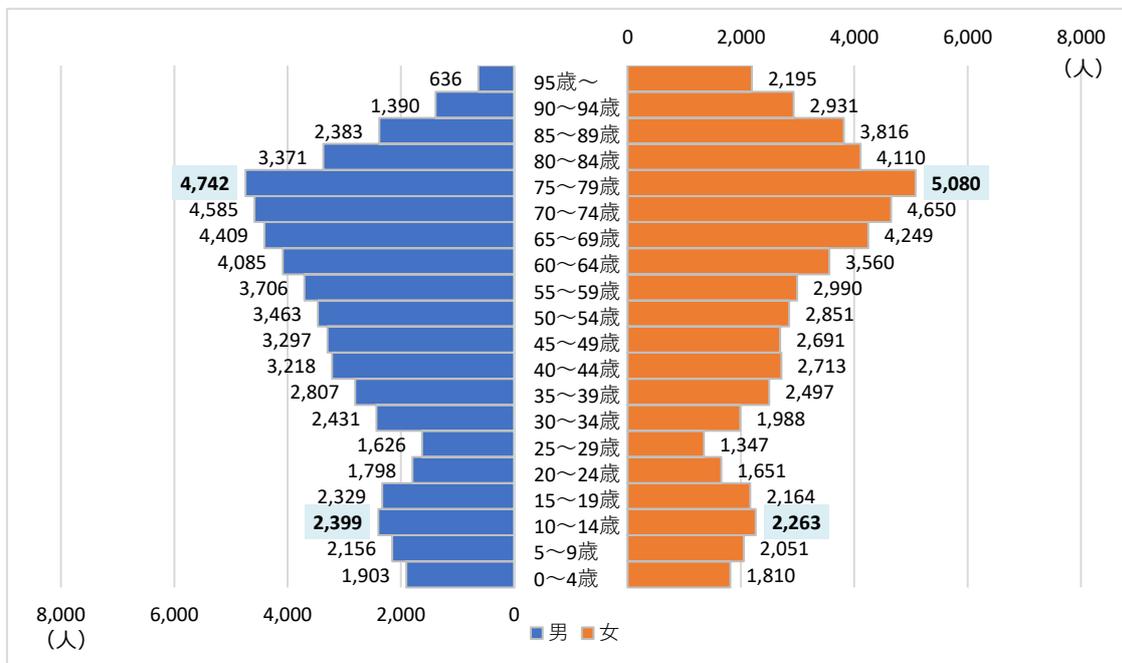


図表 2-104 伊賀地域 パターン②の年齢区分別比率

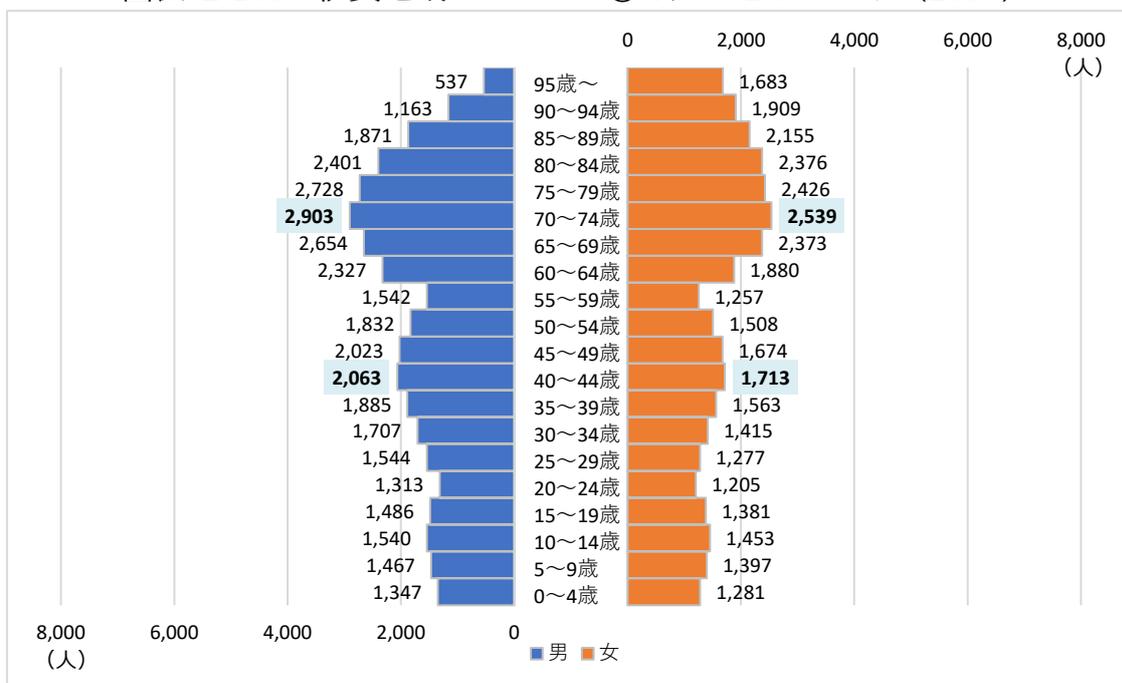


パターン②の 2050 年の人口ピラミッドは、10～14 歳、75～79 歳の 2 つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になる。2080 年には、40～44 歳、70～74 歳の 2 つの年代を頂点とし、25～29 歳以下はほぼ同程度の人口規模になると推計された。

図表 2-105 伊賀地域 パターン②の人口ピラミッド (2050)



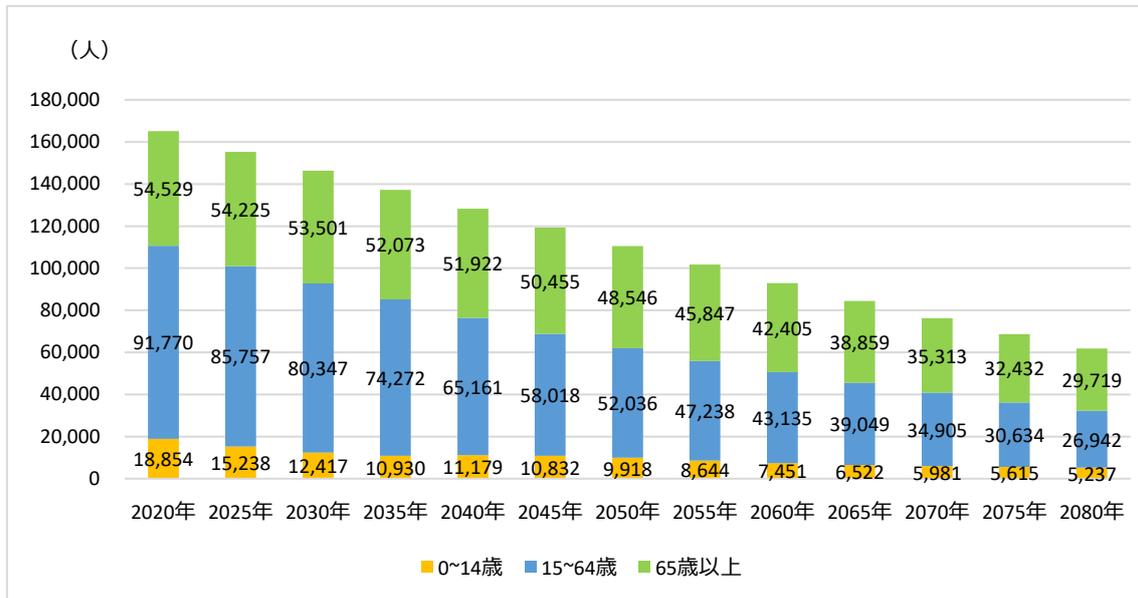
図表 2-106 伊賀地域 パターン②の人口ピラミッド (2080)



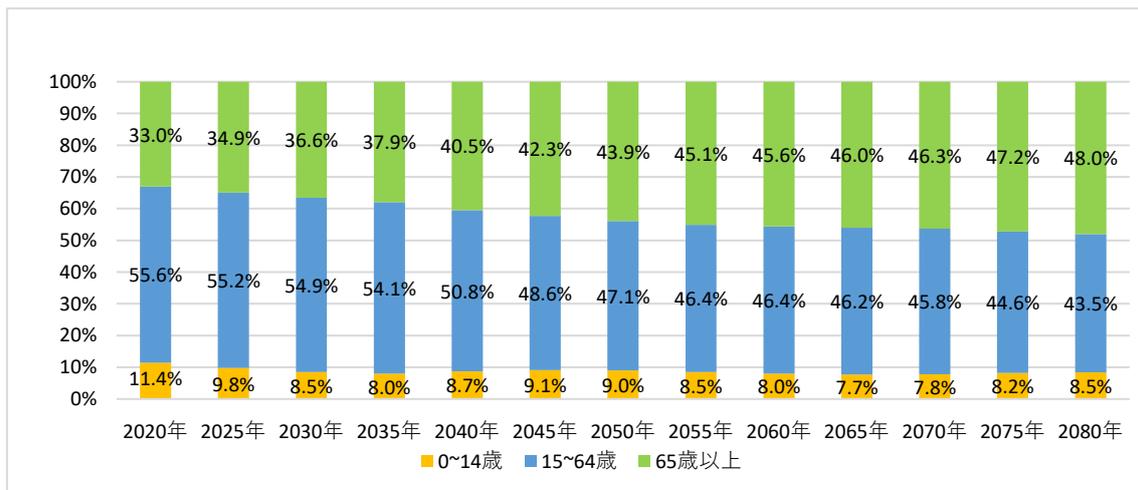
### 5) パターン③ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は5,237人、生産年齢人口は26,942人、老年人口は29,719人と推計された。また、年齢区分別比率では、伊賀地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口8.5%、生産年齢人口43.5%、老年人口48.0%になると推計された。

図表 2-107 伊賀地域 パターン③の年齢区分別人口

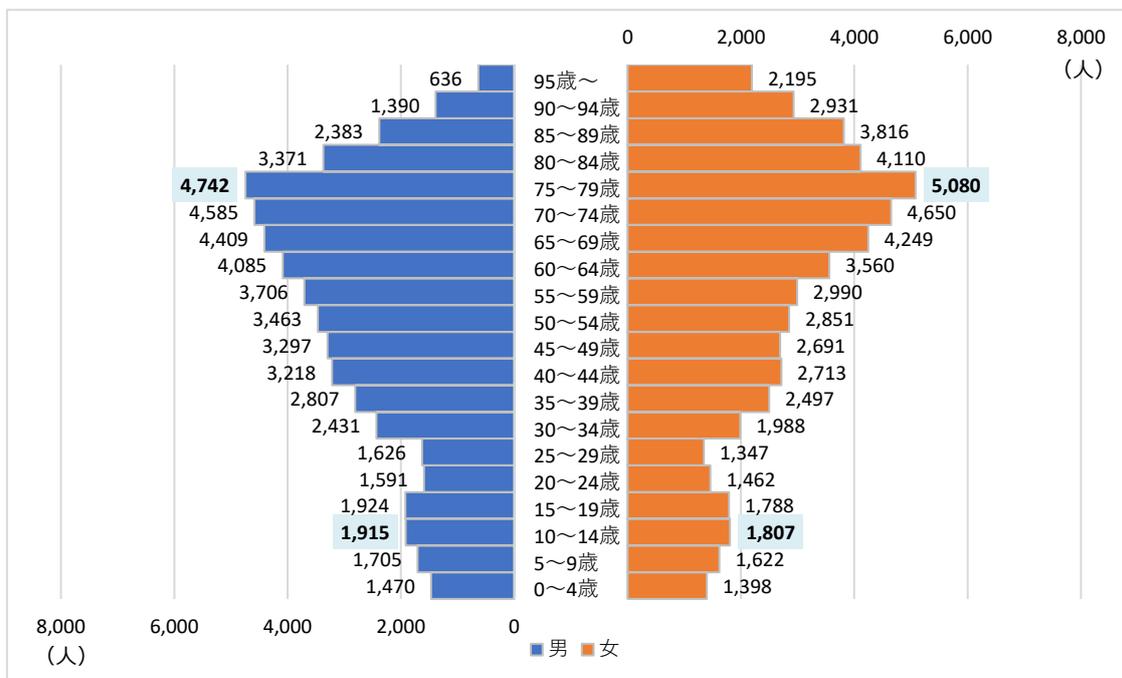


図表 2-108 伊賀地域 パターン③の年齢区分別比率

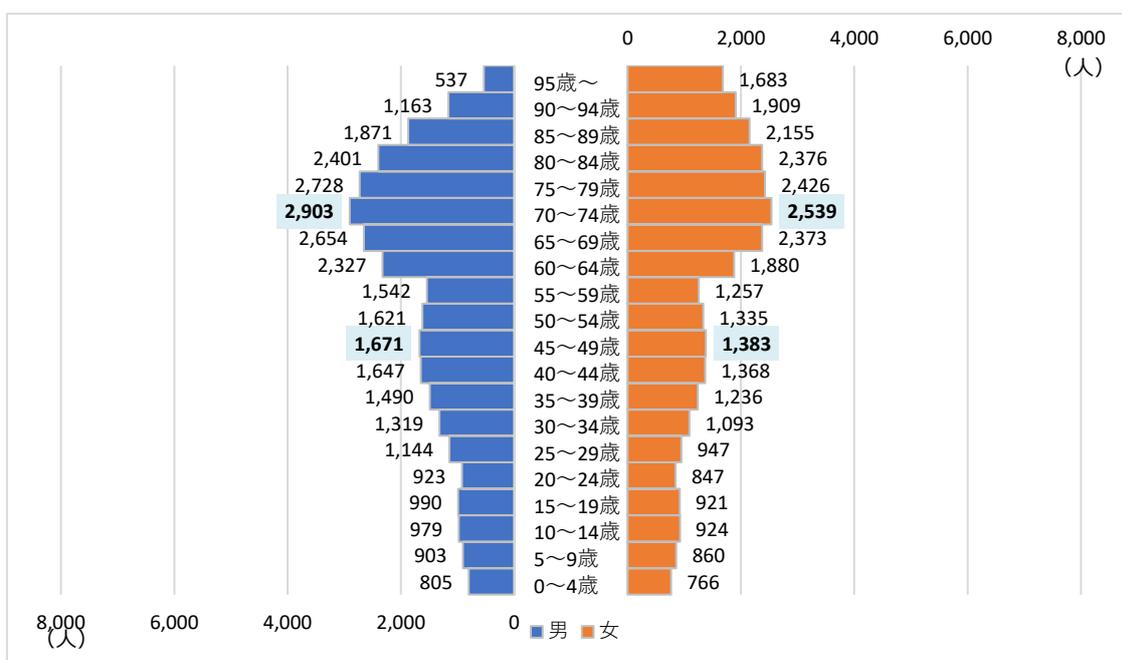


パターン③の2050年の人口ピラミッドは、10～14歳、75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になる。2080年には、45～49歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、25～29歳以下はほぼ同様の人口規模になると推計された。

図表 2-109 伊賀地域 パターン③の人口ピラミッド (2050)



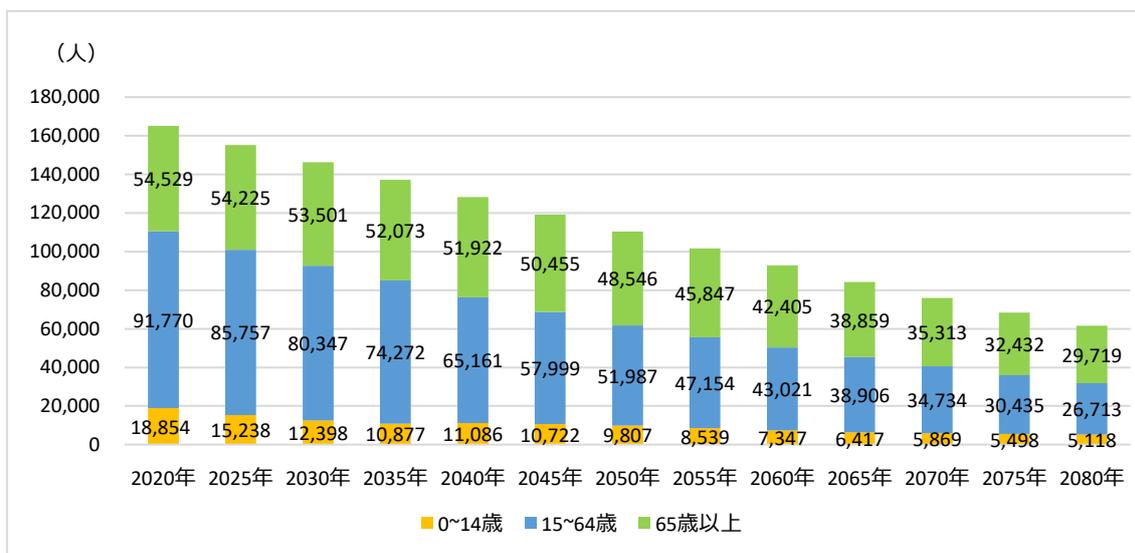
図表 2-110 伊賀地域 パターン③の人口ピラミッド (2080)



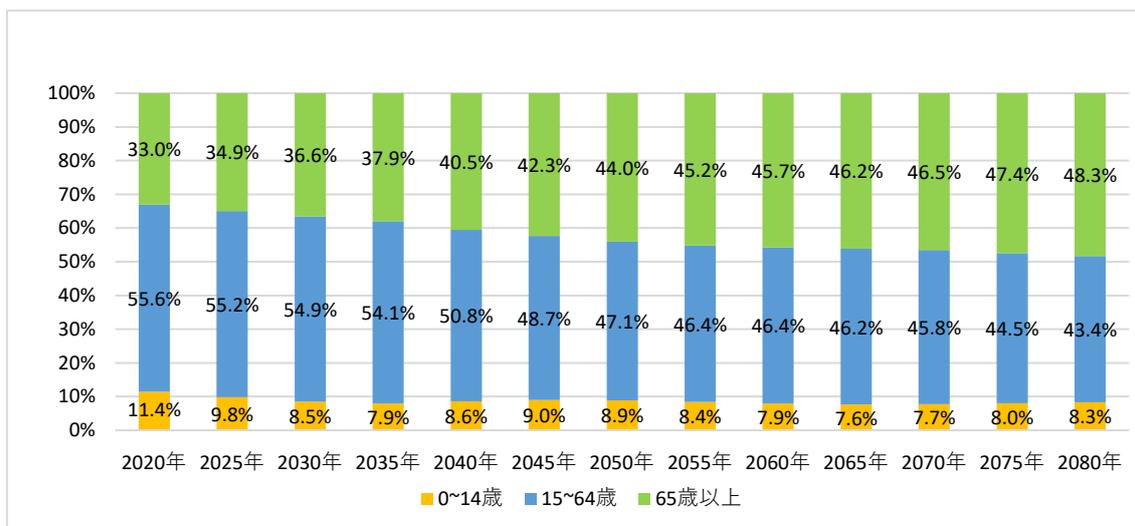
## 6) パターン④ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は5,118人、生産年齢人口は26,713人、老年人口は29,719人と推計された。また、年齢区分別比率では、伊賀地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口8.3%、生産年齢人口43.4%、老年人口48.3%になると推計された。

図表 2-111 伊賀地域 パターン④の年齢区分別人口

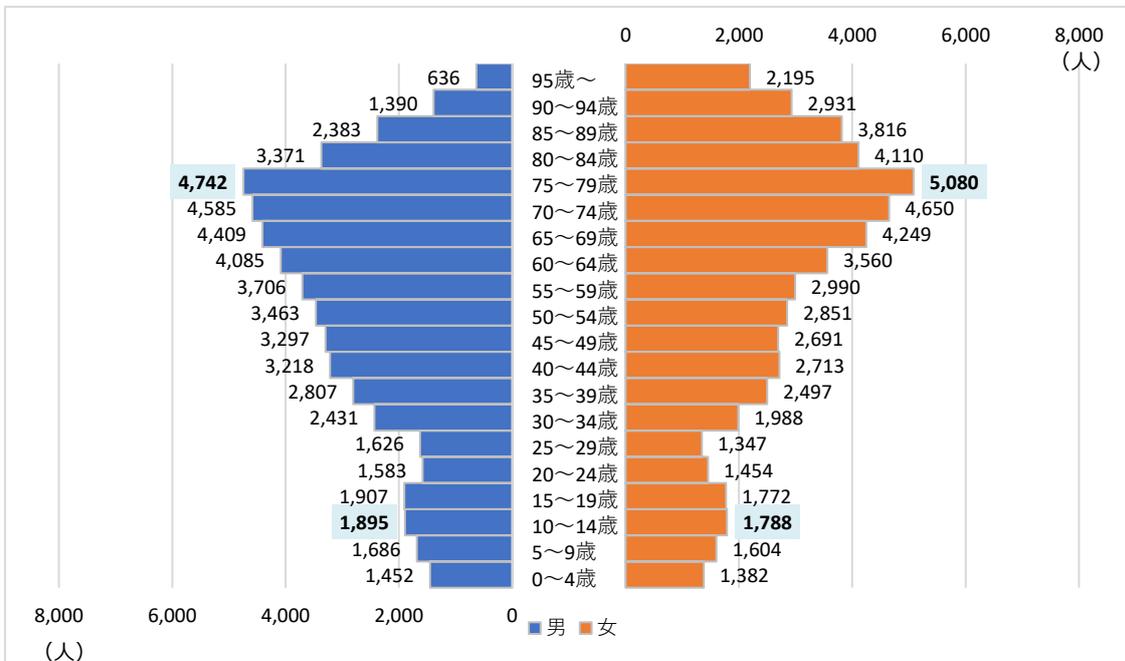


図表 2-112 伊賀地域 パターン④の年齢区分別比率

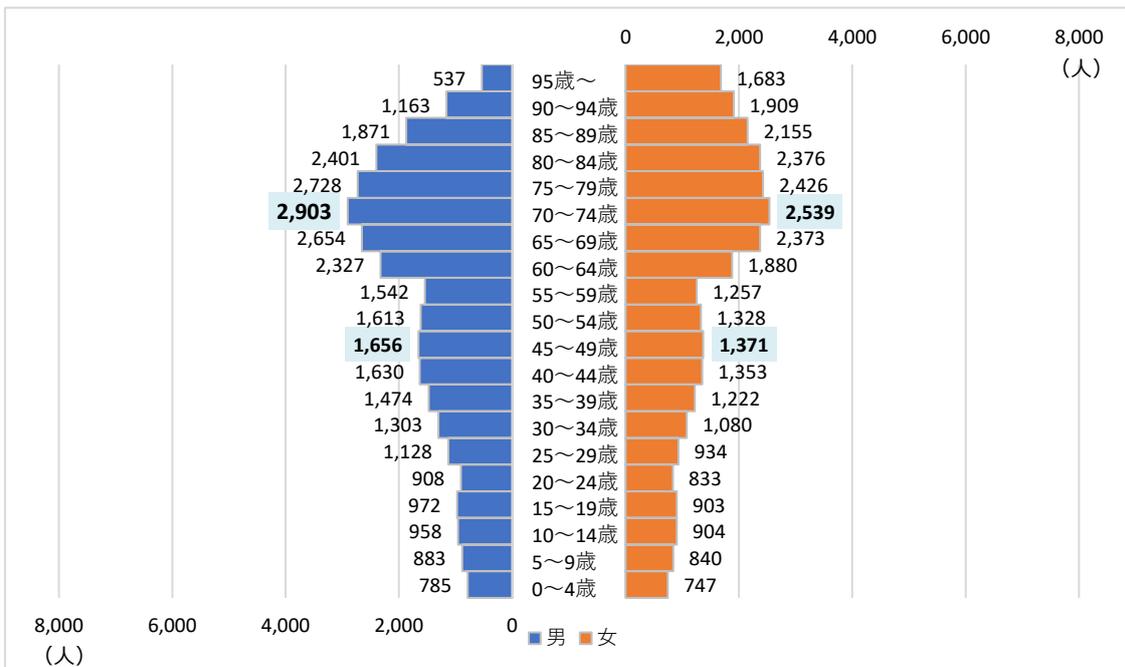


パターン④において、2050年の人口ピラミッドは、10～14歳、75～79歳の2つの年代を頂点とするひょうたん型に近い構造になる。2080年には、45～49歳、70～74歳の2つの年代を頂点とし、25～29歳以下はほぼ同様の人口規模になると推計された。

図表 2-113 伊賀地域 パターン④の人口ピラミッド (2050)



図表 2-114 伊賀地域 パターン④の人口ピラミッド (2080)



## (5) 東紀州地域

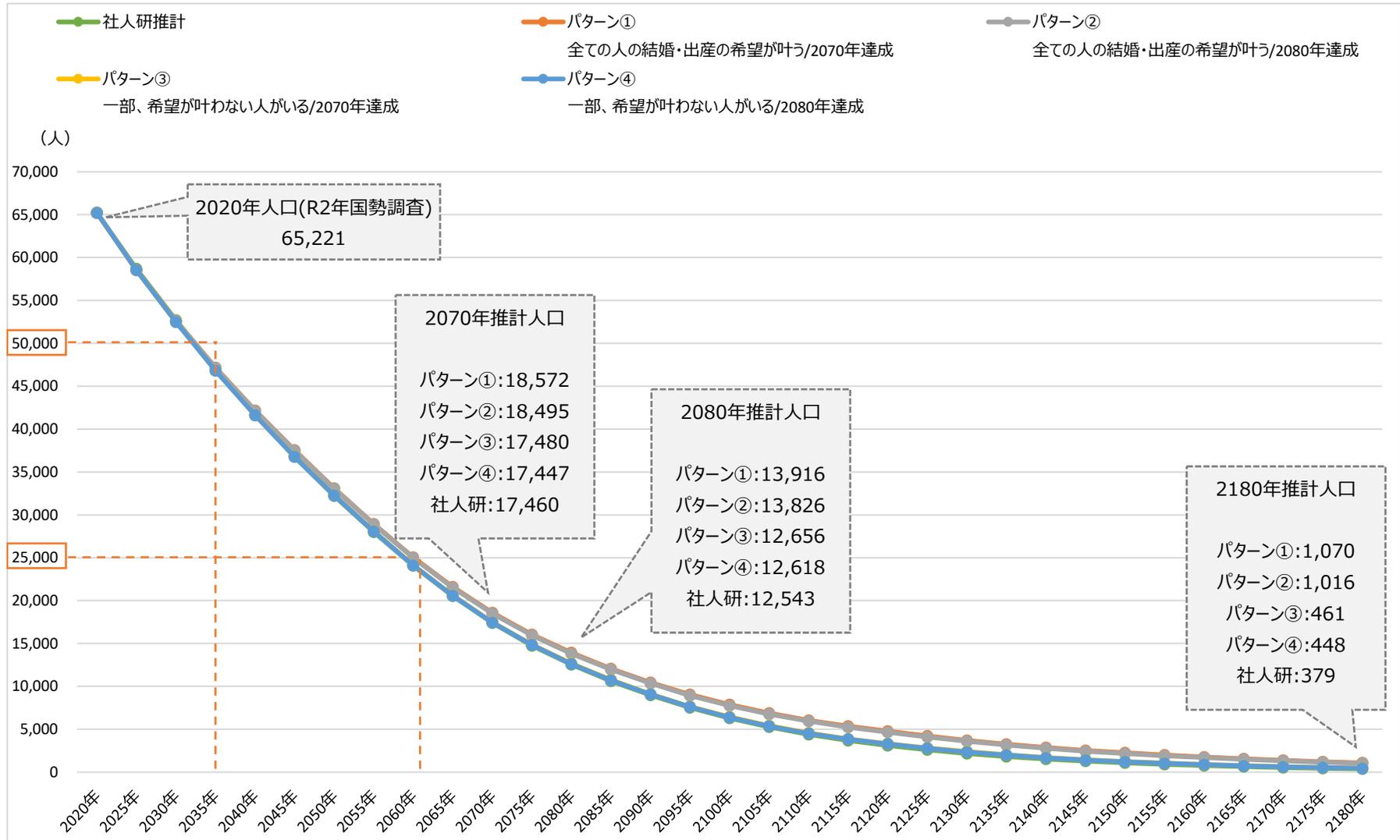
### 1) 総人口

令和2年国勢調査によると、東紀州地域の2020年時点での人口は65,221人である。社人研推計では、東紀州地域の総人口は2080年には12,543人、2180年には379人まで減少する見込み。

東紀州地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が2070年までに叶う場合（パターン①）、2080年に13,916人、2180年に1,070人と推計され、2080年までに叶う場合（パターン②）には2080年に13,826人、2180年に1,016人と推計された。

また、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合、2070年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン③）では2080年に12,656人、2180年に461人と推計され、2080年までに合計特殊出生率の仮定値に到達したパターン（パターン④）では、2080年に12,618人、2180年に448人と推計された。

図表 2-115 東紀州地域 推計パターン別の総人口



(単位：人)

推計パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
社人研推計	65,221	58,688	52,694	46,997	41,693	36,773	32,228	28,009	24,088	20,542	17,406
①	65,221	58,532	52,621	47,151	42,172	37,539	33,107	28,935	25,057	21,590	18,572
②	65,221	58,532	52,612	47,128	42,134	37,489	33,051	28,876	24,994	21,521	18,495
③	65,221	58,532	52,492	46,818	41,610	36,809	32,296	28,076	24,144	20,597	17,480
④	65,221	58,532	52,488	46,808	41,592	36,786	32,270	28,048	24,115	20,566	17,447

推計パターン	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年	2105年	2110年	2115年	2120年	2125年
社人研推計	14,761	12,543	10,637	8,980	7,528	6,301	5,258	4,391	3,684	3,101	2,605
①	16,042	13,916	12,070	10,453	9,041	7,860	6,865	6,038	5,352	4,762	4,211
②	15,958	13,826	11,976	10,355	8,940	7,756	6,757	5,928	5,242	4,653	4,106
③	14,857	12,656	10,758	9,102	7,651	6,431	5,402	4,555	3,873	3,313	2,822
④	14,821	12,618	10,719	9,062	7,610	6,390	5,360	4,513	3,831	3,273	2,784

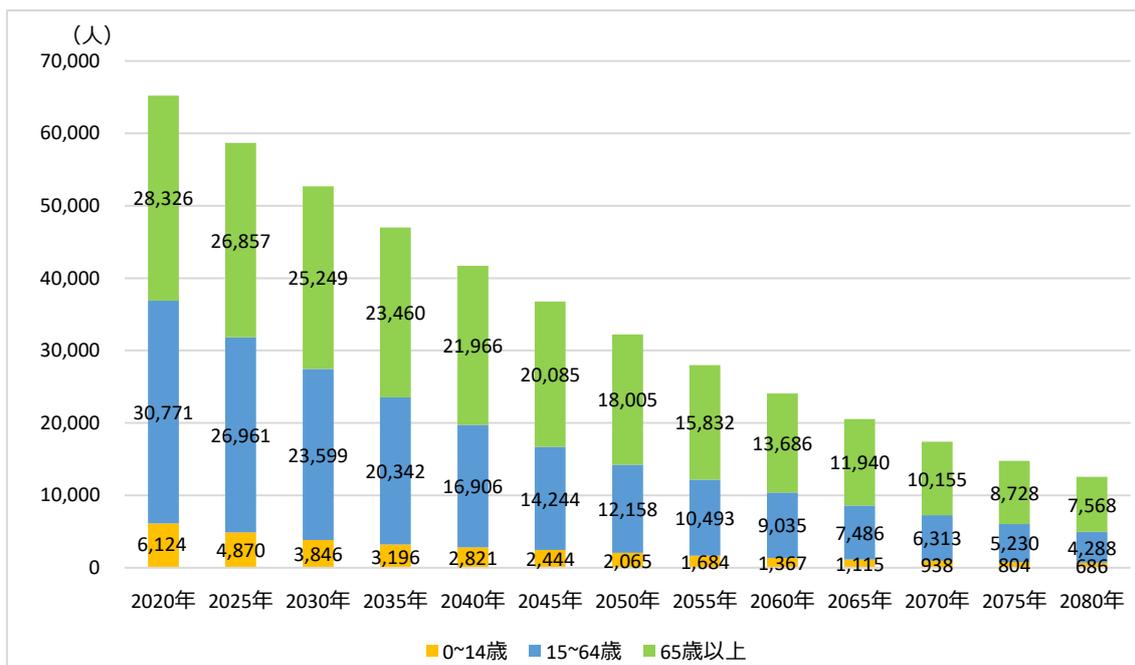
推計パターン	2130年	2135年	2140年	2145年	2150年	2155年	2160年	2165年	2170年	2175年	2180年
社人研推計	2,181	1,821	1,523	1,276	1,073	904	760	639	536	451	379
①	3,701	3,248	2,859	2,527	2,240	1,986	1,757	1,550	1,368	1,208	1,070
②	3,600	3,151	2,767	2,440	2,157	1,908	1,684	1,483	1,305	1,150	1,016
③	2,388	2,013	1,700	1,441	1,226	1,045	889	755	639	542	461
④	2,353	1,981	1,670	1,413	1,201	1,022	869	736	623	527	448

※表中赤字箇所は、各パターンにおいて総人口5万人を初めて下回った年次を示す。

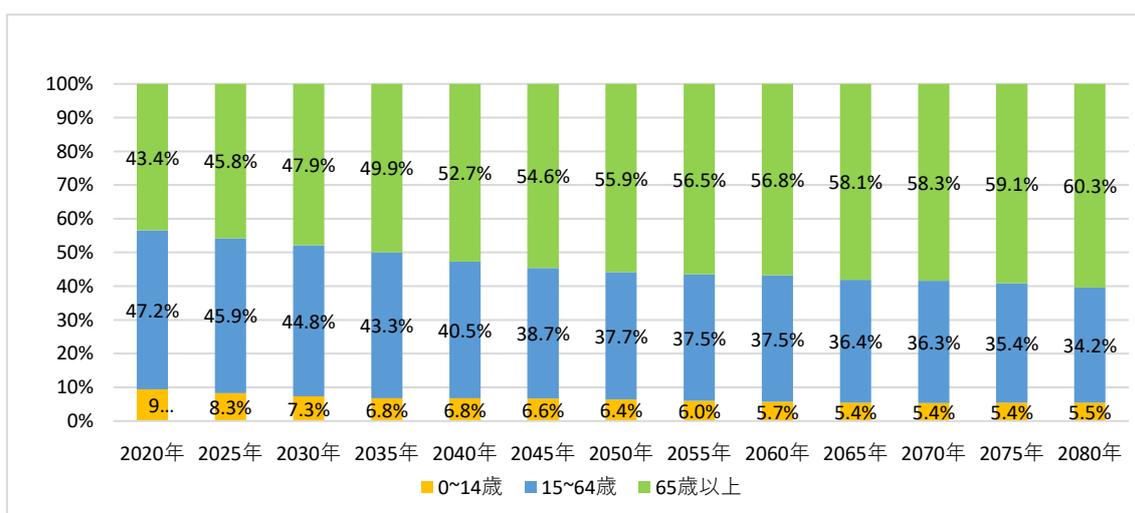
## 2) 社人研推計

社人研推計では、2080年の年少人口は686人、生産年齢人口は4,288人、老年人口は7,568人と推計された。年齢区分別比率では、東紀州地域における老年人口の比率は増え続け、2080年には年少人口5.5%、生産年齢人口34.2%、老年人口60.3%になると推計された。

図表 2-116 東紀州地域 社人研推計の年齢区分別人口



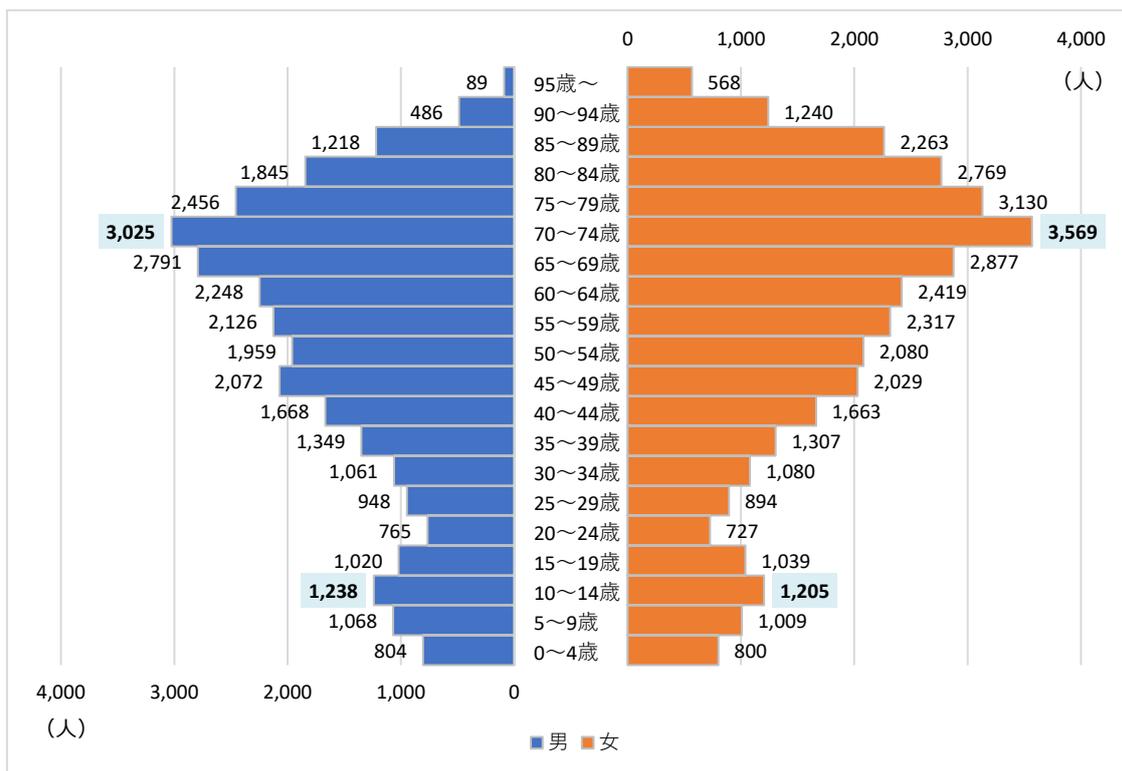
図表 2-117 東紀州地域 社人研推計の年齢区分別比率



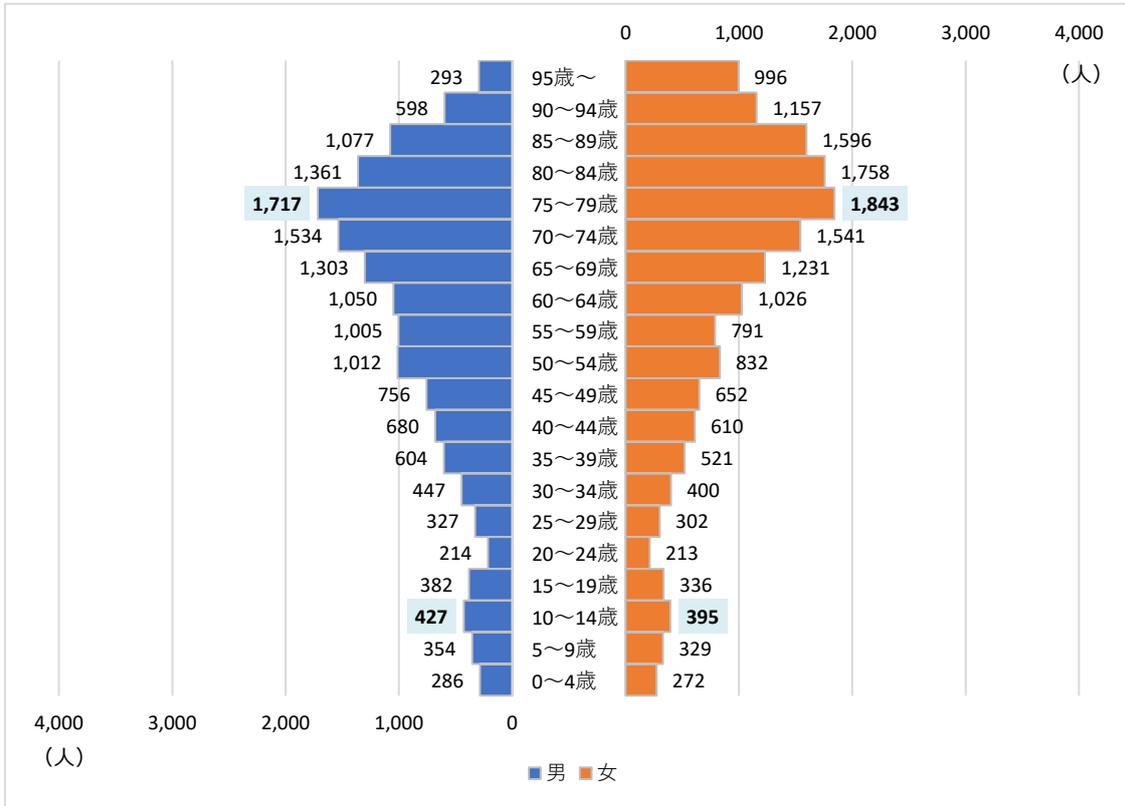
2020年の東紀州地域の人口ピラミッドは、70～74歳が極端に大きく、10～14歳に小さな頂点を持つひょうたん型に近い構造である。

社人研推計のピラミッドでは、2050年には10～14歳に小さな頂点を持ち、75～79歳をピークとする細いひょうたん型に近い構造になる。2080年のピラミッドでは、80～84歳を頂点とし、それ以下の年代で次第に人口規模が縮小していくと推計された。

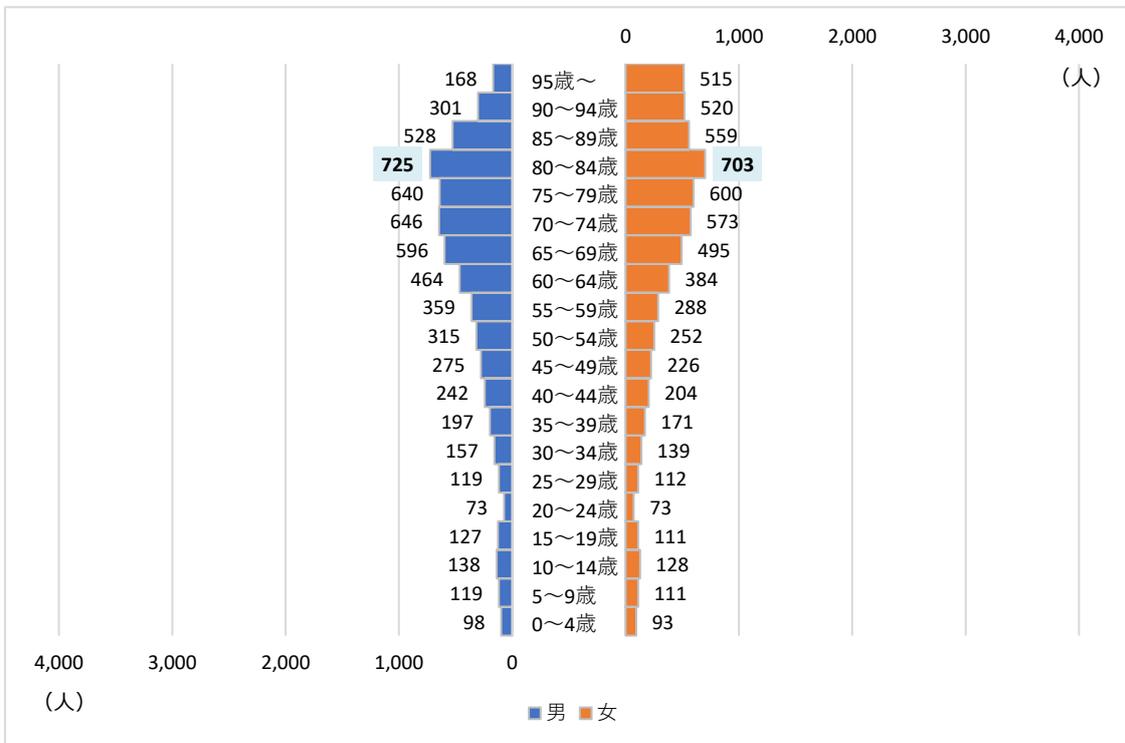
図表 2-118 東紀州地域 社人研推計の人口ピラミッド（2020年）



図表 2-119 東紀州地域 社人研推計の人口ピラミッド (2050年)



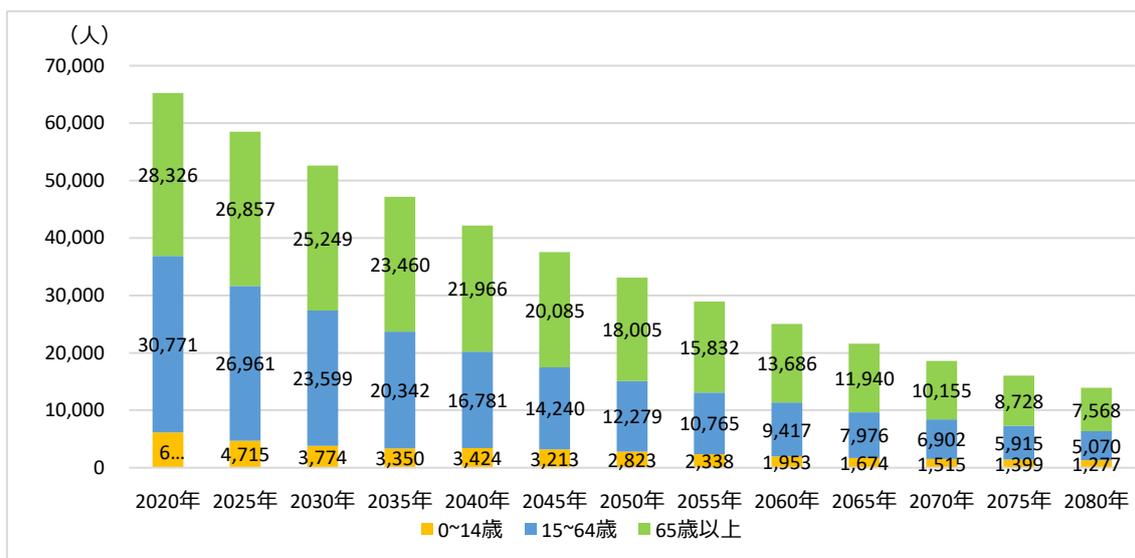
図表 2-120 東紀州地域 社人研推計の人口ピラミッド (2080年)



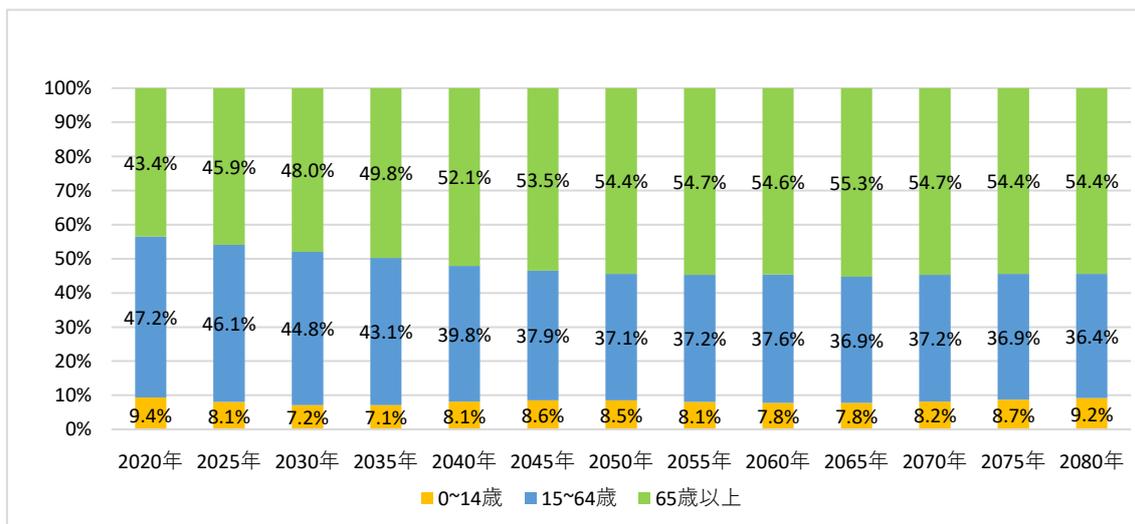
### 3) パターン① 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年までに東紀州地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶う場合、2080年の年少人口は1,277人、生産年齢人口は5,070人、老年人口は7,568人と推計された。年齢区分別比率では、東紀州地域における老年人口の比率は2065年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口9.2%、生産年齢人口36.4%、老年人口54.4%になると推計された。

図表 2-121 東紀州地域 パターン①の年齢区分別人口

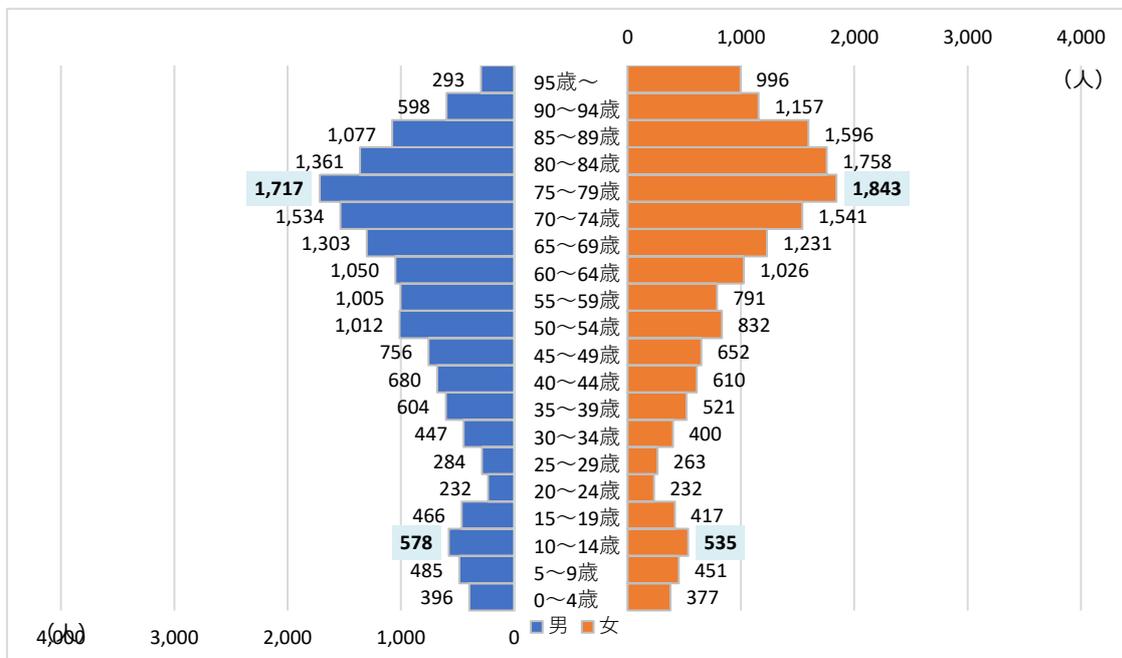


図表 2-122 東紀州地域 パターン①の年齢区分別比率

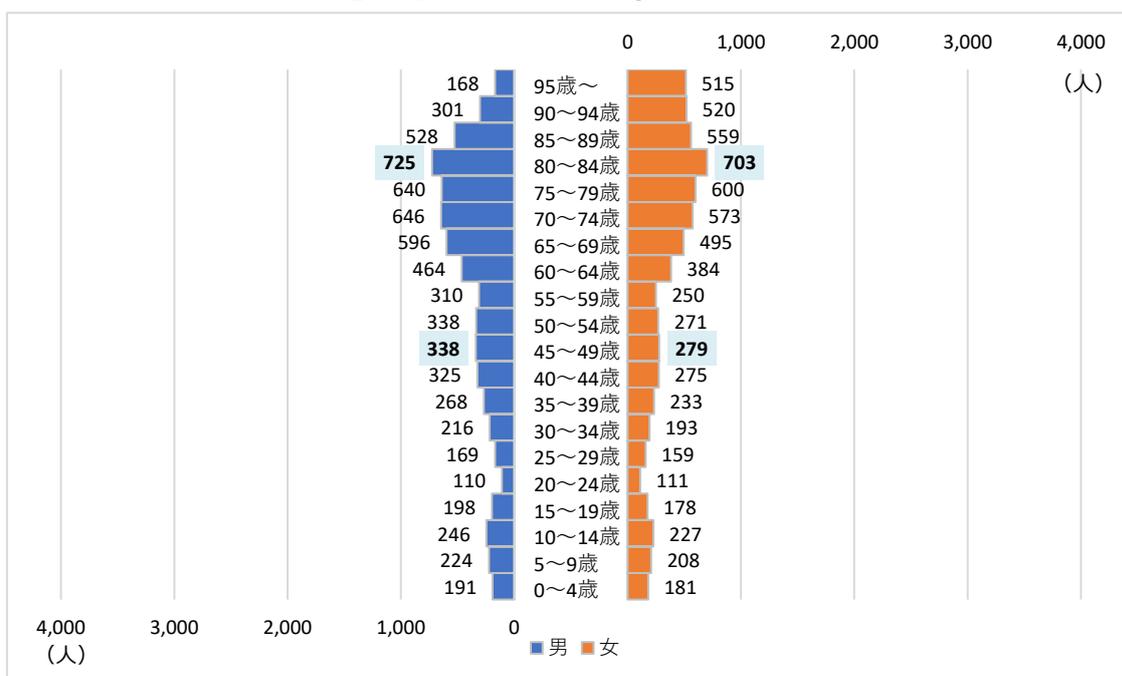


パターン①の2050年のピラミッドは、75～79歳をピークとする細いひょうたん型になる。2080年のピラミッドでは、45～49歳、80～84歳の2つの年代を小さな頂点とし、30～34歳以下の年代では、各年代の人口が男女合わせて500人以下と極端に少ない構造になると推計された。

図表 2-123 東紀州地域 パターン①の人口ピラミッド (2050)



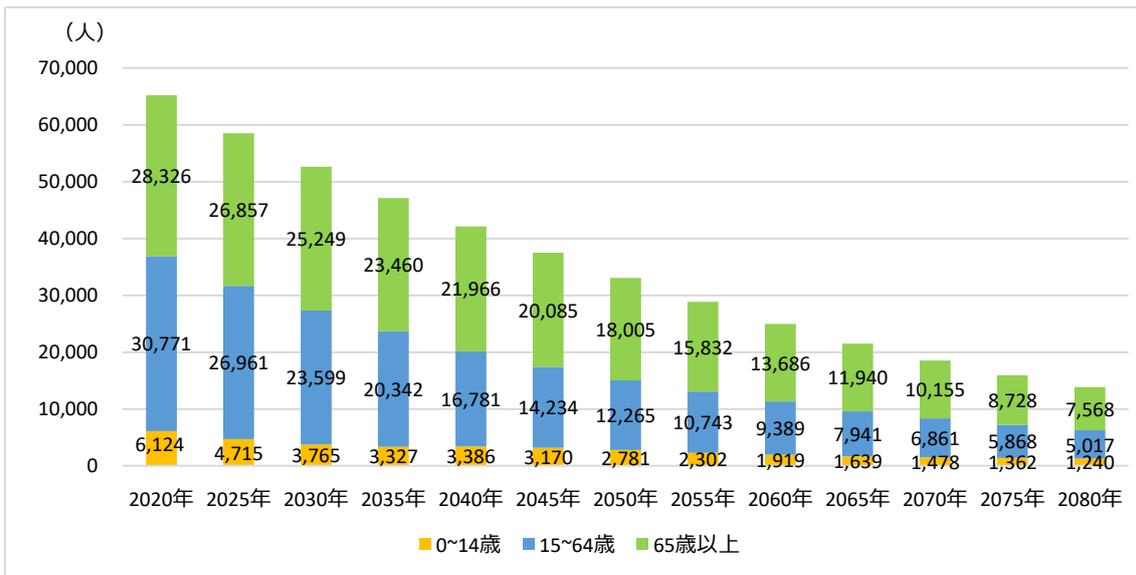
図表 2-124 東紀州地域 パターン①の人口ピラミッド (2080)



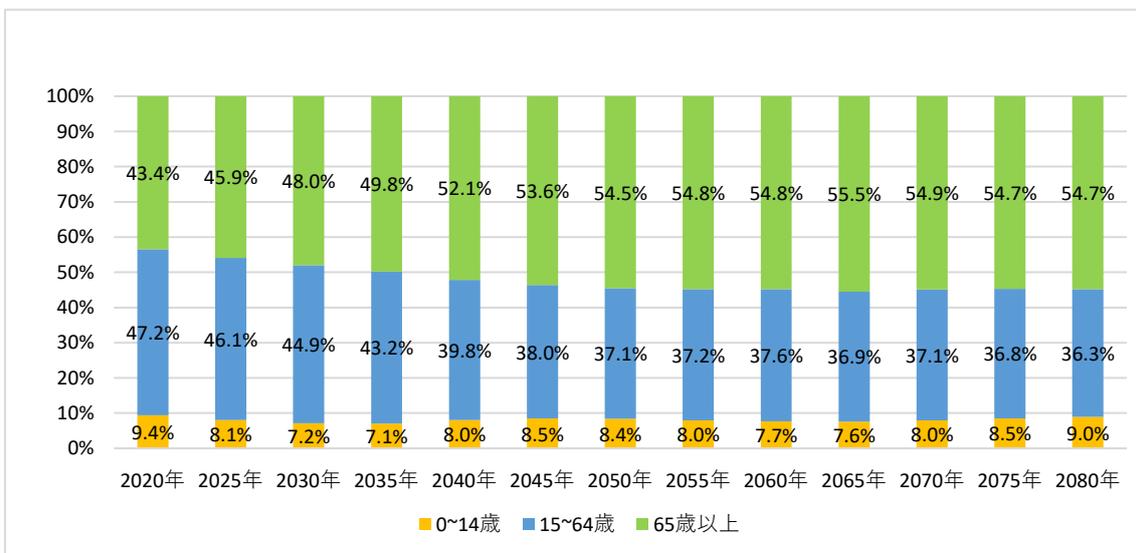
#### 4) パターン② 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年までに東紀州地域に居住するすべての女性の結婚・出産の希望が叶った場合、2080年には年少人口は1,240人、生産年齢人口は5,017人、老年人口は7,568人と推計された。年齢区分別比率では、東紀州地域における老年人口の比率は2065年以降ゆるやかに減少し、2080年には年少人口9.0%、生産年齢人口36.3%、老年人口54.7%になると推計された。

図表 2-125 東紀州地域 パターン②の年齢区分別人口

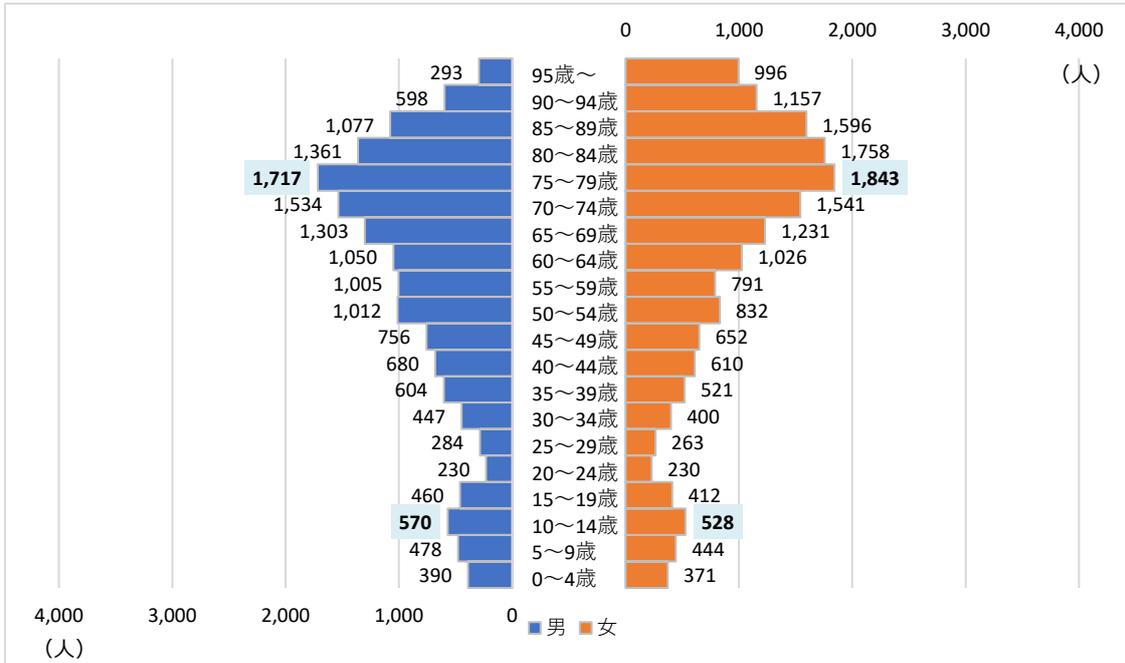


図表 2-126 東紀州地域 パターン②の年齢区分別比率

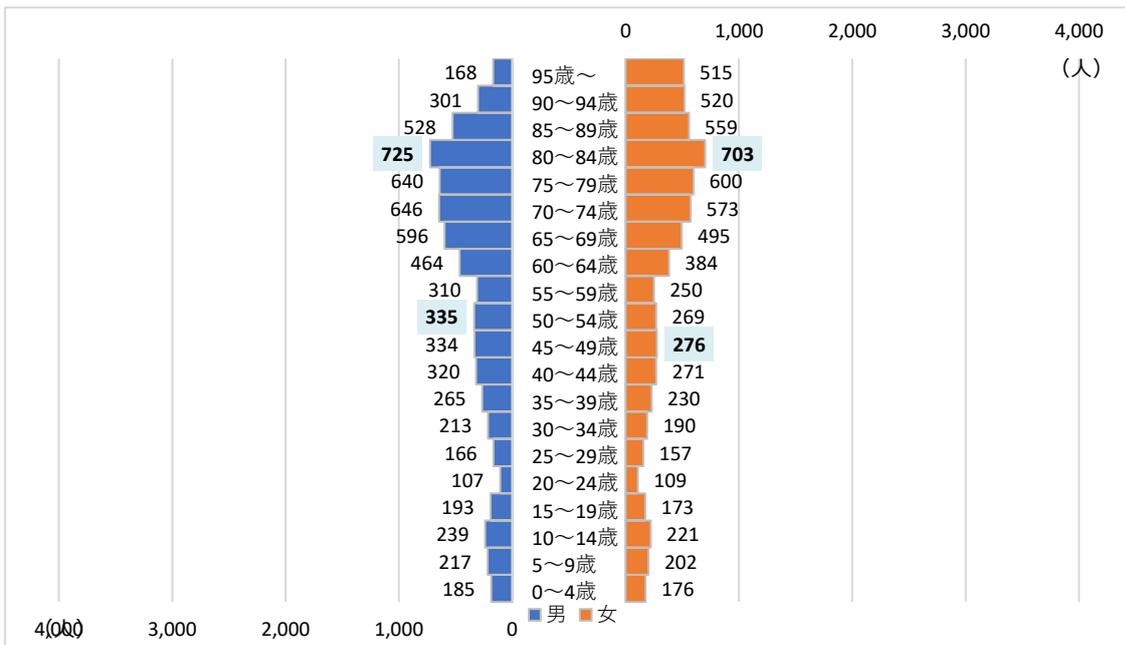


パターン②の2050年の人口ピラミッドは、75～79歳をピークとする細いひょうたん型に近い構造になる。2080年のピラミッドでは、45～54歳、80～84歳の2つの年代を小さな頂点とし、35～39歳以下の年代は、各年代の人口は男女合わせて500人以下と極端に少ない構造になると推計された。

図表 2-127 東紀州地域 パターン②の人口ピラミッド (2050)



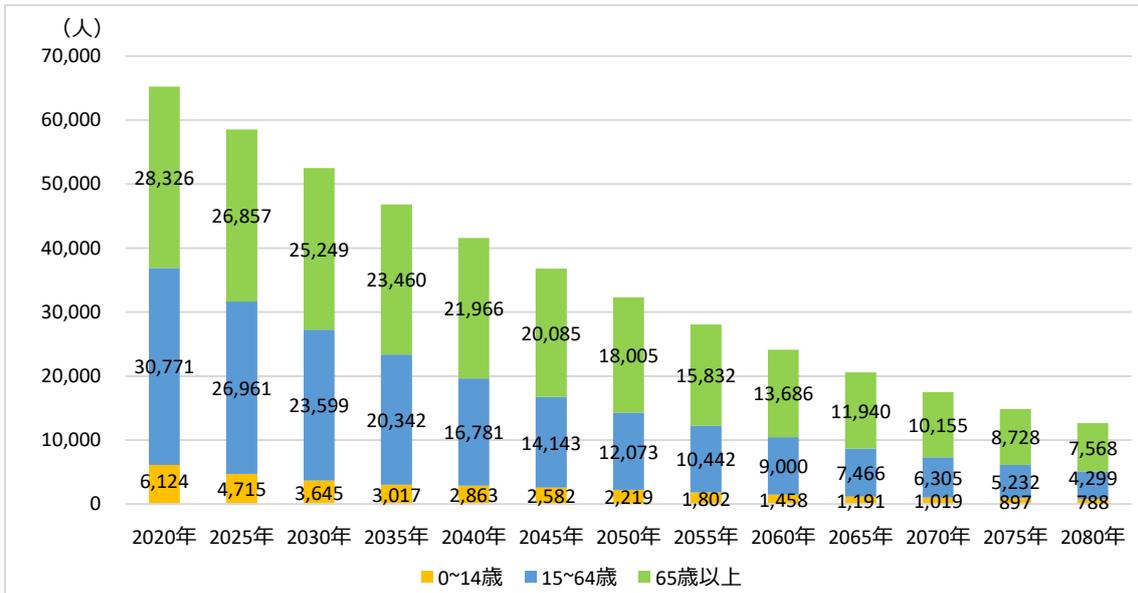
図表 2-128 東紀州地域 パターン②の人口ピラミッド (2080)



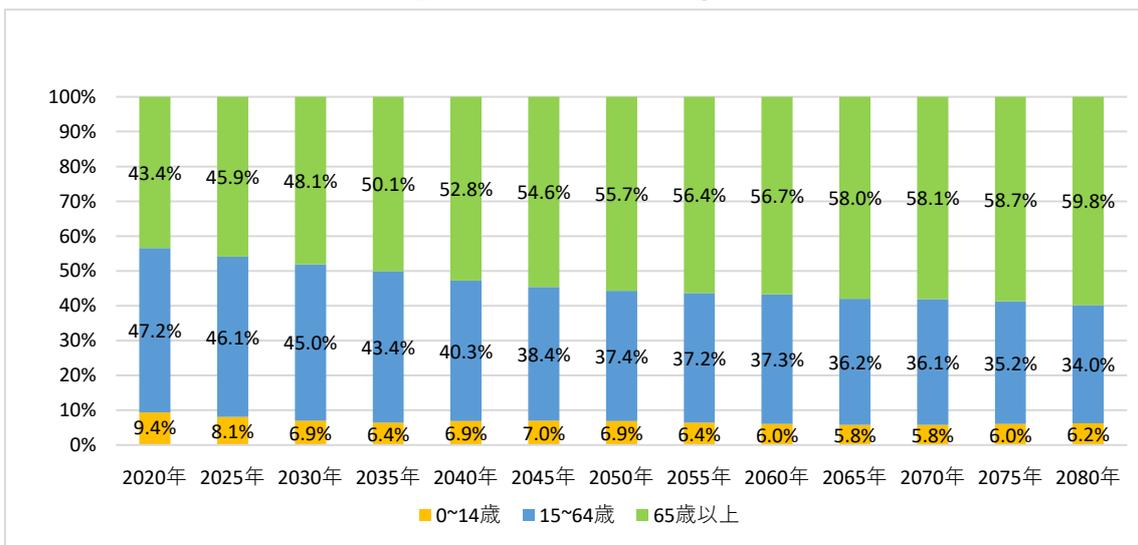
### 5) パターン③ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2070年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は788人、生産年齢人口は4,299人、老年人口は7,568人と推計された。また、年齢区分別比率では、東紀州地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口6.2%、生産年齢人口34.0%、老年人口59.8%になると推計された。

図表 2-129 東紀州地域 パターン③の年齢区分別人口

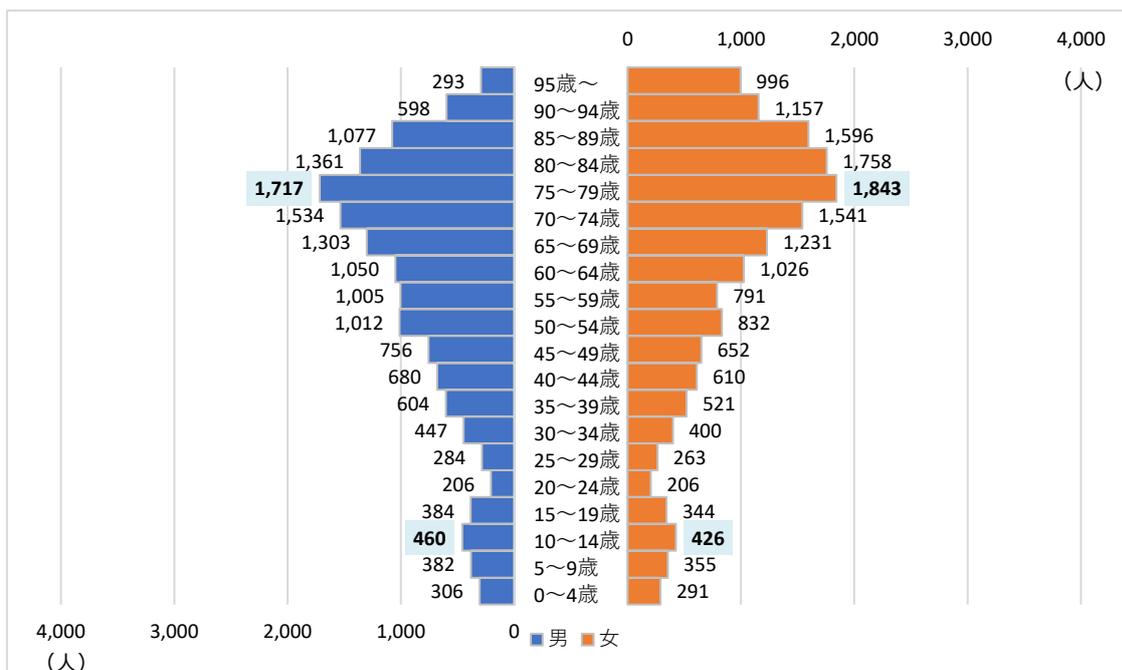


図表 2-130 東紀州地域 パターン③の年齢区分別比率

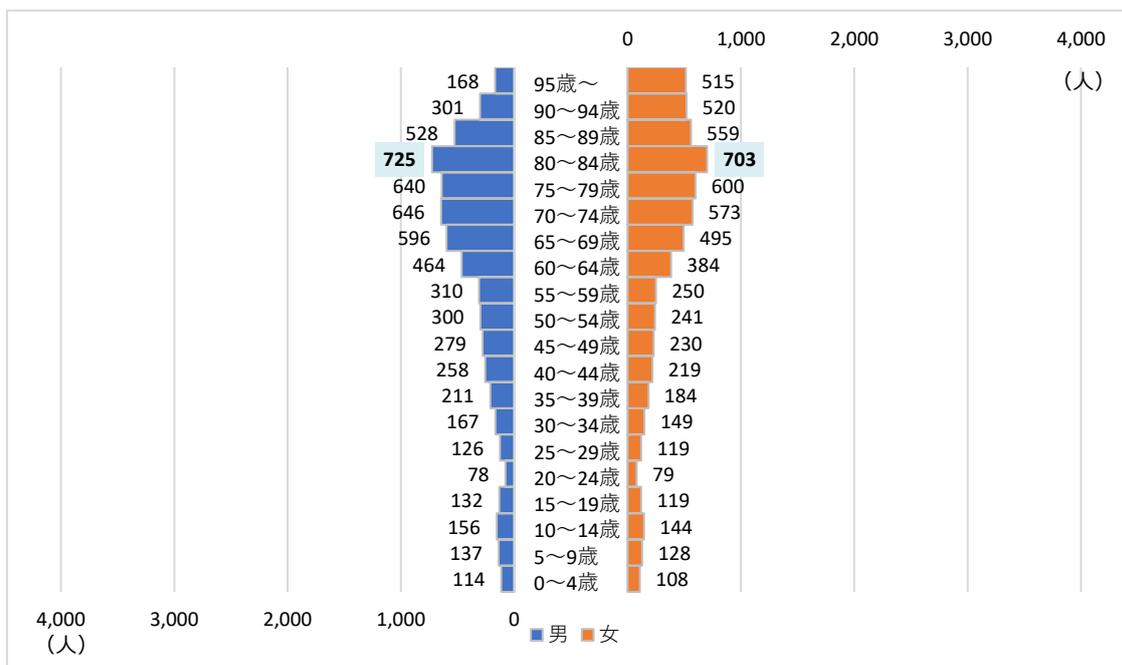


パターン③の2050年の人口ピラミッドは、75～79歳をピークとする細いひょうたん型に近い構造になる。2080年のピラミッドでは、80～84歳を小さな頂点としてそれ以下の人口規模は次第に縮小していき、35～39歳以下の年代は各年代の人口が男女合わせて400人以下と極端に少ない構造になると推計された。

図表 2-131 東紀州地域 パターン③の人口ピラミッド (2050)



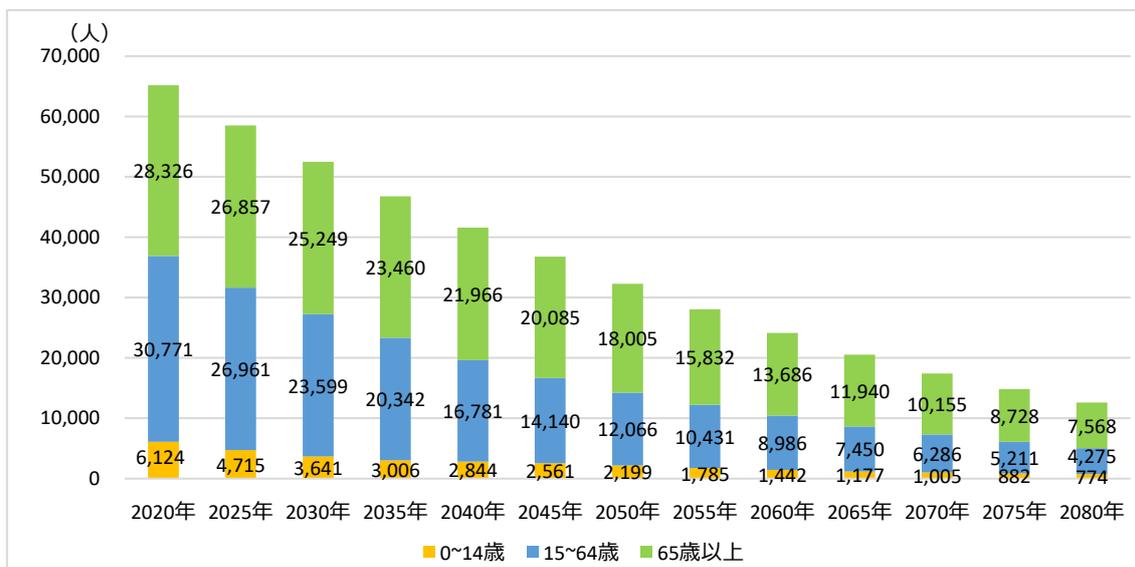
図表 2-132 東紀州地域 パターン③の人口ピラミッド (2080)



## 6) パターン④ 年齢区分別人口／割合と人口ピラミッド

2080年に、行政の施策では要因の解消が難しい層を含まない場合の合計特殊出生率の仮定値に到達したパターンにおいて、2080年の年少人口は774人、生産年齢人口は4,275人、老年人口は7,568人と推計された。また、年齢区分別比率では、東紀州地域における老年人口の比率は2080年まで増え続け、2080年の年齢区分別比率は年少人口6.1%、生産年齢人口33.9%、老年人口60.0%になると推計された。

図表 2-133 東紀州地域 パターン④の年齢区分別人口

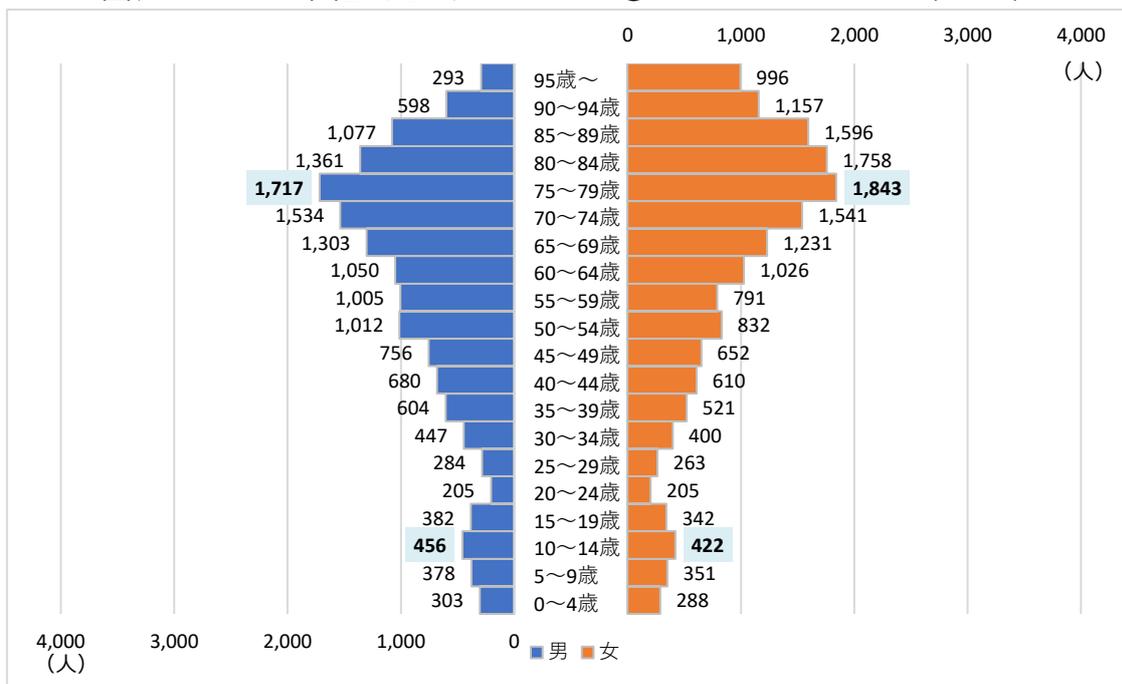


図表 2-134 東紀州地域 パターン④の年齢区分別比率



パターン④の2050年の人口ピラミッドは、75～79歳をピークとする細いひょうたん型に近い構造になる。2080年のピラミッドでは、80～84歳を小さな頂点としてそれ以下の人口規模は次第に縮小していき、35～39歳以下の年代は各年代の人口が男女合わせて400人以下と極端に少ない構造になると推計された。

図表 2-135 東紀州地域 パターン④の人口ピラミッド (2050)



図表 2-136 東紀州地域 パターン④の人口ピラミッド (2080)

